

七 東支鐵道管理問題 三七六

支那トノ關係ニ於テ余リ深入リセザル方可然此際ハ大体
第二方策ヲ可トス

一、洮齊線ハ四国団トノ關係上考慮ヲ要スル点不尠他日ノ
問題ト致度

一、哈爾濱以南線改築ノ件、事容易ナラズ賓黒線トノ關係
ト共ニ徐ニ考慮シタシ後者ニ対スル正金關係ノ持続ハ差
向工夫ヲ要ス

一、北滿進出固ヨリ望マシキモ南滿充実亦肝要也長春大賚
線、開海線、吉会線ノ順序ニテ促進方考慮ヲ要ス

一、東支線カ白ノ手ニアル間往年ノ日露密約ハ常ニ念頭ニ
置クコト必要也 出淵

三七六 十一月三十日 在長春西領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

赤軍ニヨル東支鐵道奪取計画ニ關スル件
機密公第四二八号 (十二月十日接受)

大正十二年十一月三十日

在長春

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿
領事 西 春彦(印)

五四八

大正十二年十一月三十日付長領高警第二八六九号

ノ一 当館警察署長報告写送付

赤軍ノ東支鐵道奪取計画ニ關スル件

写送付先 在支公使 在奉天總領事

赤軍東支鐵道奪取計画ニ關スル件

去二十五日東支護路總司令ヨリ吉林督軍署ニ達シタル電報
ニ曰ク

去二十五日滿州里特別区域第五警察署長趙春芳ノ報告ニ該
署露國人警官「ペクロテン」(別大洛聽) 及探偵「ココウ
チンス」(客稿近思)ノ報告ニ依レバ今回ノ露支會議不成
立ノ際ハ露國ハ武力ヲ以テ支那ヲ牽制シ東支鐵道ヲ占領セ
ントスルノ議アリ現ニ勞農政府ハ東支鐵道沿線一帶ノ露國
人召集令ヲ發シテ歸國セシメ正式軍隊ヲ編成シテ別々辺境
ニ集メ機ヲ見テ東支鐵路ヲ奪取セント準備シツツアリ此
ノ報告ハ未タ遽ニ信シ難キヲ以テ適當ナル露人ハ警察員三
名(「プラニロフ」、「スマク」、「ロート」)ヲ狩獵者ニ変裝
セシメテ國境吉虛猱河(「チラリン」河?) 阿齊古納阿巴
該圖(「アパカイト」?) 地方ニ派シ其ノ実否ヲ調査セシ
メツツアリ

事項八 關東大震災關係

1 各国ノ救恤關係

三七七 九月三日 在米國壇原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

日本ノ震災ニ対シ米國民ハ赤十字ヲ通ジテ助
カラ尽サンコトヲ望ム旨ノ大統領布告ニ關シ

謝意表明ノ件

第五四二号 (佐世保經由九月七日接受)

九月三日午後大統領ハ本邦今回ノ震災ニ対シ米國民ハ「ア
メリカン・レッド・クロス」ヲ通ジテ日本ニ対シ出来得ル
限リノ助力ヲ尽サン事ヲ希望ストノ布告ヲ發シ以テ米國民
ノ同情ニ訴フル処アリタルガ三日午前本使ハ國務長官代理
ニ会见シ日本(不明)ニ対シ感謝ノ意ヲ表シタル際同長官
代理ハ右布告ニ關シ本使ノ内意ヲ質シタルニ付右ハ日本政
府及國民ノ深ク感謝スル処ナルベク更ニ今回ノ災厄ニ対ス
ル米國大統領始メ朝野一般ノ表示セル同情ハ之ヲ本國ニ伝
達スル為所有方法ヲ尽シツツアル旨回答スルト共ニ大統領

八 關東大震災關係 三七七 三七八

ニ謝意傳達方依頼シ置ケリ

(佐世保經由 吾妻携帶電)

三七八 九月四日 在米國壇原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

米國ニテ計畫中ノ日本震災ノ救援方法ニ關シ
日本側ノ希望要件問合ノ件

第五四九号 (九月七日接受)

今月四日招ニ依リ赤十字当局者タル商務卿「フーバー」其ノ
他ト協議シタル処先方ハ本邦今回ノ震災ニ対シ出来得ル限
リノ救援ニ尽力スル意気込ニテ既ニ不取敢國務省ヲ通シ米
國赤十字社最初ノ寄付金十萬弗ヲ日本赤十字社ニ送付スル
手續ヲ執レルカ猶ホ今後出来得レハ五百萬弗ヲ標準トシテ
米國一般公衆ヨリ大至急寄付金募集ニ着手シタキ趣旨ニテ
本使ノ意見ヲ求メタル次第ナルカ米國ニ於ケル救援計畫カ
万一ニモ早計ニ失シ又ハ出過キタリト云フ如キ感触ヲ日本
側ニ与フル様ノコトアリテハ後日赤十字当局ニ於テ甚タ面
白カラヌ立場ニ立ツヘク此点ニ關シ先ツ腹藏ナキ意見承知

五四九

八 関東大震災関係 三七九

シタシト述ヘタルニ付本使ハ如斯心配毛頭ナク此際米國ノ進ンテ提供セラルル救援ハ日本政府及国民ニ於テ深甚ノ感謝ヲ以テ受納セラルヘキコト疑ナク右ハ本使ノ確言シ得ル処ナル旨述ヘ置ケリ更ニ先方ニテハ未タ災害状況ノ確報ナキ為成ルヘク多クヲ現金ニテ送ルヘキカ又ハ物資ヲ購入輸入送スルトシテモ如何ナル品物カ最モ必要ナルヘキヤ惑ヒ居ル趣ニ付本使ハ大体國務長官代理ニ話シ置キタル通り緊急必要ノモノトシテハ米其ノ他ノ食糧木材天幕医薬用品及毛布類ナルヘシト思ハルナルリ尚先方ノ考トシテハ日本ニハ赤十字社其ノ他有力団体アリ従ッテ人手ノ点ニ於テハ不足ナルカヘシト思ハルルニ付差当リ医者看護婦等ハ派遣セサル考ナルモ同時ニ若シ日本側ヨリ右派遣方特ニ希望申出アラハ何時ニテモ之ニ応スル手配ヲ為スヘキニ付此点明白ニシ置カレタシト念ヲ押シ申出アリ又日本トノ通信開通セハ一日モ早く前記ノ現金物資ノ孰レヲ最モ便利ナリトスルヤ若シ物資トセハ必要品ノ種類程度及是等物品ハ日本付近ノ何処ニテ最モ急速且有効ニ取揃ヘ得ヘキヤヲモ併セ承知シタキ旨申出アリ依テ本使ハ先方ノ好意ヲ謝シ日本ヨリ通信アリ次第前記ノ点ノ通報方(脱)日本政府及国民ヲシテ充分

ニ集注セシメル様取計中ナリ右ハ本邦一般公衆ニ周知方御取計相成様致シタシ

三八〇 九月四日 在奉天船津總領事ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

吉林督軍等今回ノ震災ニ対シ同情ヲ表明ノ件
第一七七号 (九月六日接受)

吉林督軍孫烈臣黒竜江督軍吳俊陞ハ九月四日本官ヲ来訪シ本邦今回ノ震災ニ対シ深甚ナル同情ヲ表シ且此際右兩省ニテモ本邦罹災民救済ニ関シ適當ナル方法相談中ナルカ何レ確定次第改メテ何分ノ儀申シ出ツヘシト述ヘ又總參議楊宇霆同日特ニ来訪震災見舞ノ挨拶ヲ述ヘタル後張總司令ハ東三省ノ需要ヲ満シ尚余裕アル場合ハ此際日本ニ対シテノミ防穀令ヲ適用セサル意向アル旨ヲ洩シタリ

在支公使 関東長官ニ電報シ齊々哈爾ニ暗送セリ

三八一 九月四日 在ポーランド井田代理公使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

ポーランド國要人ヨリ震災ニ対スル弔意伝達

方申出ノ件

第七五号 (九月六日接受)

八 関東大震災関係 三八〇 三八一 三八二

五五〇

米国民ノ同情ヲ諒得セシムル様所有手段ヲ執リツツアル旨述ヘ置ケリ就テハ御取込中ノコトトハ察スルモ往電第五四一号ノ件ト併セ至急御回電アリタシ尚又米國救援計画ニ関シ何等カ御心付ノ次等モアラハ本使心得迄ニ併セ御電示アリタシ

三七九 九月四日 在米國植原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

米國政府及ビ赤十字社ノ救援活動振ヲ本邦國

民ニ周知方稟請ノ件

第五五〇号 (佐世保經由九月八日接受)

本邦震災ノ報當國ニ伝ハリタル以来米國政府及赤十字社ニ於テ早く救援計画ヲ立テ著々実行ノ歩ヲ進メ居ルコトハ累次ノ往電ニテ申報ノ通ナル処右等当局殊ニ赤十字社ハ全國民ノ同情翕然トシテ起リツツアル茲數日間ノ機会ヲ逸セス所期ノ金額五百万弗ヲ醖集シタシトノ方針ニテ非常ノ熱心ト意氣込トヲ以テ尽力シツツアルノミナラス各方面公私団体及有力新聞紙等モ亦之ニ加担シ団体員ヨリノ金品募集若クハ一般公衆ヨリノ寄付勧誘及取扱ヲ開始シ各方面拳ツテ救援方法ニ努力シツツアリ當館ニ於テ管下各領事ト連絡ヲ共ニシ諸方面ヨリノ救援申出ハ成ルベク前記赤十字社計画

往電第七四号ニ関シ

三日本邦トハ特別ノ縁故アル「ロマンドモウスキー」日波協会々長「ボトスキー」伯並政府党国民派總裁「スタニスラウコヂスキー」ハ夫々當館ヲ訪問シ帝國政府ニ震災ニ対スル深甚ノ用意ヲ伝達サレタキ旨申出テタリ
尚當國官民ハ多大ノ同情ヲ表シ各方面ヨリ問合せアルニ付本件情報電報請フ

三八二 九月五日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
山本外務大臣宛

震災ニ対スル極東革命委員會議長見舞電文送

付ノ件

付屬書 右電文和訳文

公第三一〇号 (九月二十六日接受)

大正十二年九月五日

在浦潮斯德

總領事代理領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣伯爵 山本 権兵衛殿

震災ニ対スル極東委員長見舞電文送付ノ件

今回震災ニ際シ当地外務全權「ハーウィン」ヨリ本官ニ交

手セル極東革命委員会議長「パウロフ」發電文^(註)訳文相添
此段御送付申進候 敬具

註 露語電文写略

(付属書)

「パウロフ」極東革命委員会議長ノ見舞電文和訳文

外務全権「ハーウィン」宛

左記日本政府代表者ニ転達ヲ乞フ

本官ノ入手セル私報ニ依レバ横浜東京方面ニハ日本民ニ稀
有ノ被害ヲ及セル大地震アリタリ、本官ハ右事件ニ際シ深
厚ナル同情ノ意ヲ表スルト共ニソウエート社会主義共和国
連盟及特ニ極東ニ於ケル労働団体カ過去ノ戦争ト干涉ニ因
スル労働民ノ甚シキ窮乏ノ状態ニ拘ラズ日本ノ労働者ニ対
シ広汎ナル救援策ヲ講ジ以テ此甚大ナル不幸ニ同情スルモ
ノナルコトヲ信ズルモノナリ

尚重ネテ今次ノ不幸ニ対シ深甚ナル痛心ノ情ヲ表スルト共
ニ本官ハ全世界ノ労働文化国民ガ此大不幸ニ同情センコト
ヲ期待スルモノナリ

ソウエート社会主義共和国連盟

中央執行委員会委員

日本政府ニ宛テタル「チチュリン」ノ電報和訳文

本日外務全権「ハーウィン」ハ在浦潮日本政府代表渡辺氏
ニ左ノ日本政府宛電報ヲ手交セリ

「サウエト」連邦政府ハ「サウエト」諸共和国労働者ノ
名ニ於テ日本労働民カ永年築キ来レル結果ヲ全滅シタル
可恐天災ニ遭遇セル日本国民ニ対シ深甚ナル同情ノ意ヲ
表ス政府ハ日本国民ノ遭遇セル困苦及ヒ悲惨ナル試練ニ
対シ深く痛恨シ此ノ悲惨ナル試練中ニアル遭難者ニ対シ
出来得ル限りノ救援ヲナスコトニ決定セリ

外務人民委員会

コミサール、チチュリン

三八四 九月五日

在米国植原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

日本震災ニ対スル米国民ノ同情振報告ノ件

第五五二号

(九月十二日接受)

横浜地方劇震ニ関スル磐城通信一日ノ夕刊ニ掲載セラレ次
テ二日ノ諸新聞ニ東京並近県ノ震災ヲ報セル大阪磐城等ノ
諸通信掲載セラレ逸早く論説ヲ掲クルモノハ近来ニナキ大
惨事トシテ米国民カ日本ニ対スル真ノ友情ヲ示スヘキノ時

八 関東大震災関係 三八四

極東革命委員会議長 ウェ・パウロフ

三八三 九月五日

在浦潮渡辺総領事代理ヨリ
山本外務大臣宛

県機関赤旗号外ニ掲載サレタル労働政府外務
大臣ヨリ山本外務大臣ニ宛テタル弔意表明電
文記事訳送ノ件

付属書 右電文和訳文

公第三一三三号

(九月二十六日接受)

大正十二年九月五日

在浦潮斯德

総領事代理領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣伯爵 山本 権兵衛殿

労働外相発閣下宛震災ニ対スル電文記事訳文進達
ノ件

労働外相「チチュリン」発閣下宛今次震災ニ対スル露文ニ
関シテハ往電第六八四号ヲ以テ及報告置候処本日当県機関
赤旗ノ号外ニ対シテ別紙訳文ノ通り記載致居候間右為御参
考茲ニ供貴覧候 敬具

(付属書)

ナリトシ義捐其ノ他有ラユル努力ヲ吝マサルヘキヲ主張シ
タルカ漸次本件ニ関スル各種ノ報道諸地方ヨリ到達スルヤ
諸新聞何レモ論説ヲ掲ケテ深甚ノ同情ヲ表シ或ハ義捐其ノ
他ノ努力ノ急ヲ説キ或ハ日本ノ比較的豊ナラサルニ拘ハラ
ス曾テ桑港ノ震災ニ対シ即坐二十万弗余ヲ送レルカ今次ノ
震災ハ右震災ヨリモ遙ニ劇甚ナリ今ヤ日本ノ曾テ示セル好
意ニ報ユヘキ時機来レル処豊ナル米国民ハ到底右二十倍否
百倍ノ義捐ヲ以テモ足レリトスヘカラスト為シ或ハ政府ノ
迅速ナル措置アリト雖是ノミヲ以テ満足スヘカラス全国民
ヲ挙ケテ政府及赤十字社等ト協力救恤ニ当ラサルヘカラス
ト為シ或ハ日米間親善ノ障碍ハ唯皮相ナル自負心乃至僻見
ノ問題ナリシモ米国民ノ真ノ同情義捐ニ依リ真ノ親善再生
スヘク而シテ此ノ際米国民ノ示ス真ノ友情ハ永久両国民ノ
紐トナルヘシト為シ従来排日的傾向ヲ有スル新聞モ極力説
者ノ義捐ニ努メ一方「ゴンバアス」ハ労働者ニ対シ各員二
十五仙ノ醸金ヲ為サンコトヲ慫慂シ各地方ニ於テハ或ハ医
師会又ハ市民大会ヲ開キ其ノ他各種団体モ亦会合ヲ開キ義
捐方其ノ他ヲ決議シ活動写真館等ニ於テハ義捐勧誘ノ映画
ヲ挿入シ居ル由報セラル

三八五 九月五日 在墨国古谷公使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

墨国官民ノ日本ニ対スル深甚ナル同情表明ノ件

第八〇号 (九月十一日接受)

墨西哥国会議院ハ九月四日ノ特別会ノ議決ニ依リ委員老名ヲ当館ニ派遣シ墨西哥国民ヲ代表シ震災ニ関シ日本国民ニ対スル深厚ナル同情ヲ表シタリ其他官民ノ同情甚大ニシテ熱心ナル義捐金募集運動多数開始セラレタリ当地外交団ハ挙ケテ来館表弔シタルカ特ニ「グアテマラ」国公使ハ日本ニ外交代表ナキ故ヲ以テ同国民ノ深厚ナル同情ヲ日本ニ(以下欠語)

(大阪府知事取次キ)

三八六 九月六日 山本外務大臣ヨリ
在米国植原大使宛(電報)

本邦震災ニ際シ米国民ノ表彰セル好意ニ対スル謝意表明方訓令ノ件

第四四七号

貴官ハ至急大統領ニ謁見シ(不得止ンバ國務長官ニ)左記

ニ対シ我君主及国民ノ熱誠ナル謝意ヲ表シ尚此不幸ナル災害ノ時ニ際シ表彰セラレタル米国政府及国民ノ友情ノ発露カ貴我両国ノ親交ニ一層ノ鞏固ヲ加ヘ惹テ宇内和平ノ連鎖ヲ益々強靱ナラシムベキハ本大臣ノ信シテ疑ハサル処ナル旨付言セント欲ス

右在米各領事ニ転電アリタシ

三八七 九月七日 在米国植原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

米国赤十字社ノ救済活動ノ進捗振報告ノ件

第五六三号 (九月十二日接受)

米国赤十字社ノ救済事業ニ関スル活動ハ全国ノ同情ト共ニ目覚マシキ進捗ヲ見タリ已ニ義捐募集発表後三日ニシテ最少五百万弗ノ予定ハ申込ニ百万弗ニ達シ実行委員側ハ此風潮ニ励マサレ「フーヴァー」商務卿自カラ魚類、衣服、下着、靴、鍼力、材木、仮小屋用防水布ノ蒐集及船積ノ計画ヲ建テ殊ニ太平洋沿岸ニハ積荷就中米及是等ノ救済物資貯蔵仮倉庫ヲ横浜ニ建築スル材料ノ輸送ヲ訓令セリ九月七日ノ該委員会ニ於ケル決議ハ左ノ通り

一、桑港、「シアトル」ニ於ケル赤十字社購買船積部ニ購
八 関東大震災関係 三八七 三八八

ノ趣旨ヲ伝達シ尚米国一般国民ニ此旨徹底スル様取計ハレタシ

欧州大戦後ニ於ケル「ベルサイユ」条約及華盛頓条約ハ世界平和ノ大本ヲ確立シ人類ノ福祉ヲ増進スルニ於テ吾人ノ慶祝禁スヘカラサルモノナリ帝国ハ条約ノ趣旨ニ遵由シ之カ実効ヲ挙クルニ最善ノ努力ヲ為シツツアリ是時ニ際シ偶偶帝都及付近ニ大震災起リ祝融ノ殃厄之ニ伴ヒ凄惨ノ名状ス可ラス皇上ヲ初メ奉リ官民ノ憂惧限リナキノ折柄支那方面ニ在ル米国東洋艦隊司令長官カ直ニ其麾下艦艇ヲ震災地方ニ派遣シテ食糧物資ノ運送其他応急必需ノ為艦隊ノ全力ヲ提供センコトヲ申込マレ既ニ其一部艦艇ハ横浜ニ到着シ尚比律賓政庁ハ数隻ノ運送船ニ物資ヲ満載シテ発航セシメ更ニ米国大統領ハ布告ヲ発シテ米国民ニ対シ援助ヲ勧誘セラル是等ノ報道ハ既ニ多数罹災者ノ耳ニ入り其敏速ナル人道的処置ニ対シ深く感動ヲ与ヘツツアリ此間ニ於テ米国大使以下館員ハ在留米国人ト共ニ大使館カ火災ノ厄ニ逢ヒタルニ拘ハラズ献身の努力ヲ以テ救援ノ事業ニ貢献セラル以上ノ事実ニ対シ本大臣ハ帝国政府ヲ代表シ満腔ノ感謝ヲ米国政府ニ致スト同時ニ大統領及米国民ノ深甚ナル同情

入物資輸送ノ急速実行ヲ命令セリ

二、「シアトル」「ポートランド」ヨリ仮収容所ヘ物資貯蔵庫建築用木材ノ輸送ヲ命令セリ

三、「シアトル」ヨリ直チニ最近便ニテ食糧品二百萬封度材木四百五十萬尺ヲ輸送ヲ命令セリ

四、桑港ヨリ同様食糧品六百萬封度輸送命令セリ

五、男女子供用下着類二十萬着、靴下三十萬足買入レ直チニ船積ノ手配セリ

以上ハ第一段ノ計画ナルカ桑港、「シアトル」ヨリ最近送り出スヘキ積荷ハ魚類穀物ノ粉ミルク其他ノ食糧品ニシテ「シアトル」ニ於ケル已ニ船積ノ…(脱)…魚類二百萬封度ノ外材木ノ由ナリ

三八八 九月七日 在カルカッタ(シムラ滞在中)
岩手總領事代理ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

印度總督ヨリ震災ニ対スル同情慰問ノ表明並救済基金設置ニ関シ報告ノ件

第七三号 (九月九日接受)

去ル五日印度總督ニ謁見ノ節同總督ハ親シク本邦大震災ニ対スル衷心ヨリノ同情慰問ノ意ヲ述べラレ何等救済基金募

集ノ挙アリヤト下問セラレタルニ付本官ハ未ダ其挙ノ具体化セルヲ聞知セズト答ヘ置キタル処昨六日夜同総督ハ自署セル長文ノ Communiqué ヲ以テ全印度国民ニ檄シ本邦大震災ノ惨害ノ状況ヲ告ゲテ之ヲ民心ニ訴ヘ自ラ Viceroy's Japanese Relief Fund ヲ設置セル旨ヲ布告シ義捐金ハ印度帝国銀行各地支店ニテ取扱フベキ旨ヲ述ベ自ラ五千「ルピー」ヲ之ニ寄付セリ（七日発）

三八九 九月七日 在上海矢田総領事ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

英国軍艦ホーキンス号救助用品搭載ノ上
上海発横浜ニ向ヘル旨報告ノ件

第二二二号 （九月十日接受）
英国軍艦「ホーキンス」号ハ支那艦隊司令長官座乗救助用薬品材料並食料品トヲ積込ミ七日未明上海出帆九日横浜着ノ予定

三九〇 九月七日 在桑港大山総領事ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

日本救援ヲ訴フル桑港諸新聞紙ノ報道振報告
ノ件

第五六五号 （九月九日接受）

参謀本部ヨリ当館陸軍武官ニ達セル電報ニ拠レハ内外電報モ五日開通ノ趣ナル処
(一)当国赤十字社ノ救援計画ハ着々非常ノ速力ヲ以テ進捗シツツアル次第ナルニ付此ノ際該計画ヲ迅速且有効ニ達成セシムル關係上往電第五四九号第五五五号及第五六一号ニ対シテハ一日モ早く御回電ニ接スル様致シタク尚災害ノ実況殊ニ死傷者ノ見積数及災害区域範圍等ハ救援計画上最必要ナルニ付往電第五五三号ノ件ト合セ成ルヘク詳細ニ至急御電報アリタシ尚
(二)本省員ノ安否及当館員留守宅家族ノ安否ニ付テモ成ルヘク早く御通報アル様致シタシ
(三)往電第五三六号乃至第五六四号中未着ノ分ナキヤ御取調ノ上其ノ有無御電報ヲ請フ

三九二 九月八日 在米國植原大使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

日本ノ災害復旧外債募集ニ関スル米紙論調報告ノ件

第五六七号 （九月十日接受）

第一七一号 （九月十日接受）

本邦震災ノ報知アルヤ当地各新聞ハ一斉ニ日本救援ヲ叫ビ居レルガ「エキザミナー」ハ斯ル震害ニ當リテハ人種の国民的差別觀念ハ無意味ナリ桑港市民ハ貧富ノ別無く救済金募集ニ応ゼザル可カラズ「ジャーナル」ハ日本ハ罹災地再建ノ為巨額ノ借款ヲ必要トスルニ至ル可キハ明カナルガ米國ハ右借款申出デアル場合ニハ進ンデ是ニ応ズベキハ勿論日本ニ対シ外交的（不明）ヲ与ヘ不生産的ナル軍事的施設ニ対シ経費ヲ投ゼシメザラン事ヲ要ス

「クロニクル」ハ大統領ガ東洋艦隊ニ対シ日本救援ノ為出動命令ヲ発シタルハ機宜ヲ得タリト冒頭シ日本今回ノ災害ハ全人類ガ相互ノ災厄ニ対シ如何ニ同感的ナルカヲ示シタル世界最高ノ記録ナリト論ジ居レリ尚前加州選出合衆國上院議員 Phelan ハ率先シテ救援ヲ唱道シ又 Hiram Johnson ハ「メッカ」労働祭ニ於テ同様ノ演説ヲナセリ

三九一 九月八日 在米國植原大使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

救援計画達成ノ必要上本邦災害ノ実況至急回示方請訓ノ件

八日新聞報

今次災害ノ復旧ニ就テハ当初各種ノ報道伝ヘラレ物質上ノ損害ハ五十億弗ヲ超過スベク其復旧容易ナラザルベシト報ズル者多カリシガ最近ハ是ガ復旧ハ意想外ニ速ナルベシト為シ大蔵長官「メロン」モ同様ノ意見ヲ有シ居ル旨報ゼラレ八日ノ諸新聞ハ商務長官「フウバー」ガ災害額ヲ五十億弗ト見積ルハ荒唐ナリト為シ日本ノ外債ノ少額ナル事及其ノ信用ノ良好ナル事ハ日本ノ復旧能力ノ重大要素ニシテ日本ハ迅速ニ回復スル事ヲ得ベク又之ヲ実現スベシト語リタル由ヲ伝フ一方日本ハ災害復旧ノ為或ハ二億弗或ハ五億弗ノ外債ヲ募ルニ至ル可シト為ス者アリ各紐育ノ銀行家ハ喜んで日本ノ要求ニ応ズルノ意向アルヤニ伝ヘラルル処六日紐育「ヘラルド」紙ハ逸早く日本ノ財政鞏固ナルヲ以テ巨額ノ外債ヲ募ルニ困難ヲ感ゼザルベシト報ジ七日ノ新聞ハ大蔵長官「メロン」ハ新聞記者ニ対シ財政鞏固ナル日本ハ米國ニ於テ外債ヲ募ルニ困難ヲ感ゼザルベク日本ノ信用ハ震災ニ依リテ害セラレズト語リタル旨ヲ伝ヘリ尚「ハースト」ノ「ブリスベイン」モ七日華府「ヘラルド」ニ米國民ハ此際最モ自由ナル条件ヲ以テ日本ノ公債ニ応ジ以テ日本

ヲ救助スベシト論シ同系ノ諸新聞ニモ同様ノ記事ヲ掲グルモノ多シ

三九三 九月八日 在サイゴン古谷領事ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

西貢滞在中ノメルラン總督等ヨリ震災ニ対スル弔辞表明ノ件

第二〇号(至急) (九月九日接受)

今回ノ震災ニ対シ当地滞在中ノ「メルラン」總督ヲ始メ交趾支那知事及仏支兩商業會議所等各方面ヨリ懇篤ナル弔慰ノ辞ヲ寄セ来レルガ特ニ總督ハ天皇陛下並各大臣ニ対シ印度支那ノ深厚ナル哀傷ノ念ヲ執奏伝達セン事ヲ本官ニ依頼シ来レリ

尚当地仏國海軍官憲ハ海軍省ノ命ニ依リ本八日軍艦及海軍諸官署ニ半旗ヲ掲ゲ弔意ヲ表セリ

三九四 九月九日 在米國埴原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

米國赤十字社長及ビ商務長官連名ニテ日本救

援ヲ訴フル声明ヲ発表セル件

第五七〇号 (九月十日接受)

往電第五六三号ニ関シ

米國官民ノ救済運動ハ引続キ非常ノ熱心ヲ以テ行ハレ居ルカ九日赤十字社長及ヒ商務長官ハ連名ニテ左ノ趣旨ノ「ステートメント」ヲ発シタリ

這回罹災ノ範圍程度ハ頗ル大ナル処日本ノ經濟力ト信用ハ鞏固ナリ実業家ハ日本ニ対シ平生ノ如ク商業上ノ便宜ヲ与フルト同時ニ米國民ハ友好國民ノ大厄災ニ対シ極力人道上ノ救助ヲ与ヘサルヘカラス今日迄ノ義捐金額三百五十余万弗ニ達シ救助品輸送船舶八隻中第三ノ汽船ハ明日出帆スヘク残り五隻ハ荷積中ナルカ米國民拳テ義捐金予定額五百万弗ヲ超過スル様全力ヲ尽シ今後一週間内ニ救助品ヲ当局ノ処分ノ下ニ置クコト必要ナリ云々

加奈陀ヲ除ク北米各領事ヘ転電セリ

三九五 九月十日 在米國埴原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

米國民ノ同情ニ対スル日本國民ノ謝意大統領

ニ伝達方取計ノ件

第五七一号 (九月十一日接受)

貴電第四四七号昨日夜着今日國務長官ニ面会御電訓ノ趣

任機關回示方要請ノ件

第五七三号 (九月十二日接受)

旨ヲ委曲英文ニ認メタルモノヲ朗読シ其ノ写ヲ手交シ尚至急大統領ニ伝達方依頼シタル処長官ハ深ク感動シタル面色ニテ貴大臣ノ鄭重ナル挨拶ヲ謝スルト共ニ早速之ヲ大統領ニ伝達スヘク尚直ニ発表シタリト云ヘルニ付右ハ本使ニ於テモ希望スル所ナル旨述ヘ置ケリ長官ハ更ニ今次日本ノ大厄難ニ際シ米國民ノ現ハセル同情ハ全ク純粹ナル心情ノ流露ニシテ我等此ノ際幾分ニテモ多ク日本ノ助ケニナラントスル外他意ナシ自分ハ此ノ災厄ノ齎ラセル悲慘ノ甚シキ思ヒ愁傷措ク能ハサルト共ニ差当リ左ノ二事ニ (不明)

一ハ山本大臣ノ謂ハル通り右災厄ハ偶偶米國民ニ日本國民ニ対シテ有スル真実ノ好意ヲ実証スルノ機会ヲ与ヘ其ノ結果兩國ノ親交益密ナラシムベキハ疑ナキコト二ハ日本國民ニ其ノ堅実ニシテ偉大ナル資質ヲ十分發揮スルノ機会ヲ与ヘタルコト是レナリ自分ハ日本國民カ其ノ固有ノ強キ決心ト卓越セル技量トヲ以テ驚クヘク迅速ニ復興事業ヲ完成スヘキヲ確信スルモノナリト述フル所アリタリ

三九六 九月十日 在米國埴原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

米國側救援計画遂行上必要ニ付日本側救援資

八 関東大震災関係 三九六

震災ニ対スル米國側救援計画ハ屢次申報ノ通り一切米國赤十字社ヲ中心トシテ実行セラレ居ルニ付当館ニ於テモ管下各領事ト協力シ右赤十字社ヲ中心トシテ之ニ必要ノ協力ヲ与ヘツアルコト御承知ノ通ニ有之同時ニ米國赤十字社ハ今日迄救援用金品全部ヲ日本赤十字社宛ニテ発送シ同社ヲ通ジテ救済ノ実行ヲ期セムトスル大体ノ方針ニテ取運ビツツアリ現ニ今回國務省ヲ通ジ在本邦米國大使ニ対シ組織方依頼シタル十人若クハ十二人ノ主ナル在留米人ヨリ成ル米國側救恤委員會ノ如キモ米國及日本赤十字社間ノ連絡機關トスル趣旨ナル趣ニテ要スルニ米國側ニテハ日本ニ於ケル相手方機關ヲ日本赤十字社ト為ス方針ニテ著著実行シ来レル次第ナル処貴電合第一七九号ニ拠ル今回組織ノ臨時震災救護事務局ト日本赤十字社トノ關係ハ如何様ニ取計ハレ居ルヤ場合ニ依リテハ今後米國赤十字社ヨリノ送金及物資宛先其他交渉ハ右事務局ヲ相手方トシテ実行スルコト然ルヤニモ考ヘラレ右ノ点ハ當國側救援計画ノ遂行上差迫リ明瞭ニ致シ置クコト必要ナルニ付何分ノ儀至急御回電アリタシ

在米各領事へ転電セリ

三九七 九月十日 在伯国田付大使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

本邦震災ニ対シ寄せラレタル同情ニ対シ大統領ニ謝意ヲ表明セル件

第五五号 （九月十二日接受）

今回ノ大震災ニ関スル情報ガ九月二日当国新聞ニ伝ヘラレタル以来日ヲ追テ詳細ヲ加ヘ損害程度ノ甚大ニシテ惨鼻ノ極ニ達セル事情ノ明カナルニ至ルヤ当国人心ニ偉大ノ衝動ヲ与ヘ外交団ハ素ヨリ当国上下各方面ヨリ深甚ナル同情ヲ表シ来リ弔電ノ如キ毎日数十通ニ上リオル処四日ニハ外務大臣五日ニハ大統領及陸海軍両大臣ヨリ夫夫人ヲ遣ハシ本使ヲ弔問セシメタルヲ以テ本官ハ当日直ニ外務大臣ヲ答礼ノ為訪問シ大統領ニ会見ヲ求メ置キタル処九月十日引見セラレタルニ付帝國政府ノ名ニ於テ深厚ノ謝意ヲ表シタルニ大統領ハ自分ハ素ヨリ伯国ハ常ニ深く日本ニ同情ヲ有スルガ故ニ今後本官ニ対シテモ出来得ルダケ便宜ヲ与フベキ旨ヲ重ネテ述べラレタリ同日大統領夫人ヨリ本使予テノ請ヲ容レ大統領ト共ニ本使ヲ引見セラレタルニ依リ携帯ノ送り

ルヘシ

二、救護事業ニ関シ人ヲ派遣シテ協力セシメントスル申込ニ対シテハ其好意ハ深謝スル所ナルモ帝國政府ハ既ニ夫各機關ノ施設ヲ有スルヲ以テ言語風俗等ノ關係上錯綜ヲ来タスノ虞アル等ノ事情ニ鑑ミ此際ハ之ヲ辞退スルコトトス但シ既ニ来リ又ハ来リツツアルモノニ就テハ外務省当局ニ於テ適宜ノ措置ヲ執ルコトトス

運輸船舶ノ提供亦前項ノ主旨ニ依リ之ヲ辞退スルモノトス

三、食糧其ノ他必需物資ヲ提供スル為該船舶ノ入港ニ際シテハ帝國政府ハ相当官吏ヲ該船舶ニ派遣シ一応調査ヲ遂ケタル上其ノ乗員ノ上陸及積荷ノ陸揚ヲ行フコトトスは震災地方ノ秩序安寧ヲ保持スルニ於テ緊要ノ事ナレハナリ

因記ス外国殊ニ露国方面ヨリノ入港船舶ニ対シテハ赤化宣伝其ノ他思想界ノ取締上最必要ヲ感スルヲ以テ其ノ点ニ関シ特ニ注意ヲ要ス

（付記一）

九月八日外務省局課長會議決定

八 関東大震災関係 三九八

品ニ関シ語ル処アリタルニ受納方快諾ヲ得タルニ依リ不日捧呈ノ筈ナリ

三九八 九月十一日 閣議決定

各国ノ震災救援活動ニ対スル処理方針決定ノ件

付記一 九月八日外務省局課長會議決定

外国ヨリノ救恤品ニ関スル事務分担ノ件

二 同右局課長會議決定

外務省ニ於ケル震災善後措置ニ関スル組織変更ノ件

三 亜細亜局所管地方ヨリノ慰問並金品寄贈ニ関スル事務処理方法

大正十二年九月十一日閣議決定

今次東京及付近ニ起レル震災火殃ノ救済援護ニ関シ寄与シ又ハ寄与セラレントスル列国ノ同情援助ニ対シテハ帝國政府ハ深厚ナル感謝ヲ以テ之ヲ迎フル次第ナルモ左ノ綱領ニ依リ処理スルコトニ致度

一、食糧（米ヲ除ク）其ノ他必需物資ノ提供ハ喜ンテ之ヲ受ク但シ提供国本國積出前予メ交渉アルモノニ付テハ其ノ種類数量ヲ考查シテ帝國政府ノ希望ヲ回示スルコトヲ

外国ヨリノ救恤品ニ関スル事務分担ノ件

九月八日ノ局課長會議ノ決定ニ係ル外国ヨリ来ル救恤ノ金品ニ関スル事項ニ付左記ノ通事務分担相定メ候条此段御通知ニ及候也

大正十二年九月十日

通商局長

記

一、支那、香港及露国ヨリノ救恤ニ関スル事務

監理課

二、両米及布哇ヨリノ救恤ニ関スル事務

移民課

三、其ノ他ノ地方ヨリノ救恤ニ関スル事務

商報課

四、震災救護委員会及救護事務局トノ連絡ニ関スル事務

総務課

追テ前記救恤用金品給与ニ関スル謝意伝達方ニ付テハ歐米局及亜細亜局ニ於テ夫々之ヲ取扱フコト猶從前決定ノ通ニ御承知相成度候

(付記二)

九月八日外務省局課長會議決定

外務省ニ於ケル震災善後措置ニ関スル組織變更ノ件

九月八日局課長會議

一、外務省ニ於ケル震災善後措置ニ関スル組織ヲ擴張變更スルコト左ノ通

外交団及外国人ニ関スル事項

松平欧米局長主裁

右ノ内支那人及朝鮮人ニ関スル事項

出淵亞細亞局長主裁

外国ヨリ来ル救恤ノ金品ニ関スル事項

永井通商局長

(震災救護委員會ニ関スル事務ハ永井局長同委員會委員トシテ担当スルコト故ノ如シ)

省内救護事務

山川条約局長主裁

一、明九日(日曜)ハ出勤ノコトトス但所屬局長ニ於テ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニアラス

一、夜間通行禁止ノ風説アル処右ハ目下其ノ筋ニ就キ確メ中

一、外務省員ノ出京入京ニ付テハ谷事務官(天幕内執務)ニ問合ハサルヘシ

一、外務省囑託医田村博士毎日来省ノ管時間ハ別ニ揭示ス一、目下省内收容中ノ罹災者百八十名猶收容ノ余地アリ

(付記三)

亞細亞局所管地方ヨリノ慰問並金品寄贈ニ関スル事務処理方法
一、亞細亞局所管地方ヨリノ慰問並金品寄贈ニ関シ在同地方公館ヨリ電信又ハ書面ヲ以テ報告ニ接シタル場合ニハ中央政府並ニ督軍省長等ノ主ナル地方官憲省議會其ノ他有力ナル支那人団体ニ対シテハ相当ノ謝電ヲ発スルコト(亞細亞局起案)

二、前記ノ金品内地取寄方法ハ亞細亞局ヨリ通商局ニ協議ノ上出先公館へ通報スルコト(亞細亞局起案)

三、右金品内地着ノ上ハ其ノ処分方ニ付テハ通商局ニ於テ之ヲ処理スルコト

四、上奏其ノ他宮内省ヲ經由シ処理ヲ要スル事項ハ総テ人事課ニ於テ管掌スルコト

三九九 九月十一日

山本外務大臣ヨリ
在米國填原大使宛(電報)

言語風俗ヲ異ニスル外国人救護班ノ来援ハ混

雜ヲ招ク虞アルヲ以テ外国ノ好意ハ物資資金

ノ形ニテ受ケタキ希望ヲ國務長官ニ申入方訓

令ノ件

第四五八号 大至急

貴官ハ至急國務卿ニ会见シ左ノ趣旨ヲ申入レタラシ

今次ノ震災ニ方リ米國官民カ逸早く甚大ノ同情ヲ寄セ潤沢ナル物資及役務ヲ提供セラレタルハ帝國官民ノ感荷措ク能ハサル所ナルハ前電ノ通りナル処傷病者救護班等人員派遣ノ儀ニ就テハ其好意ハ万々諒トスルモ一方我救護組織ノミニテ充分内外人傷病者ノ医療ニ膺リ得ルノミナラズ他面混雜ノ際言語風俗ヲ異ニスル外国人救護班ノ来援ハ却テ錯綜ヲ加ヘ実績ヲ挙ケシムルコト難ク且ツ接遇モ到底宜シキヲ得難キノ実情ナルヲ以テ一併ニ之ヲ謝絶シ外国ノ好意ハ物資資金ノ形式ニテ受クルコトト致度帝國政府ノ方針ニシテ「ウツヅ」大使ニ於テモ右帝國政府ノ方針ヲ充分諒トセラレ各方面ニ対シ右趣旨徹底方極力尽瘁シ居ラルルハ帝國政府ノ多トスル所ナルガ尚國務長官ニ於テモ右事情御諒得ノ上米國側同情者一般ニ於テ能ク此趣旨ヲ諒解スル様至急可

然御措置方御配慮アリタシ

但シ既ニ出発シタル救護班ニ就テハ我方ニ於テ十分協力シ其実績ヲ収メシムルニ全力ヲ竭スヘシ

右在米加各領事へ転電アレ

四〇〇 九月十一日

在英國林大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

震害地復興ノ為ノ起債ニ便宜供与方キンダス

レー委員長ヨリ申出ノ件

第五九四号

(九月十二日接受)

十日 Sir Robert Kindersley 本使来訪震害被害地復興事業ノ為都市又ハ大会社ニシテ大正十年 Trade Facilities Act ニ基キ市債又ハ社債等担保ノ保証ヲ申出ルニ於テハ同人議長タル Advisory Committee ニ於テ好意的考量ヲ加フヘキ旨且右英政府ノ保証ハ元金ノミナラズ利息ニモ及ホシ得ヘキコト而シテ保証金ハ昨年十二月改正ノ結果五千万磅迄ノ範圍ナルカ其ノ内一千五百万磅丈ケハ利用シ得ル状態ナルコト尚本年十一月ニハ更ニ該保証ノ範圍擴張セラルヘキコト等ヲ述ヘタルカ十一日左ノ趣旨書面ヲ以テ申越タリ本件ニ付テハ七日商務官ヨリモ電報ノ次第アリタル趣ニ付テ

ハ右御参考ノ上何分ノ儀回電ヲ請フ

尚右ノ便宜ニ与ラントスル場合ニハ右借款ノ金額ハ当国ニ於ケル物品購入ニ当ルコトヲ要スルモノニシテ右ハ即チ都市又ハ会社ヨリ必要ナル物品ヲ当国ニ於テ購入スル場合ニ直ニ現金ヲ支払ハサルモ可ナリト云フニ帰着ス右ハ本使ニ於テハ非常ニ便宜ナルモノト思考スルト共ニ右便宜ニ与カラントスル都市又ハ会社ニ対シテハ帝国政府力支能力ノ確実ナルコトヲ保証スルヲ要スル次第ナリ為念

四〇一 九月十一日 岡田海軍次官ヨリ
田中 外務次官宛

港湾施設不備ニ付外国艦船ノ品川回航ヲ差控
ヘラルル様関係外国官憲ニ通牒方依頼ノ件

官房第三〇八〇号 (九月十二日接受)

大正十二年九月十一日

海軍次官 岡田 啓介 (印)

外務次官 田中 都吉殿

外国艦船ノ品川回航ニ関スル件

震災救護ノ為列国ノ厚意ニ依リ艦船ニ救済用諸物件ヲ搭載シ当方面ニ回航セシメラルルコトハ感謝ニ堪ヘサル次第ニ

有之候処品川ハ諸般ノ設備モ不充分ニシテ目下帝国艦船輻輳シ荷揚交通ニ多大ノ困難ヲ感スルノミナラス非開港地タル關係モ有之尚東京横浜間ハ汽車自働車等ニ依リ相当交通ノ途モ開ケタル現状ニ鑑ミ一般救護作業ヲ順当ニ進捗セシムル必要上右外国艦船ニシテ当方面ニ回航スルモノハ全部横浜ニ於テ救護ニ任シ又ハ要務ヲ弁シ品川廻航ヲ差控ヘラルル様至急関係外国官憲ニ通牒方御取計ヲ得度

四〇二 九月十二日 山本外務大臣ヨリ
在米国植原大使宛 (電報)

我方ノ最モ希望スル救援用物品ニ関シ通報ノ

件

第四六〇号

米其他ノ食糧品ハ本邦内及隣接諸国ヨリノ供給ニヨリ大体充分ナル見込ニシテ応急救護用トシテハ必要ナシ此際最必要ナルハ糞ニ電報シタル建築材料 (主トシテ「トタン」板及屋根葺材料等) 被服類就中下着類毛、メリヤス、フランネル地等及衛生材料 (外科用品ヨリモ内科用及消毒用薬品) 並暖房用什器、ガソリン、毛布等ナルカ右ハ応急救護用ト

シテ速ニ本邦ニ着セサレハ寄贈ノ趣旨ヲ貫キ難シ医師及看護婦ニ付テハ本邦ノ事情貴官御承知ノ如クナルニ付派遣差控ヘラレタシ

本邦ト欧米諸国トハ其生活状態ヲ異ニスルヲ以テ欧米品ハ配給上困難ヲ感スルニ付現金義捐ヲ受クル方便利ナリ貴官御含迄尚物品ノ宛先ハ臨時震災救護事務局現金ハ外務省宛送付アレ

本電在南北米及布哇各大公使総領事領事ヘ転電アレ
参考トシテ在欧各館ヘモ転電アリタシ

四〇三 九月十二日 在米国植原大使ヨリ
山本外務大臣宛 (電報)

米国ノ我国ニ対スル同情ノ深厚ナル現状ニ鑑

ミ復興事業ノ資金及ビ物資輸入ヲ迅速ニ進メ

ラレタキ旨進言ノ件

第五七八号 (九月十四日接受)

今回大災害ノ応急救済ニ付テハ帝国政府ノ迅速且異常ナル御尽力ニ依リ著々進捗ノ事情累次ノ来電及新聞電報ニ依リ漸次米国一般ニ知レ渡リ之ヲ讚嘆スルト共ニ此ノ災害力未曾有ノ広大ナルモノニ拘ラス其ノ跡始末殊ニ被害地域ノ再

造及産業復興ガ政府及国民ノ不拔ノ努力ト技倆ニ鑑ミ速ニ成就スヘキヲ期待シ我ニ対スル同情ト信 (用) 頗ル深キモノアリ現ニ米国政府当路者モ財界工業界ノ有力者モ既ニ我國ノ計画及其ノ実行ニ付非常ニ注意シ一日モ速ニ其ノ計画ヲ承知シ援助ヲ客マサルノ態度ハ之ヲ推知スルニ難カラサル状況ナリ災害ノ電報ト共ニ倫敦市場ハ一時我公債其ノ他ニ付動揺ヲ来セシ模様ナルカ紐育市場ハ割合ニ落付キ唯其ノ後漸次被害ノ甚大ナルヲ実感スルニ至リ市場幾分下向キトナラントスル形勢見ユルヤ財界ノ有力者ニシテ且大蔵卿タル「メロン」ハ新聞記者ノ会見ニ於テ日本ノ恢復力ハ迅速且異常ナルヘク其ノ資金ヲ外国ニ求ムルニ困難ナカルヘキ旨ヲ確言シ商務卿「フーバー」モ亦実害必スシモ新聞電報誇張ノ如ク大ナラサルヘク日本国民ノ財力並外国信用ハ大ナル打撃ヲ受ケ居ラスト声明シテ我産業恢復ニ関スル悲觀説ヲ未然ニ抑ヘ (往電第五六七号情報参照) 民間側ニ於テモ「ナシヨナル・シチー・バンク」ヲ始メトシ (往電第五五一号参照) 各方面ヨリ復興借款斡旋ノ意向ヲ以テ本使ニ懇談スル向多ク將又材料供給ニ付テモ商務官報告ノ通 (往電第五六八号参照) 「ユー・エス・スチール・コムパ

ニ」ノ有力者モ此ノ際（脱）ヲ以テ我災害復旧ノ材料売込ミ購送ニ最善ノ援助ヲ辞セサルコトヲ明言シ居ル有様ニシテ当面ノ救済ニ対スル米国官民ガ全国一致ノ熱心ハ同情ト相俟ツテ（往電第五五〇号参照）政治上經濟上共ニ米国ノ我國ニ対スル好意及同情ハ目下実ニ未曾有（脱）ニ達シ居ルコト本使ノ信シテ疑ハサル処ナリ

従テ帝国政府ニ於テ復興事業ノ資金及物資ヲ米国ニ求ムルノ御計画アルニ於テハ今日ヲ以テ其最好機ト思考セラル更ニ又米国ハ今日税金多ク然カモ海外放資ノ途ハ差当リ閉塞シ居ル状況ナルカ一面欧州方面形勢モ何時転廻シテ米国資金ノ流入ヲ促スニ至ルヤモ計レサルノミナラス他面墨西哥承認問題モ解決シ中米南米方面投資ノ途開ケントスル傾向ニ鑑ミル時ハ我國ノ外資輸入開談後レレハ後ルル程条件不利資金獲得困難ヲ来スノ懸念大ナリ將又材料購入ニ付テモ既ニ内外商人ノ投機注文統出ノ傾向著シク鉄材ニ付テ前電商務官報告ノ如クナルノミナラス木材ニ付テモ太平洋沿岸其他各地木材業者ニ対シ内思惑注文巨額ニ達シ居ル情報アリ是等物資本邦向値段暴騰ノ惧アリ各地領事ヘハ夙ニ本使ヨリ本邦商人ニ警告ヲ与ヘ相戒メテ投機防止ニ尽力スヘ

二 九月四日付岩手總領事代理ヨリブレー外務長官宛返信写
印度總督ノ同情ニ対シ謝意表明ノ件

公信第二〇五号 (十一月七日接受)

大正十二年九月十二日

シムラ滞在中

總領事代理領事 岩手 嘉雄（印）

外務大臣伯爵 山本 権兵衛殿

本邦大震災ニ対シ印度總督並印度政府ノ同情表彰

ニ関スル件

本邦大震災ノ情報ノ当地ニ達シタルハ九月二日著ノ路透電報ヲ以テ最初ノモノト為ス処翌三日印度政府外務長官「ブレー」氏ハ別紙甲号写ノ公文ヲ特使便ヲ以テ送致シ来リ本邦大震災ニ対スル印度總督並印度政府ノ深厚ナル同情ノ意ヲ帝国政府ヘ伝達方依頼致越候ニ付右ハ早速往電第七二号ヲ以テ及電票置他面本官ヨリ不取敢別紙乙号写ノ通同長官ニ対シ回答致置候

次テ本月十一日接到ノ貴電第三七号ヲ以テ右印度總督ノ懇篤ナル見舞並往電第七三号同總督ノ救済基金募集ニ関スル

キ旨訓電シ置キタルカ帝国政府ニ於テ此際思切リテ取締ヲ嚴重ニセラルル必要大ナルノミナラス更ニ進ンテ何等カ之等材料ノ製造業者ト直接交渉ノ方案ヲ廻ラサレ米國材料及工業者ノ現時ノ厚意ノ態度ト国民一般ノ同情的援助ノ風ヲ利用シ成ル可ク速ニ物資購入ニ関スル計画方針確定セラルルコト肝要ナルヘント存ス殊ニ厚意アル当國製造業者ハ日本ノ焦眉ノ注文ノ為ニハ他ノ注文ヲ拒絶スル意嚮アル向モアリ一日早ケレハ一日利ナリ

前記外資輸入及物資購入ノ二問題ニ付テハ復興案ト共ニ政府ニ於テ折角御考究中ト存シ何等差出ガマシク申進スヘキ筋合ニ非ルモ当國ノ現況帝国政府ニ於テ迅速ノ措置ニ出テラルルコト極メテ有利ナルモノアルヲ痛感スルニ付切ニ御考慮ヲ煩シ度愚見申進ス

四〇四 九月十二日 在カルカッタ岩手總領事代理ヨリ
山本外務大臣宛

大震災ニ対スル印度總督並印度政府ノ同情表
彰ニ関シ報告ノ件

付屬書一 九月三日付ブレー外務長官来信写
本邦震災ニ対シ同情表明ノ件

尽力ニ対シ帝国政府ノ謝意伝達方御訓令ニ接シ候ニ付同日午後外務長官ヲ往訪シ御訓令ノ趣旨口頭ヲ以テ申入候処同長官ハ右帝国政府ノ謝意ハ早速之ヲ總督ニ取次クヘント申述候

右往復公文写相添ヘ此段及報告候 敬具

（付屬書一）

九月三日付ブレー外務長官来信写

本邦震災ニ対シ同情表明ノ件

甲号

（COPY）

GOVERNMENT OF INDIA.

Foreign and Political Department.

Simla, the 3rd, September, 1923.

From

Denys de S. Bray, Esqr., C.S.I., C.I.E., C.B.E.,

Secretary to the Government of India.

To

Mr. Yoshio Iwate,

Japanese Consul General,

Simla.

Sir,

I am directed to request that you will be good enough to convey to your Government the deep sympathy of His Excellency the Viceroy and his Government over the terrible earthquake disaster that has befallen your country.

I have the honour to be,

Sir,

Your most obedient servant,

(Signed) Denys Bray.

Secretary to the Government of India.

(付屬書11)

九月四日附岩手総領事代理ヨリンベール外務長官宛返信写
印度総督ノ同情ニ対シ謝意表明ノ件

ニ号

(COPY.)

Simla, Sept. 4th, 1923.

From

Yoshio Iwate Esq.,

Acting Consul-General for Japan

at Calcutta.

To

Denys Bray Esq., C.S.I., C.I.E., C.B.E.,

The Foreign Secretary,

The Government of India,

Simla.

Sir,

In acknowledging the receipt of your note under date of the 3rd of September, I have the honour to inform you that I have duly cabled to my Government the kind expression of the deep sympathy of His Excellency the Viceroy and his Government over the terrible earthquake disaster which we have sustained in our country.

I avail myself of this opportunity to renew to you the assurances of my highest consideration.

I have the honour to be,

Sir,

Your most obedient servant,

(Signed) Yoshio Iwate.

Acting Consul-General for Japan.

四〇五 九月十三日 山本外務大臣ヨリ
在京英、米、仏、伊、蘭、中、伯、
聖、智各大公使宛

東京湾入港予定ノ罹災地救援外国軍艦ノ横浜

港入港方慈憑ノ件

欧二普通臨第五〇号

以書翰致啓上候陳者今回ノ罹災地帯救援ノ目的ヲ以テ貴国軍艦ノ東京湾内入港ノ場合ニ東京及品川ノ沖合ハ震災後水路ニ変更ヲ生シ且本邦大小船舶輻輳シ居ル為メ航行ノ安全ヲ保シ難キノミナラズ仮令同地ニ碇泊スルモ芝浦陸揚場破壊シ居リ応急的仮棧橋ニ抛ル陸揚甚タ容易ナラサル実情ニ有之候間今後ハ特別ノ許可ナキ限り横浜港ニ入港相成様致度同港内ニハ尚使用ニ堪ユル棧橋残存セルニ付東京方面ヘノ物資陸揚ニモ却ッテ便宜多キ次第ニ有之候条今後東京湾ニ入航スベキ貴国軍艦ニ対シテハ予メ右御通達相成候様致度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下(又ハ貴下)ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

四〇六 九月十四日 山本外務大臣ヨリ
(電報) 在米國壇原大使宛

本邦向救助品輸送船ノ船名、仕立港等問合セ

方訓令ノ件

第四六五号

貴電第五七〇号ニ関シ「ステートメント」所載救助品輸送船ノ各船名及仕立港並出帆時日及出帆予定定期御問合セノ上
回電アリタシ

四〇七 九月十四日 山本外務大臣ヨリ
(電報) 在米國壇原大使宛

日本側救援責任機關ニ関シ回報ノ件

第四七〇号

貴電第五七三号ニ関シ今回ノ災害ニ就テハ政府ニ於テ大規模ノ臨時震災救護事務局ヲ設ケテ救護事務ヲ統一執行シ赤十字社ハ之カ補助トシテ今日迄ノ処専ラ其本来ノ目的タル傷病者ノ手当等ニ尽瘁シ居リ今後更ニ其活動ノ範圍ヲ拡ムル場合ニモ主トシテ右ノ趣旨ニ依ラントスルモノナリ從テ繃帶藥品等ノ一部分ハ直接赤十字社宛送付セラルルヲ便利トスルコトアルヘキモ一般救護事務ニ付テハ本邦ノ側ニ於

八 関東大震災関係 四〇八

ケル相手方機関ハ前記事務局トセラレタシ
右在南北米及布哇ノ各在外公館ヘ転電シ尚在英大使ヲ經テ
在歐羅巴各館ヘ転電セシメラレタシ

四〇八 九月十四日

在米国埴原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

日本ノ外債募集ニ協力方申出アリタル際ノ応

対振ニ関シ請訓ノ件

第五八三号

(九月十六日接受)

紐育 Lee Higginson 会社理事 Jerome D. Greene (本官
ノ旧知ニシテ其父ノ時代ヨリ日本ニ深キ縁故ヲ有ス) 約ニ
依リ九月十一日来訪自分ハ会社幹部ヲ代表シテ来レルモノ
ナルガ今次ノ大災害ニ就テハ何分日本政府ニ於テ復興事業
ノ為巨額ノ外債ヲ要スベク其場合ハ是非自分ノ会社ヲモ考
慮ニ加ヘラレタク自分一個ノ日本ニ對シテ有スル深キ縁故
ト同情ハ姑ク措クトスルモ紐育及倫敦財界ニ於テ同社ノ地
位信用ハ御承知ノ通りナルノミナラズ從來東洋方面ニ於テ
事業上ノ經驗モアリ日本政府ノ外債募集ニ當リテハ有効ノ
「サービス」ヲ提供シ得ベキ確信ヲ有ス自分等ノ觀ルトコ
ロニ抛レバ米国中央ノ財界ニ於ケル日本政府ノ信用ハ相当

五七〇

強固ナルガ故ニ自然来ルベキ倫敦市場ノ協力ト相俟チ又ハ
其協力ナクトモ差当リ一億弗位ノ募債ハ困難ナラザルベク
唯自分トシテハ日本政府ノ信用ニ関シ殆ド無智ナル中央以
外ニ於ケル米国一般ノ投資家ヲ「インテレスト」セシムル
コト換言セバ日本政府信用ノ民衆化ガ両国民ノ諒解ヲ進ム
ル上ニモ極メテ願ハシク而シテ此際ハ右ニ最好ノ機会ニシ
テ自分ノ会社ハ此方面ニモ有効ノ働ヲ為シ得ベキ準備アリ
云々ト申出デタルニ付本官ハ右好意ヲ謝スルト俱ニ本件ニ
就テハ既ニ他ノ筋ヨリモ提供ニ接シ居ル次第ナルガ本國政
府ノ意嚮全然不明ノ今日何等言質ヲ与ヘ得ル地位ニ在ラザ
ルモ右申出ノ次第ハ至急政府ニ電報スベク其結果何分ノ儀
訓令ニ接シタル上ハ重ネテ会谈スベキ旨ヲ答ヘ置ケリ
「モルガン」会社ノ「ラモント」モ既ニ本官ニ会見ヲシタ
キ希望ヲ洩ラシ居リ猶今後其他ニモ同様ノ申出アルベキ処
此等ト應對上本官心得置クベキ廉々往電第五五一号「ナシ
ヨナル・シチー」銀行申出ノ件ト併セ御考慮ノ上成ルベク
至急御電示アリタシ

猶帝國政府ニ於テ起債ノ御計画アルニ於テハ當國ノ關スル
限り財界ノ事情ニ精通シ且朝野ノ信任厚キ現大藏卿「メロ

ン」氏ノ所見ヲ叩クハ極メテ有要ノ儀カト思考スル処未ダ
政府ノ御方針ニ就キ何等承知セザル今日ナレバ本官ハ殊更
ニ右ノ如キ措置ニ出ヅルヲ避ケ居ル次第ナリ

四〇九 九月十四日

在オタワ太田總領事ヨリ
山本外務大臣宛

カナダ政府ノ本邦震災弔問ニ對シ謝意伝達ノ

件

付屬書一

九月十一日付在オタワ太田總領事ヨリ「キン
グ」カナダ首相宛書翰寫

山本外相ヨリノ謝意伝達ノ件

二

九月十日付山本外務大臣ヨリ在オタワ太田總
領事宛電報英訳文

カナダ政府ニ對シ謝意伝達方ノ件

公第一一三号

(十月十八日接受)

大正十二年九月十四日

在オタワ

總領事 太田 為吉(印)

外務大臣伯爵 山本 権兵衛殿

本邦震災弔問ニ對シ加奈陀政府ニ對シ謝意伝達ノ

件

八 関東大震災関係 四〇九

(付屬書一)

九月十一日付在オタワ太田總領事ヨリ「キング」カナダ首相宛

五七一

貴電第二三三号ヲ以テ加奈陀政府ノ弔問ニ對スル帝國政府ノ
謝意伝達方御訓令ノ趣敬承「キング」首相ハ當時不在ナル
モ早速別紙甲号寫ノ通りノ同首相宛書翰ニ右電報英訳(別
紙乙号)相添エ十一日内閣ヲ訪問ノ上首相ヘ送達方依頼致
シ置キ候間右様御承知相成度候

尚其節加奈陀政府ノ救恤係商務大臣「ロウ」氏ニモ右電報
訳文ヲ手交スルト共ニ救済用トシテ必要ナル物資ヲ示サレ
タル在米大使宛貴電ノ内容ヲ示シ候処恰モ内閣救恤會議開
会ノ際ナリシニ依リ同大臣ハ閣議ニ於テ前頭帝國政府表謝
ノ電報訳文ヲ讀ミ上ケタル趣ニ有之候

將又在米大使宛貴電第一八六号ハ其前日当館ニ転電セラレ
タルニ付適宜抄訳ノ上(別紙丁号)別紙丙号首相宛書翰ニ
添付加奈陀政府ノ同情ト好意トニ對シ不取敢感謝ノ意ヲ表
シ置クト共ニ貴電ノ趣旨ヲ体シ之レヲ当地方新聞社ニモ送
付シ公表致シ置キ候処右ハ十一日ノ各新聞ニ掲載セラレ居
リ候ニ付為念右新聞切抜共致ニ供貴覽候 敬具

註 別紙丙号、丁号並新聞切抜省略

八 関東大震災関係 四〇九

書簡写

山本外相ヨリノ謝意転達ノ件

甲号

September 11th, 1923.

Sir:

I have the honour to inform you that the letter you so kindly sent me on the 4th instant, expressing the sympathy of yourself and colleagues toward the people of Japan, was duly transmitted to the Japanese Government and I am now in receipt of a message from Count Yamamoto, Minister for Foreign Affairs, instructing me, as the representative of Japan, to express to you the deepest appreciation of the sympathy shown and the relief measures taken by your country. I am enclosing herewith for your information a copy of Count Yamamoto's message.

Thanking you again on behalf of my country, I avail myself of this occasion to convey to you my most distinguished consideration.

五七一

(Signed) T. Ohta
Consul General.

Right Hon. W.L. Mackenzie King,

Prime Minister and Secretary of State
for External Affairs,

Ottawa.

(付属書二)

九月十日付山本外務大臣ヨリ在オタワ太田総領事宛電報英訳文
カナダ政府ニ対シ謝意伝達方ノ件
乙号

Tokio, Sept. 10th.

T. Ohta, Consul-General of Japan,

Ottawa, Canada.

In reference to your telegram No. 86, you are hereby instructed to express to the Canadian Government the deepest appreciation of the Imperial Japanese Government for the sympathy shown and for the relief measures promptly taken.

Count Yamamoto.

四一〇 九月十四日

在オタワ太田総領事ヨリ
山本外務大臣宛

本邦震災ニ対スルカナダ首相其他ノ見舞状到

達状況報告ノ件

公第一一四号

(十月十八日接受)

大正十二年九月十四日

在オタワ

総領事 太田 為吉(印)

外務大臣伯爵 山本 権兵衛殿

本邦震災ニ関スル加奈陀首相其他ノ見舞状写送付
ノ件

本邦震災ノ報当地ニ伝ハルヤ当領首相「キング」氏ハ早速
其避暑地ヨリ特使ヲ以テ見舞ノ私信ヲ寄セラレ尙九月五日
帰府早々弔問ノ為来訪セラレタル次第並ニ公式ノ見舞状ヲ
差シ越シタル次第ハ拙電第八六号所報ノ通りニ有之候処尙
其他知名ノ士ヨリノ見舞状続々到来致シ此等ニ対シテハ一
本官ヨリ礼状ヲ發送シ置キ候ヘトモ為念右見舞状中主ナル
モノノ左記ノ通り供覧候 敬具

追而左記(ハ)本邦ノ婦人ニ宛テタル見舞状ナルニ付不取

八 関東大震災関係 四一〇 四一一

敢(ハ)付ノ通り本官ヨリ日本愛国婦人会ニ伝達ス可キ旨返
答致シ置キ候ニ付右事情御含ミノ上愛国婦人会ニ移牒方
可然御取計ヒ相成度候

左 記

- 一、九月三日付「キング」首相ノ本官宛私信写
- 二、九月四日付同首相ノ公式見舞状写
- 三、前首相保守党首領「ミーエン」氏書面写
- 四、前首相「サー・ロバート・ボーデン」氏書面写
- 五、下院議長「ルミュー」氏書面写
- 六、「オンタリオ」州政府ヨリノ見舞状写
- 七、「オタワ」市長「ブランド」氏書面写
- 八、加奈陀婦人会ヨリノ電報写

「付属」右電報ニ対スル本官返信写

註 見舞状省略ス

四一一 九月十五日

在米國植原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

日本震災救援ノ為米國ヨリ輸送中又ハ輸送準

備中ノ物品及船舶ニ関シ報告ノ件

第五八六号

(九月十六日接受)

五七三

貴電第四六五号ニ関シ当地米国赤十字社ヨリノ通報ニ依レハ本月十三日迄ノ寄付金額六百二十八万弗余ニシテ其内直ニ日本へ寄贈ノ為購入シタル物品ノ額二百六十五万弗「ウッド」大使ヲ通シ救済事務局宛送金セル額百万弗ナルガ同部ニ於テハ今回「ウッド」大使ニ対シ具体的計画ヲ立ツルノ必要上日本当局ニ於テ米国ヨリ物品ノ購送ヲ希望スルヤ将又現金ヲ便トスルヤヲ承知シタキ旨電報シタル趣ナリ尚目下小供用下着三十万個購入中ナルガ既ニ輸送中又ハ輸送準備中ノ物品及船舶左ノ通

九月六日「シヤトル」出帆 Tyndarens 号ニテ防水布 (tarpaulin) 百個、麦粉二百噸、「コンデンス、ミルク」千五百三個銕罐詰五百箱、堅パン (「ハードタック」) 六噸、諸藥品約五噸
九月九日「シヤトル」出帆「コンゾーサニタル」ニテ sotsakana 三百樽、米二十五噸、毛布一千枚、外套五百枚、鉄釘及針金 (galvanized iron, nail and wire) 二十八噸

九月十三日「シヤトル」出帆富山丸ニテ米五十噸、麦粉五百噸、銕罐詰一万个、堅パン二十噸、牛乳 (evaporated milk) 百噸、麦粉一千噸、毛布十万枚
九月二十五日「ボートランド」出帆「デュイー」号材木四百五十万枚

此等輸送品ノ宛先ハ在本邦米国赤十字ナル趣ナルガ尚混雜ノ際ニモアリ何等行違ヲ生セサル様通関其他ニ関シ特ニ官憲へ然ルベク御示達相成様致度為念申添フ

四二二 九月十五日 白川陸軍次官ヨリ
田中外務次官宛

米国救護団来航ニ伴フ注意事項通告ノ件
陸普号三七四〇号 (九月十七日接受)

大正十二年九月十五日

陸軍次官 白川 義則 (印)

外務次官 田中 都吉殿

「マニラ」ヨリ来航スヘキ米国救護団ハ横浜ニ上陸開設セシメラルコトニ決定致候ニ就テハ米国側ニ対シ左記御通告ノ上誤解等ヨリ生スル万一ノ紛擾ナキヲ期セラルル為可然御配慮相成度候也

左記

品) 五百箱、防水布百個

九月十一日「シヤトル」出帆「プレシデント・ジャクソン」麦粉百噸、「エヴァポレーテッド、ミルク」三千箱
九月十四日「シヤトル」出帆「ヨウメイ」丸生子鉄板及釘 (「コルゲーテッド、アイヨン、エンド ネール」) 二百噸

九月十七日「シヤトル」出帆「テンパイ」丸生子鉄板及釘百五十噸

九月二十日「シヤトル」出帆伊予丸麦粉五十噸、魚類罐詰百噸、牛乳百五十噸

九月二十三日「シヤトル」出帆「ジェフ・ハーソン」号生子鉄板及釘百五十噸

九月二十五日「シヤトル」出帆「ウエスト・ヘンショー」号材木四百五十万呎、屋根板五百万枚

九月六日桑港出帆「プレシデント・タフト」号米三百噸
九月七日桑港出帆「ソム」号米二百噸

九月十六日桑港出帆「ウエガ」号米五千噸、銕罐詰一千噸、「エヴァポレーテッド、ミルク」百噸、下着二十万枚、襯衣十五万枚、電鉄板 (「ガルヴァナイズド、アイ

一、人情風俗等ノ相違ヨリ罹災民ト意思ノ疎通ヲ欠キ誤解ノ發生並危険予防ノ為单独ニテ随意外出散歩等ヲ戒慎セラレ度コト

二、各所ニ於テ猥リニ写真ヲ撮影スルハ罹災民ノ反感ヲ招キ危害ヲ蒙リタルモノアル実例ニ鑑ミ必要ノモノハ戒嚴部隊へ申出ノ上撮影セシムル様セラレ度コト

四二三 九月十五日 在マニラ 杉村総領事ヨリ
山本外務大臣宛

本邦震災ニ対スル比島ノ救援運動概要報告ノ件

公第二九二号 (十月六日接受)

大正十二年九月十五日

在マニラ

総領事 杉村 恒造 (印)

外務大臣伯爵 山本 権兵衛殿

京浜地方大災害ニ対スル比島救援運動概要報告ノ件

我国ニ於ケル未曾有ノ大震災ノ報当地ニ伝ハルヤ内外人ノ別ナク同情ノ余リ何レモ一斉ニ之ガ応急救助方法ニ付全力

ヲ傾注シ各種団体又ハ官憲ニ於テハ夫々協議会ヲ開キ適當ナル措置ヲ講究シ熱誠ニ義捐金募集ニ従事致居候今其中主ナルモノヲ挙クレハ左ノ如クニ有之候

一、比島總督「ウッド」將軍ハ自ラ日本罹災者各国連合救護委員会ヲ組織シ各方面ノ代表的人物ヲ其委員ニ挙ケ（日本人側代表モ之ニ加ハル）同時ニ又別紙切抜ノ通り宣言書ヲ公表シ直ニ義捐金ノ募集ニ取掛リ米比日支人ハ勿論在留外人側ノ応募スル者頗ル多ク本日迄ニ蒐集シタル金額比貨五万余「ペソ」ニ上リ（此中ニハ比島在留日本人ヨリ提供ノ義捐金五千「ペソ」ヲ含ム）居候右ノ基金中ヨリハ既ニ去ル九月五日当地出帆ノ陸軍御用船 Merritt 号ニテ米一千袋又同十日出帆ノ Meigs 号ニテ米三千袋小麦一千袋等ヲ米国陸軍寄贈ノ諸物品ト共ニ災害地ヘ向ケ發送致居申候

二、在留邦人側ニ於テハ「マニラ」市日本人總代会主催ノ下ニ祖国災害民救恤義捐金募集ノコトヲ決議シ即時寄付金募集ニ取掛リ一方前記比島總督主催ノ各国連合救護会ニモ参同シ不取敢邦人側第一回ノ出捐トシテ金五千円ヲ提供シ本邦ヘ差立ツル救恤寄贈品ノ資ニ充テシメタル次

間敷夫レ相当ノ処マデハ集マルコトナラント存セラレ候

四、マニラ市長「ロドリゲス」氏ニ於テハ本邦罹災者ニ同情ヲ寄せ救助基金調達ノ為メ本月八日土曜日ヲ以テ「tag day」ト定メ米人看護婦会等ヲシテ紙徽章ヲ売捌カシメ其売上高二千七百「ペソ」ニ上リタル趣ニ有之候

五、米国赤十字社比島支部ハ京浜震災地ニ向ケ出来得ル限リ速ニ救護班ヲ出發セシムベキ旨同本部ヨリ電命ニ接シタルヲ以テ不取敢比貨二万「ペソ」ノ充當資金ヲ計上スルト共ニ義捐金募集ニ着手シ本月十三日迄ニ約五万余「ペソ」ノ釀金ヲ得タル趣ニテ九月五日既ニ当地ヲ解纜シタル陸軍御用船「メリット」号ニテハ「ロックフェーラー」フアウンデーシオン」比島支部及比島衛生局ノ協助ヲ得テ陸軍大佐 Dr. Manson 以下九十一名ヨリ成ル一大救護班ヲ載セ医療品約十噸ト共ニ出發セシメタル次第ニ有之候此外同支部ニ於テハ同船及九月十日当地出帆ノ陸軍御用船「メーグス」号ノ兩便ニテ米六千俵、小麦粉一千俵、「フランネル」二千碼其他ノ救恤寄贈品（此価額合計五万六千余「ペソ」）ヲ發送シタル由ニ有之候

六、在比米人商業會議所ニ於テハ臨時理事会ヲ開キ不取敢

第二有之候処本日迄ニ「マニラ」市並ニ地方十数ヶ所ノ在留民団体ヨリ送付シ来レルモノヲ合シ二万余円ト相成居候ニ付前記ノ五千円ヲ除キ今回事第二回分トシテ現金ニテ一万五千円当地横浜正金銀行支店經由貴省宛同銀行大阪支店払（東京支店ヘハ今尚電信不能ノ為メ）電信ヲ替ヲ以テ送付方取計ハシメ置候次第ニ有之候

三、比島上院議長「マヌエル・ケソン」氏ハ又比島全群島ヲ通シテ一大救済義捐金募集ノ企テヲ起シ先ツ比島民中ノ最モ慈善家トシテ知ラレタル富豪「テオドロ・ヤンコ」氏ヲ會長トスル国民救済会ヲ組織シ別紙切抜ノ如キ公開狀ヲ發シ居リ各方面ニ亘ル公共団体、俱樂部等ノ応援ハ固ヨリ各学校ニ於テモ教員生徒中ヨリ有志ヲ募リ男女学生ヲ問ハス集会所、興行場、活動写真館等ニ於テ一般公衆ニ対シ各四分間演説ヲ試マシムルノ形式ニ於テ義捐金ヲ募集シ居リ又中央政府ノ内務部地方局長ニ在リテモ島内各州知事ニ通牒シ各地方ニ於ケル募集ノ任ニ当ラシメ本日ヨリ向フ一ヶ月間内一人当リ鈔クモ五仙以上ヲ釀金セシメ約一百万「ペソ」ヲ得ントノ計画ニ有之候尤モ右ハ其声大ナルモ從來ノ例ヨリ見レハ大シタル額ニモ上ル

比貨壹万「ペソ」ヲ前記總督主催ノ救護委員会ニ提供シ其取扱寄付金既ニ二万三千「ペソ」トナリ居ル趣ニ有之候

七、又比島商業會議所（比島人）ニ於テハ壹万五千「ペソ」蒐集済ノ由ニ有之候

八、將又比島支那人商業會議所ニ於テハ臨時理事会ヲ開キ不取敢金壹万「ペソ」ヲ前記總督主催ノ救護委員会ニ提供シ尚引続キ義捐金募集中ニ有之候

九、在比羅馬加特力教法皇使節「ピヤニ」僧正ハ本島全体ニ亘ル加特力教寺院及其信徒ヨリ救恤金ヲ募集シ之ヲ在東京同派使節ニ送り罹災民ヲ救助セント目下尽力中ニ有之候

十、刻下是ヨリ冷氣ニ向ハントスル折柄ナルニ顧ミ比島總督夫人ハ在留米国夫人等ト協議スル処アリ其結果我罹災民中殊ニ女子、小児等ニ同情シ先ツ「フランネル」ニテ子供日本着一ツ身、三ツ身、四ツ身、並ニ子供用「ケーブ」等ヲ合シ約三千枚並ニ軍用「カキ」羅紗地ニテ婦人用日本合羽五十打ヲ米国婦人等ノ手ニテ自ラ調製シ之ヲ罹災者ヘ寄贈セントテ「マニラ」在留本邦婦人ノ援助

ヲ得テ目下製作中ニ有之其内衣服二千五百余枚及合羽三十五打ハ本日当地出帆ノ「プレシデントマヂソン」号便ヲ以テ発送スル由ニ有之候

十一、此外是等団体ノ手ヲ経ズシテ直接個人ニテ当館ヘ寄付金申込ノ比島人及外国人十数名アリ其金額五百「ペソ」余集マリ居申候尚民間各種俱樂部等ニ於テ慈善演芸会等熾ニ催サレ居申候

十二、比島駐屯米国陸海軍側ノ活動振ニ付テハ既報ノ通りニ付茲ニ省略致候

右等ニ対スル新聞切抜並ニ刊行物等御参考迄ニ茲ニ添付不取敢此段及報告候 敬具

四一四 九月十七日 在米国植原大使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

米国民ノ日本ノ震災救恤ニ対スル熱意ヲ謝ス
ル大統領教書発表ノ件

第五九一号

（九月十九日接受）

当市赤十字社義捐金応募高九月十六日迄ニ八百万弗ヲ超過シタル趣ナルガ同日米国大統領ハ米国々民ガ日本ノ震災ニ関スル救恤ノ訴ニ快ク応ジタルコトヲ謝スル教書ヲ発シタ

リ其大要左ノ如シ

友邦国民ノ非常ノ秋ニ際シ米国民ガ迅速ニ其災厄救恤ノ拳ニ応ジタルハ予ノ最感謝ニ堪ヘザル処ナリ初メ米国赤十字社ハ予ノ布告ニ從ヒ五百万弗ノ寄付ノ募集ヲ為シタルガ其後二週間ヲ出デズシテ今ヤ其応募額ハ最初ノ予定金額ヲ超過スルコト大ナルモノアリ予ハ此成功セル救恤事業ノ終ニ当リ米国民ニ向テ其常ニ進デ人類災厄ノ救援ニ応ズル米国民ノ義氣ノ発露ニ対スル深甚ナル謝意ヲ表明スルモノナリ云々

猶貴電第四五四号赤十字社ニ対スル謝辭ニ就キテハ既ニ國務省ヲ通シテ取計済ナルガ猶来ル二十四日当地ニ於テ全国赤十字社大会開催ノ筈ニテ本使ハ予テ招待ヲ受ケ居ル關係モアリ又赤十字社当局ノ希望モアルニ付右機会ニ於テ謝意表示旁々以上ノ演説ヲ為ス筈ナル処右演説中特ニ述ブルヲ適当ト認メラルル点御氣付アラバ至急御電報アリタシ

四一五 九月十八日 山本外務大臣ヨリ
在仏国佐藤代理大使宛（電報）

仏国政府ニ対シ謝意申入レ方訓令ノ件

第四九九号

在シドニー

総領事 鈴木 栄作（印）

貴官ハ仏国政府ニ対シ左ノ通り帝国政府ノ謝辭申入レラレ度シ

今回ノ大災禍ニ際シ仏国政府ハ直ニ在本邦仏国大使ヲ經テ其ノ深甚ナル同情ノ意ヲ表明セラレタルノミナラス在仏帝国大使館ヨリノ電報ニ依レハ仏国内閣決議ノ結果去ル七日巴里国立劇場ハ休業シ官公庁ハ半旗ヲ掲ケ弔意ヲ表シ又其後巴里新聞業組合ソノ他公私団体ニ於テ義捐金募集ノ計画進行中ノ趣ナリ日本国政府及人民ハ仏国官民ノ斯ル熱誠ナル同情ニ対シ衷心ヨリ感謝ノ念ニ堪エズ帝国外務大臣ハ茲ニ政府及人民ノ名ニ於テ深厚ナル謝意ヲ表ス

尚仏国大統領ヨリノ御親電ニ対シテハ疾ニ御答電御発送済ナリ

四一六 九月十八日 在シドニー鈴木総領事ヨリ
山本外務大臣宛

本邦震災ニ対スル濠州官民ノ同情ニ関シ報告
ノ件

公第一五七号

（十月二十五日接受）

大正十二年九月十八日

八 関東大震災関係 四一六

外務大臣伯爵 山本 権兵衛殿

本邦震災ニ対スル濠州官民ノ同情ニ関スル件

九月一日京浜地方大震災ノ報九月三日当地朝刊諸新聞ニ記載セラルルヤ濠州官民ハ拳ツテ其惨状ニ同情シ地方官憲ヲ始メ各自治団体実業者及知名ノ人士陸續トシテ当館ニ来リ天災地変ニ対シ深甚ナル同情ノ意ヲ表シ又遠地ヨリハ同情ノ籠レル手紙ヲ寄セ来ルモノ多数ニシテ之カ回答ニ忙殺セラルルノ有様ニ有之候而シテ其惨害ノ状況米国又ハ支那經由電報ニヨリ日々新聞紙上ニ掲載セラレ被害ノ程度モ漸次拡大シ空前ノ震災タルヲ知ルニ及ビ其惨害状況見ルニ忍ビス罹災民ノ状況ニ同情シ当地 Daily Telegraph 紙ハ率先シテ義捐金ノ募集ニ着手シ其冒頭ニ於テ今ヤ日本ハ震災ノ為数十万人ノ死傷者ヲ出シタルノミナラズ其辛フシテ避難シタルモノハ住ムニ家ナク着ルニ衣類ナシ時漸ク寒天ニ向フ生活上ノ材料ヲ需ムル事頻ナリ吾人ハ人道上ノ見地ヨリ之ガ救恤ヲナサザル可カラズ各自応分ノ援助ヲ与ヘ人道上ノ義務ヲ尽スニ各カナルベカラズトノ文字ヲ掲ゲ進ンデ援

助ヲ惜マザル態度ヲ示シ努力スル処アリタル為之ニ義捐スルモノ夥シク直接該新聞社ニ送付スルアリ或ハ当館ヲ通ジテ申出ヅルモノアリ其ノ義捐金送付ノ状況ヲ見ルニ単ニ Sympathises, Anonymous 又、pro Jap, Anglo Jap. 等ヨリ頭字ノミノ發表方ヲ依頼シ小切手又ハ現金ヲ送付シ来ルモノ日々多数ニ上リ本月十七日迄同社ノ主催ニ係ハル義捐金ハ英貨三千五百八十磅七志十一片ニシテ其中二千三百七十磅九志即チ金額ノ $\frac{2}{3}$ ハ実ニ当館ノ手ヲ経タルモノニ有之此外当州ノ Lord Mayor's fund, Chamber of Commerce fund アリ又「クキンスランド」州及「メルボルン」ニ於テ之ト同様盛ニ募金ニ着手シ「アデレード」ニ於テモ亦募集シ居候殊ニ連邦政府ニ於テハ救恤ノ為メ直ニ一万磅ノ現金ヲ我政府ニ送付寄贈シ又別ニ五万磅ノ支出ヲ可決シ食料衣類並ニ其他ノ材料ヲ買入レ汽船 Austral mond ニ積込ミ本月十五日日本邦ニ向ケ当地出帆シタル等当濠州ニ於ケル官民ノ今回ノ震災ニ対スル義挙の態度実ニ感服ニ余リアル次第ニ候更ニ連邦總督ノ Appeal ニ至リテハ往電第五四号ノ通り其同情アル美挙ニ感セザルモノナク全濠州ヲ挙ゲテ各地蹶起進ンデ義捐金ノ募集ヲ見ルニ至レルハ頗ル歎喜

告ノ件

公第五三三

(十一月七日接受)

大正十二年九月十八日

在リベロンブレト

帝國總領事館分館主任

副領事 早尾 季鷹(印)

外務大臣伯爵 山本 権兵衛殿

本邦震災反響ニ関シ報告ノ件

当地ニ於テハ通信機關ノ不備其他ノ事情ニヨリ本邦大震災ノ凶報ハ九月四日ニ至リ伝ヘラレ候処市民ハ該報ヲ耳ニスルト共ニ一般ニ深甚ノ同情ヲ表シ連邦、州及市ノ官憲ハ固ヨリ学校、僧侶及商人等ノ諸団体並知名ノ士ヨリ或ハ電報ヲ以テ或ハ書面ヲ以テ或ハ自ら直訪ノ上弔詞ヲ送り来ルモノ日々多数ニ上リ候殊ニ当市発行ノ三新聞紙(日刊)中「ア・シダーデ」及「ア・タルデ」ノ二紙ハ逸早く義捐金ノ募集ニ着手シ毎号罹災民救援ニ関スル記事ヲ掲載シテ目下之ガ募金ニ努力中ニ有之又当市庁ニ於テモ本月十五日ノ定例市会ノ決議ニ基キ本邦罹災民救護補助トシテ二百「ミルレイス」ヲ支出シ之ヲ当館ニ送付越候

ニ堪ヘサル次第ニ有之候濠州ハ其国はトシテ白濠主義ヲ固執シ有色人種ヲ排斥シ平素極メテ冷淡ナルニ係ラズ其日本ヲ知ルト知ラザルトヲ問ハズ挙ゲテ今回ノ震災ニ同情ノ意ヲ表シ又対日感情ニ付近來時々面白カラザル記事ヲ掲載セル Daily Telegraph (九月十三日付機密公第一四号参照)ハ率先シテ此義挙ヲ敢行シタルガ如キ事実ニ徴スルモ如何ニ濠州ハ我ニ同情ヲ寄せ居ルヤヲ視知スルコトヲ得ルコトト思考セラレ候

右不取敢報告申進候 拜具

追而クキンスランド總督各地市長各国領事及我名譽領事上下両院議長当州首相等ヨリ自身来館或ハ書面又ハ電報ヲ以テ弔辭ヲ述ベ来レル処此外無數ノ見舞アリ左記ハ各団体ノミノ表ニ有之候御参考迄ニ添付致候尚総テ本官ヨリ便宜応答致置候此外各地名譽領事ニ於テ受領ノモノ多数アル趣ニ有之候

註 各団体ノ表ハ省略セリ

四一七 九月十八日

在リベロンブレト早尾分館主任ヨリ
山本外務大臣宛

本邦震災ニ対スルリベロンブレト市ノ反響報

尚震災当時ハ新聞ノ報道区々ニシテ動モスレバ其ノ真相ヲ誤報スルガ如キ節モ相見エ候ニ付成ル可ク被害ノ程度ヲ確知セシムル目的ヲ以テ其後在伯大使館經由接受セル震災電報ハ必要ニ応シ之ヲ三新聞社ヲ通シ發表セシメ且市内本邦在留民ニ対シテハ差支無キ限リ前記電報ヲ写取リノ上博ク回覧ニ供シ置候

右不取敢及報告候 敬具

四一八 九月十九日

伊集院外務大臣ヨリ
在米國壇原大使宛(電報)

建築其他ノ諸材料ノ購入ニ関スルフーパー商

務長官ノ適切ナル注意ニ対シ謝意ヲ表明シ其

好意ノ持続方訓令ノ件

第四八三三

貴電第五七八、五七九号ニ関シ

本件ハ政府ニ於テモ重キヲ置キ近ク法令ヲ發布シ衣食住殊ニ第一着ニ建築材料ノ管理供給ヲ行フ筈ニ付法令發布ノ上ハ更ニ申進スヘキモ右御含ノ上フーパー氏ノ適切周到ナル注意ニ対シテハ貴官ヨリ謝意ヲ表明シ不遠更ニ具体的援助ヲ請フヘキ機會アルヘキ旨申伝ヘラレ其好意ヲ持続セシメ

ラレタク尚此上共同氏其他ノ忠言ハ時々御聞取ノ上電報アリタシ

四一九 九月十九日 在シカゴ吉田領事ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

米国海軍ノ救援活動ヲ日本海軍力妨害セル旨

新聞報道報告ノ件

第三七号 (九月二十一日接受)

在本邦「シカゴ・トリビューン」特派員 Matheson ノ本邦官憲ノ検閲ヲ経サル最初ノ通信トシテ今十九日ノ同紙ニ掲載セル処ニ依レハ(一)米国海軍力逸早く救援ノ為横浜ニ赴キタル際ニ日本海軍ハ之ヲ妨クルカ如キ行為ヲナシ(二)日本駆逐艦ハ鎌倉ニ於テ一皇族ノ死体ヲ收容ノ際多数内外人ノ同乗ヲ拒ミ且ツ外国軍艦ノ同地ニ至ルヲ禁スル旨ノ通牒ヲ送り来リタルモ米国駆逐艦三隻ハ之ニ拘ラス人道ノ為湘南地方ニ赴キ約二百名ノ外国人ヲ救助シタリ(三)戒厳司令部ヲ帝国ホテルニ設置スルト同時ニ同ホテルニ在ル外国人ニ対シ他ニ避難場所ナキニモ拘ラズ数日内ニ立退方ヲ命シ一方米国艦隊司令官ニ対シテハ東京近傍ニ艦船ノ派出ヲ禁シタルモ同司令官ハ右ニ拘ラス小蒸汽ヲ出シ以テ之等行場ナキ外国

Review ヲ発行スル由ヲ報ズ

四二一 九月二十日 在上海矢田総領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

震災ニ関スル英字新聞論調並日本人ニ対スル

中傷の記事発表防止措置ニ関シ報告ノ件

機密第二一五号 (十月六日接受)

大正十二年九月二十日

在上海

総領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

震災ニ対スル英字新聞論調並中傷の風説ニ関スル件

我国大震災ノ報当地ニ伝ヘラルルヤ当地内外人ハ多大ノ驚愕ト同情トヲ表シ数日間当館ヲ来訪スル慰問客頗ル多数ニ上リ各英字新聞ハ連日震災記事ヲ以テ満サレ社説欄ニハ執レモ同情アル論説ヲ掲載シ九月八日外国人遭難者百三十余名「エムプレス・オヴ・カナダ」号ニテ初メテ当地ニ到着スルヤ各紙共競ツテ遭難実験談ヲ掲ケタルカ其遭難談中震火災ニ対スル我官民ノ態度ヲ賞讃シ又ハ日本人婢僕ノ忠実且猷

人ヲ救出シタリ云々
華府へ転電セリ

四二〇 九月十九日 在米国植原大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

難民救援ニ当レル米海軍ノ行動ト之ニ対スル

日本官憲ノ態度ニ関スル新聞報告ノ件

第五九四号 (九月二十一日接受)

十九日新聞報

(一)「バルチモア・サン」掲載十二日大阪発市俄古「トリブーン」Matheson ノ長文特電ハ日本海軍ハ鎌倉逗子等ガ禁止地域ノ故ヲ以テ米国軍艦ノ立寄方ヲ禁シタルモ米国軍艦ノ諸艦長ハ之ニ拘ラズ人道ノ見地ヨリ此等諸地方ニ立寄り難民救助ニ当レリ又東京ノ軍事当局ガ帝国「ホテル」ヲ其本営ト為シ他ニ避難ノ場所ヲ有セザル外国人ニ対シ数時間内ニ同「ホテル」ヨリ他へ立退クベキコトヲ命ジ居ル等ノ好マシカラザル印象ヲ与フル通信ヲ為セリ(二)華府「ポスト」ハ露国ハ米国実業家ト通商上ノ接觸ヲ保ツ為ニ華府ニ要柁ノ一部局ヲ設ケ Skinsay ヲ其任ニ当テ十九日ヨリ執務スル趣ナルガ今後月二回ノ雑誌 Russian

身のナルヲ称揚セルモノ少カラス「イヴニング・ニューズ」紙ノミハ一方賞讃の談話ヲ掲クルト共ニ亦多少中傷的ノモノ一、二ヲ掲ケタリ)対日感情カ極メテ良好ナルコトヲ看取セラレタルカ九月十一日我特殊関係英字新聞ニ達セル寄書ハ著シク日本人ヲ中傷シタルモノニシテ之ヲ紙上ニ掲載スル時ハ甚タ面白カラサル影響ヲ及ホスヘキ旨本官ニ内報有之候右寄書ハ横浜ニテ遭難セル一仏国人カ上海在住ノ妻ニ宛テタル書面ヲ土台トシ之ニ寄書家カ更ニ意見ヲ加ヘタルモノニシテ其内容ハ大要左記ノ如クニ候

横浜ノ震災ニ際シ港内外国船ハ避難者ノ救助ニ全力ヲ尽シタルカ日本船舶ハ更ニ之ヲ顧ミス却ツテ避難者ヲ拒絶シ偶々乗船ヲ許スモ普通乗客ニ非サルノ故ヲ以テ一日半食事ヲ給セサリキ又岸壁付近ニテ小舟ニ在ル日本人ニ救援ヲ求ムルモ之ニ応セス殊ニ外国人ニ対シ援助ヲ拒メリ又横浜ニハ三日間ニ亘リ全ク巡查ノ服務スル者ナク掠奪暴行盛ニ行ハレタリ日本人ノ数年来巧ニ装ヒタル仮面ハ此ノ異常ナル天災ニヨリ脱セラレ醜惡ナル本質ハ赤裸裸ニ暴露サレタリ日本ハ五十年内ニ滅亡ノ外ナカラシ目下上海ニテハ外国人ヨリモ義捐金募集セラレツツアルモ

若シ之ヲ日本人ニ交付スル時ハ外国人遭難者ノ為ニ使用セラレサルヘシ云々

右寄書ハ遭難者カ大災害ノ為メ精神状態平衡ヲ失セル為メ誇張ノ言ヲ為シタルカ或ハ殊更日本ヲ中傷セントノ意志ニ基ツクモノナルヘシト存セラレ候得共右寄書ハ他ノ英字紙ニモ同時ニ送付セラレタル疑有之翌朝ノ紙上ニ発表セラルルノ懸念有之候ニ付之ヲ防止スル手段トシテ該寄書ニハ何等言及スルコトナク本官ノ名ヲ以テ大要左ノ如キ書面ヲ各英字新聞ニ送付致置候

今回ノ震災ニ際シ日本人カ外国人遭難者ニ救援ヲ与ヘサリシトノ風説ヲ聞込ミタルカ斯カル苦情カ新聞紙ニ発表セラルルニ先チ日本政府ヲシテ之ヲ調査スルノ機会ヲ与ヘラレンコトヲ希望ス予ハ日本ヲシテ正当ナル批評ヲ回避セシメントスルモノニ非サルモ此際斯カル風説ヲ流布スルハ其影響甚大ナルヲ信ス後ニ至リ其誤伝ナルコト判明スルカ如キコトアリテハ殊ニ遺憾ナリ予ハ遭難外国人ノ取扱振及保護不行届等ノ事柄ニ就テハ直ニ調査方取計フヘシ

然ルニ右書面發送ノ結果各新聞共前記寄書ヲ掲載スルモノ

右寄書ニ対シ同新聞ハ同日ノ短評欄ニ於テ大要左ノ如ク我方ノ立場ヲ弁護致候

吾人ハ事情ヲ明瞭ナラシムル為メ該寄書ヲ掲ケタリ或ル人々ハ日本ヨリ醜惡ナル物語ヲ持チ帰レリ其ノ物語ハ一人人ニ限ラレサルモ之カ伝播ハ平等ニ行ハレスシテ日本ニ対スル誹謗ノミ盛ニ行ハレ居レリ日本領事ハ之ヲ聞知シ事実ノ判明スル迄上海ノ新聞界ニ対シ公平ナル態度ヲ執ランコトヲ要求スルモノニシテ至極尤モノコトナリ震災ノ如キ場合ニ於テハ殊ニ然リ遭難者ノ言説ニハ誇張ノ言無カラシム大災害ニ際シ好マシカラヌ事件ノ偶発スルハ止ムヲ得サルヘシ斯カル危急ノ際ニハ囚人モ開放セラハヘク囚人等ノ行動カ時ニ全班ノ事態ヲ着色スルコトアルヘシ斯カル事情ノ下ニ日本領事カ要求スル所ハ日本ノ立場ヨリ云フモ亦一般ノ利益ヨリ云フモ尤モノ次第ナリ如斯今回ノ震災ニ際シテハ「デーリー・ニュース」カ極メテ公平且同情的態度ヲ持シ毫モ日本ヲ中傷スルカ如キ言説ヲ掲ケス自余ノ新聞モ孰レモ之ニ倣ヒ同情的ノ記事論説ヲ掲ケ日本人ヲ非難スルカ如キ記事ヲ差控ヘ居候但英字紙中最モ貧弱ナル「イヴニング・ニュース」ハ本官ヨリ書面ヲ

無ク却テ「ノースチャイナ・デーリー・ニュース」及「チャイナ・プレス」ノ両紙ハ十二日ノ紙上ニ本官ノ書面全文ヲ掲ケタルヲ以テ右ハ単ニ該寄書ノ発表ヲ防止シタルノミナラス将来ニ対シテモ同様ノ投書ヲ予防シタルカ如キ効果有之候然ルニ同十四日「ノースチャイナ・デーリー・ニュース」ハ本官ノ書面ヲ弁駁セル一婦人ノ署名アル長文ノ寄書ヲ掲載致候其要領ハ左ノ如クニ候

日本領事ハ日本ニ不利ナル記事カ新聞紙ニ掲載セラレントスルニ際シ予メ之ヲ検閲シ言論ノ自由ヲ奪ハントスルモノニシテ右ハ驚クヘキ企画ナリ日本カ常ニ日本ノ新聞ニ対シ嚴重ナル検閲ヲ為スハ欧米ノ言論自由ノ思想ト相容レサルモノナリ来瀝遭難者ノ実話ハ決シテ半狂人ノ叫ニ非ス数日後ニ至リ冷静ニ其経験ト觀察トヲ真面目ニ披瀝スルモノニシテ日本人ノ忠実ト勇氣トニ対シテモ多数ノ賞讃の言辭アルヲ見ル日本領事ノ動機ハ可トスルモ日本ニ不利ナル批評ヲ圧止セントスルコトハ新聞紙ニ取リ迷惑ナリ若シ同領事ノ要求カ容レラルルナラハ二十一ヶ条要求及石井ランシング協約ニ於ケルカ如ク列国ニ対シ甚タ好シカラヌ印象ヲ与フヘシ

發送シタル後ニ於テモ遭難者ノ談トシテ日本人ノ不親切ニ関シ二三ノ記事ヲ掲ケタルモ其ノ社主筆ハ特ニ本官ニ返書ヲ送り同紙ハ一方日本人ノ不親切等ニ関スル遭難者ノ談話ヲ掲ケタルモ他面多数ノ賞讃の記事ヲモ掲ケ居ルコトヲ指摘シ同紙ハ公平ナル立場ニ於テ編輯セラレ決シテ日本ヲ中傷センカ為スカル記事ヲ掲クルモノニ非サル旨ヲ述ヘ本官ノ書面ニ対シ弁解の説明ヲ致シ居候

右御参考迄及報告候 敬具

本信寫送付先 在支公使

四二二 九月二十一日

在リヴァプール益子領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

本邦大震災ニ対スル英国新聞ノ同情的論調ニ

関シ報告ノ件

公第一二三号

(十一月十九日接受)

大正十二年九月二十一日

在リヴァプール

領事 益子 斎造 (印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

本邦大震災ト英国新聞ノ同情的論調ニ関シ

報告ノ件

本月一日東京及横浜ヲ中心トスル大震災ハ世界ノ耳目ヲ聳動シ各国民ノ同情ハ翕然トシテ集マレルノ感アリ英国ニ於テモ亦上下ヲ通シ深甚ノ同情ヲ寄セラレ罹災者救恤事業参加上人後ニ落チサルノ誠意ヲ示サレタルハ感謝ニ値スルコト勿論トス、震災後約二週間震源地タル東京横浜トノ通信機関ノ切断ノ為メ損害ノ程度ヲ具ニ知ルヲ得ス早クモ揣摩憶測ヲ逞フスルアリ当国新聞紙ハ何レモ同情アル論説ヲ掲ケ救恤ノ急務ヲ人類ノ同情ニ訴フル処アリ其ノ雜報欄ハ各地ヨリノ電報ヲ掲ケテ震災慘状ノ真相ヲ読者ニ報道シ紙面ハ之ニ関連スル記事論説ヲ以テ埋メラレタルノ觀アリ、何レモ深甚ノ同情ヲ寄セ、大体ニ於テ日本ノ現状ヲ正解シ居レリト認メラル左ニ参考迄幾種新聞論説抜萃ヲ掲ケン（倫敦方面ハ一、二ヲ除ク外可成省略セリ）

リヴァプール・エコー紙 (The Echo) (九月五日)

經濟の見地ヨリ東京横浜ノ重要ナルハ恰モ倫敦カ英国商工業ニ於ケルノ關係ト何等軒輊スル処ナシ、然ラハ今回ノ大震災カ日本ノ将来ニ如何ナル打撃ヲ及セリヤ、日本繁栄ノ基礎タル主要資源ハ必スシモ東京、横浜ニ限ラス、

英国ト等シク日本ノ經濟的活動ハ其ノ全土ニ亘ル、而モ主要産業地帯ハ寧ロ大阪、神戸ヲ中心トスル地方ナリ大阪ハ日本ノ「マンチエスター」トシテ知ラルル一大商工業市ニシテ其ノ大サヨリ云フモ国内第二位ヲ占メ数千ヲ以テ数フル大小工場ハ何レモ最新式機械ノ裝置アリ同地方ニ於テ産セサル貨物一トシテアラサルナク其額亦大ナリ、例ヘハ綿製品生産ハ全額ノ三分ノ一ヲ占ム今回ノ震災地域外ニ位スル西南部日本ハ産業的ニ云ハハ中部ヨリ更ニ重要ナリトス即チ大炭坑、製鉄所、主要造船所等何レモ同地方ニアリ製造業極メテ旺盛ナリ

左レハ日本ハ今回ノ震災ノ為メ産業的ニ不具トナレリト云フハ当ラス、産業的ニ負傷セリト云フヲ適當トスヘク右ハ亦到底避ケ難キ災厄トス然レトモ其ノ蓄積セル富力ハ其ノ回復ヲ予想外ニ速カナラシムヘシ這次打撃ノ最モ痛切ナルハ財政方面ニ存スヘキモ日本ノ財政ハ頗ル堅実、國際信用ハ安固ナレハ外国ノ補助ヲ得ント思ハハ何時ニテモ之ヲ得ルノ強味アリ、云々

リヴァプール・デリーポスト・エンド・マーキュリー (Liverpool Daily Post and Mercury) 九月七日

The Belfast News-Letter. 九月四日

暴風、地震、海嘯及火事ノ襲來ノ為メ日本及日本国民ノ蒙リタル慘禍ハ実ニ名状スヘカラサルモノアリ、報道断片的ニシテ真相ヲ捕捉シ得サルモ東京ニ於ケル死者十五万、横浜ハ文字通りニ破壊セラレタリト蓋シ其ノ損害ノ程度ヲ窺フニ足ランカ、元来日本ハ有名ナル地震国ナリ、從來ノ日本家屋カ木造ニシテ脆弱ナル此ノ間ノ哲理ヲ知ルニ足ルヘシ、然レトモ新日本ハ世界ノ通商ノ發展ト世界の競争参加ニヨリ西欧生活様式ヲ採用セリ、地震損害ノ大ハ最近激増セル洋式大建築ノ為メ火災ハ從來ノ木造ニ負フ処多シ、兎ニ角慘禍ノ度極メテ大ナリ救済ノ來ルコト速カナランコトヲ希望スルト同時ニ其ノ救済ハ世界の大規模ノモノタルヘシ云々

マンチエスター・ガーディアン・コマーシャル (九月十三日)

The Manchester Guardian Commercial.

今回ノ震災ノ為メ日本ノ蒙レル物質的損害ハ世界産業史上未タ比喩ヲ見サル処トス、其後ノ報道ハ最初報セラレタル程度ヨリハ幾分下位ニ見積ラレ居ルカ如シ、前週中

今回ノ日本大震災ノ如キ一大慘禍ノ損害程度見積リハ往往實際ト遠カルハ致方ナシ、其ノ後ノ報道ヲ綜合スルニ最初ノ報道ニハ幾分誇大ノ点アルヲ思ハシムルハ不幸中ノ幸ト云フヘシ、然レトモ這次大震災ノ損害程度ニ関シテハ地震ノ慘禍ニ經驗ヲ有セサル者ノ想像以外トスルハ言フ迄モナシ、将来或ル期間日本国民ハ部分的ニ麻痺ノ状態ニアルヘシト思ハルルノミナラス産業的ニ將タ財政的ニ震災ノ影響ハ独リ日本ノミニ止マラサルヘキヲ恐ル、日本ノ一時的無力ニヨリ發生セル事態ニ応スヘク一層努力ヲ念トスヘキハ諸外国殊ニ英国ノ任務トスヘシ茲ニ慶スヘキハ日本ノ此ノ窮状ヲ如何ニ救フヘキカノ世界人類ノ同情ノ出露トス、今ヤ黃禍ノ妖怪ニ関シテハ何等聞ク処ナシ、「日本ノ競争」テフ漠然タル恐怖ハ從來米國及濠州ノ政策ヲ支配セルカノ状態ナリシモ過去ノ恐怖ハ今ヤ同情ニ代レリ、吾人ハ「禍転シテ幸」ノ句ヲ思ハスンハアラス、震災ノ苦惱中ヨリ獲得シタル一ノ慰藉ハ日本カ文明ノ促進ニ貢獻セントスル尊キ任務ヲ諸国民カ認ムルニ一歩ヲ進メタルコトニアリ云々

ベルファスト・ニュース・レター (アルスター)

吾人ハ日本ノ国力ハ第四位以下ニ降下スヘシト告ケラレタルモ吾人ハ其ノ然ラサルヘキヲ信スヘキ理由アリ(マンチェスター・ガーディアン紙ハ震災ノ当初大阪毎日新聞通信ノ大悲観的報道ニ誤ラレ「日本ハ今回ノ震災ノ為メ産業的経済的大打撃ヲ受ケ当分回復ノ見込ナク為メニ支那及印度等ニ於ケル「ランカスター」綿貿易ハ之レカ為メ緩和セラルヘシ云々」ト論セリ)

日本外国貿易ノ三分ノ一ハ横浜、二分ノ一強ハ神戸、大阪之ヲ占ム而シテ横浜力復興ヲ見ル迄之ニ代リ任務ヲ遂行スヘキ港乏シカラス、一時的ノ横浜港喪失ハ日本他地方ノ産業ヲ破壊スルモノニアラス

況ンヤ船舶業ノ被害ハ極メテ小ニシテ農業ハ何等ノ打撃ナク、坑山業又然リ、要スルニ損害ハ大ナルモ日本産業ヲ不具状態ニ陥ラシムルモノニアラサルハ明カナリ、云云

マンチェスター・ガーディアン紙 (Manchester Guardian) 九月九日

同紙ハ本月三日、五日、六日、九日、十二日等ニ亘リ第一面ニ "Earthquake in Japan", "The Disablement

of Japan", "Is Japan Disabled?", "Japan's Losses", "The Cotton Trade and the Japanese Disaster" 等ノ論説ヲ掲載セリ、参考ノ為メ「綿業ト日本ノ震災」大意左ニ地震並ニ火災ニヨル日本綿業ノ損害程度ニ関シテハ未タ確報ヲ欠クモ直接、間接ニ甚大ノ打撃ヲ受ケタルハ疑ナシ、神戸ヨリノ入電ハ日本全鍾数ノ三割ハ作業不可能トアリ紡績機ハ強震ノ為メ破壊又ハ故障アリタルヘキハ之ヲ想像スルニ難カラス、然レトモ右ハ期日ナラスシテ修理ヲ了スルコトヲ得ヘシ、大阪ハ日本紡績業ノ中心地ニシテ而モ震災地域ニ遠カレリ、左レハ此ノ意味ニ於テ希望ヲ繫クコトヲ得、綿業及絹業ハ日本産業ノ大宗タリ、此ノ兩者救ハレタリトセハ其ノ復興事業ニ貢献スルコト大ナルヘシ、紐育及「リヴァプール」棉花市場ハ日本綿業ノ蒙リタル損害程度ヲ知ラント頗ル熱心ナルモ其ノ理由ハ相場ニ及ホスヘキ影響アリテ存ス、「マンチェスター」市場亦頗ル本件ニ関心スルハ其ノ理由自ラ異ナルアリ、ソハ兩者貿易関係ノ親善ニアリ、或ル意味ニ於テハ日本ハ極東市場ニ於テ「ランカシア」ノ競争者ナリ、然レトモ普通云フ商敵ト今回ノ如キ震災ハ自然混同スベキ

モノニアラス、割引勘定其他各種考量ヲ必要トスル實際問題発生スヘキモ相互友誼ニ基キ出来得ル丈ケ便宜ノ考量ヲナスヘキコト此際特ニ必要ナリト考フ云々

"The Economist" (週刊経済雑誌) 九月八日

今回ノ日本震災ノ大悲劇ニヨリテ受ケタル感傷ノ念ハ之ヲ表示スルニ適當ノ言葉ナシ、此ノ災厄ニ当面シ吾人ノ心中ニ潜ム「ヒュマニティー」ノ念ハ此ノ機会ニ不幸ナル日本国民ニ対シ深甚ナル同情ヲ表明スヘク有力ニ訴ヘツツアリ人命財産ニ及ホセル損害ノ正確ナル觀念ヲ得ルコト目下ノ処不可能ナルモ其ノ額ノ大ナルヘキハ疑ナシトス、日露戦争ノ戦費ハ二十億円ヲ要セルモ今回ノ損害ハ同額ニ達セリト見ルコト不可能ニアラス、然レトモ日本通ヲ以テ誇ル一英人ノ如ク損害ハ百億円ニ達セリトカ又ハ或新聞論評ノ如ク日本ハ最早強國ノ班ヲ脱セリナドト見ルハ当ヲ得タルモノニアラス、一九一四年ニ「サー・ジョシア・スタンプ」(Sir Josiah Stamp) ハ日本ノ富ヲ二百四十億ト評価シ中土地百十億、建造物三十億、家具十五億其他鉱山各種産業ヲ五十億トナセリ、目下ノ物価指数ハ戦前ノ約二倍ニシテ爾後日本ハ其人口、

富ヲ更ニ増加セルヲ以テ目下日本ノ富ハ五百乃至六百億ノ間ト見ルヲ至当トスヘシ、土地値段ニハ多大ノ打撃ナク主要損害ハ建造物等ニシテ其ノ額二十億ヲ超ユルコトナカルヘシ、更ニ商工業財産ノ関スル限り危険ノ程度ハ建物ノ夫レヨリ渺カルヘシト見ル所以ハ日本産業ノ中心ハ寧ロ関西方面ニアレハナリ

損害程度ニ関シ無謀ノ算定ヲナスハ其ノ影響スル処大ナルヲ以テ慎重サルヘカラサルモ其ノ損害ノ大ナルハ之ヲ認メサルヘカラス、左レハ茲ニ左記三点ヲ考量シ見ン

(一) 直接商業的ニ及ホセル損害及影響

(二) 日本カ世界貿易上占有セシ地位回復ノ可能

(三) 日本ノ首府復興ニ関連スル諸問題

(一)ニ関シテ記憶セサルヘカラサルハ最近日本ノ貿易状況ハ寧ロ好況旺盛ヲ以テ目スヘカラサリシコト

約一ヶ月前在日本通信員ハ幾多銀行ノ取付ケ又ハ破綻ヲ報シ居レリ一九二一年以来一般商社ノ信用状態ハ満足ノ状況ヲ示サス、幾多商社ハ其ノ營業継続不可能ナルヘシト懸念セラレタリ、今回ノ震災ニヨリ発生スヘキ困難ハ(一)貨物ノ焼失(二)實際財産ニ基礎ヲ置ケル信用貸借ノ崩落

(三) 震災地域ニ於ケル經濟活動ノ中止等ノ原因ニアルヘシ
歐洲商人ハ此ノ三種ノ原因ニヨリテ或ル程度迄損害ヲ蒙ルヘキモ更ニ商売ノ一時的ニモセヨ中止ニヨリ蒙ル影響大ナルヘシ、是レカ評價ハ現在ノ処不可能ナルモ過去數ヶ月ニ於ケル日本ノ貿易狀態ノ寧ロ不況ナリシ丈ケ夫レ丈ケ普通ノ場合ニ於テ感スヘキ反動程シカク大ナラスト見ルヲ得ヘシ

(二) ニ関シテハ一大通商国民ニ及ホセル斯ノ如キ痛棒ハ幾多貿易ノ危機連発ヲ可能トシ從ツテ世界貿易ヲ危殆ナラシムヘキ幾多事情ノ存スルコトアル明白ナリトス、然レトモ一般貿易ノ沈滞ハ何レモ投機ヲ警戒スルノ結果トナリ、是レカ為メニ損傷割合尠カルヘシ、狹隘ニ英国民的ノ見地ヨリ之レヲ窺ハハ日本カ世界競争圈ヨリ一時的ニモセヨ撤退セルハ印度、支那方面貿易増進ノ原因トナリ之レカ為メ一時的ニ英國ハ利益スト云フコトヲ得ヘシ、然レトモ右ハ結局世界貿易ノ増進ト云ハンヨリハ減退タルヲ意味スヘシ

(一) 東京再建ハ震災ノ一般的惡影響中幾分ニテモ商況ヲ引キ立タシムヘキ報償ヲ提供スルモノト云フヘシ、此ノス、日本在外正貨ハ一時二十億円ト注セラレタリ、日本ノ國際的財力ハシカク安定ニシテ大戦以來日本国内財政ハ満足ノ一語其ノ狀態ヲ説明シテ余アリ、救済並復興事業ニ莫大ノ資金消費セラルヘキハ明カナリ、此ノ難問題ニ当面シ日本政府ハ内外國債募集又ハ増税ノ必要ニ迫ラルヘシ

東京横浜ノ復興ハ各種建築材料ノ需要ヲ大ナラシムヘシ、戦後數年間英米ヨリ輸入セシ建築材料ハ莫大ヲ示セルハ宏壯ナル洋式大建築ノ増加之レヲ説明シ得ヘシ、此ノ洋風大館ノ建造傾向モ今回ノ震災ノ結果再ヒ從來ノ建築風ニ逆転スヘキコト計リ知ルヘカラス、産業日本ノ復興ハ、過去十數年ニシテ其ノ規模設備ヲ倍加セルノ進歩ヲ示セルハ茲ニ之レヲ贅スルノ要ナシ、今回ノ震災ノ深甚深刻ナル如何ナル国民ニ降下スルモ其ノ資力ヲ極度ニ緊張セシムルニ足ルヘシ、然レトモ日本人ノ如キ振興國民ニ取リテハ、此ノ難問題解決不可能ナラサルヘキハ明カナリトス、云々

倫敦タイムス(九月三日)

日本今回ノ大災厄ノ慘憺タル其ノ光景ヲ想像スルニ難カ

目的ノ為メ所要品ノ大部分ハ海外ニ需メラルヘク且ツ又倫敦及紐育市場ニ發行セラルヘキ公債ヲ予想シ得、斯クシテ募集セル金ハ又必要品購入ニ使用セラルヘク旁多少ノ刺戟ヲ与フルモノト云フヘシ

「ステテスト」(週刊經濟紙) 九月八日東京横浜ノ事実上ノ破壊ニヨリテ喚起セラレタル世界の同情ハ各国カ着手セル救済方策克ク之ヲ説明シテ居ルモノト云フヘシ、不幸ニシテ最近入手ノ報道ニ拠レハ其ノ損害ノ程度ハ最初予想セラレタルモノヨリ大ナル処アルカ如シ、両市ニ於ケル損害ハ約百億円ニ上ルヘク、復興ハ二年ノ歲月ヲ要スヘント云フ者アリ

政府所在地ニシテ且ツ近世的經濟、精神兩生活方面ヲ代表スル都市ノ破壊及ヒ之レカ再建ハ実ニ偉大ナル事業ヲ政府ニ与フルモノニシテ而モ其ノ事業ハ幾多有能官公吏ノ死傷ニヨリテ更ニ困難ヲ増加スルモノト云フヘシ、從ツテ此際有力ナル政府ノ出現ハ此ノ意味ニ於テ最モ欠クヘカラス、最近最モ濃厚ノ度ヲ示セル政争モ此ノ災害ニヨリテ一時影ヲ潛ムヘキコト最モ希シトス、目下ノ場合ニ於テ日本ニ取リセメテモノ幸福ハ内外信用ノ安定ト

ラス僅々數時間ニシテ島帝國ノ首都東京並ニ世界通商貿易ノ繁華ナル横浜ヲ烏有ニ歸セシメタル其ノ震災ノ慘禍ハ人類ノ記録ニ絶スルモノタリ、更ニ災厄ハ東京横浜ニ止マラスト云フヘク、其ノ程度如何ニ関シテハ暫ク後報ヲ待ツノ要アリ、只吾人カ知リ得ル損害ノ程度ハ極メテ莫大ナルヘキコト丈ケハ無線、飛行機其ノ他ニヨル通信ニヨリテ察知スルコトヲ得ルノミナリ、斯カル場合ニ有リ勝チノ通り報告ハ誇大ナルモノナルカ此ノ場合前記報道カ誇大ナルヘキヲ希望シテ已マス、生存者ノ困苦ハ蓋シ測ルヘカサルモノアリ、彼等ハ食ナク、衣ナク、住ムニ家ナシ、彼等ハ所要セサルモノナク而モ頗ル緊切ナリ、倫敦市長カ病中ヨリ罹災者救済資金募集ニ着手セルハ其ノ地位及「トラデイション」ニ忠実ナルモノト云フヘシ、右ハ一般人道カ吾人ニ要求スル処ニシテ英國ハ未ダ嘗テ此ノ要求ニ聲ナラサリキ、市長ノ此ノ人道的訴ヘハ直チニ國民ノ響應スル処トナルヘキハ疑ナキ処トス

各方面ヨリノ救済ハ今ヤ日本ニ向ツテ動キツツアリ、米國ハ云ハスモカナ、此際殊ニ著シキハ支那ニ於ケル排日

有力機関モ其ノ運動中止ヲ決議セリト右ハ亦世界の同情ノ発露ヲ物語ルノ証左ニアラズシテ何ゾ、
右及報告候 敬具

四二三 九月二十二日

伊集院外務大臣ヨリ
在シカゴ吉田領事宛(電報)

日本官憲ニ依ル米海軍救援活動妨害ノ事実ナ

キニ付適宜真相公表方訓令ノ件

第一四号

貴電第三七号ニ関シ Matheson ノ通信ハ事実ヲ誣フルノ点多ク曩ニ在米大使米電第五九四号ニ対シ同大使宛往電第四九一号(貴官及紐育ニ転電ノ答)ヲ以テ一応電報シ置キタルガ第一日本官憲ガ横浜ニ於テ米海軍ノ救援ヲ妨クルガ如キ行為ヲナシタル事実ナキノミナラズ状況ノ許ス限リ便宜ヲ計リ好意ニ酬キタル次第ニテ又貴電第三末段米海軍船ノ東京近傍派出ヲ禁ジタリトノ通信ハ当時応急救護物品ノ芝浦陸揚ノ円滑ヲ計ル為メ一般艦船ノ出入ヲ禁ジタルヲ意味スルナルベク危急ノ場合已ムヲ得ザル処置ニシテ米海軍艦船ノミヲ差別取扱セルモノニ非ズ殊ニ米海軍艦船ニ対シテハ其ノ出入ヲ禁止セル事実無ク初メヨリ芝浦迄ノ航行ヲ

許シタルノミナラズ一般秩序ノ回復ト共ニ外人救援ノ便ヲ計ル為特ニ築地河岸迄ノ出入ヲモ許シタル次第ナリ右適宜公表アリタシ

本電華府及紐育ニ転電アリタシ

四二四 九月二十二日

在米国植原大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

義捐金ノ処理方法ニ関スル米海軍赤十字当局ヨ

リノ問合ニ対シ我方意向至急回示方請訓ノ件

第六〇三号

(九月二十四日接受)

貴電第四八八号ニ関シ
贈送物品ノ品目数量等ニ関スル連絡方ニ付テハ右貴電ニ依リ了承シタル処当国赤十字ノ募集義捐金額ハ二十一日朝迄ノ総計九百三十三万四千一百弗ニ達スル盛況ニシテ当国赤十字当局ノ手許ニハ現金四百万弗残存シ居リ尚今後モ幾分増加ノ見込ニテ当国赤十字当局ハ之等金額ヲ何等ノ冗費ナク最モ有益ニ義捐ノ目的ニ使用スル為ニハ本邦ト風俗習慣ヲ異ニシ実状ヲ明ニセサル当方面ニテ物資ヲ贈送スルヨリモ該金額ヲ全部本邦へ送金シ本邦当局ノ使用ニ一任スルコト既ニ相当物資ヲ贈送シタル今日トシテハ寧ろ得策トセス

ヤトノ意向ヲ有シ此際本邦当局ニ於テ希望セラルルトセハ右現金ヲ送ルコトハ当国赤十字当局トシテ何等ノ異議モナキ趣ニテ右ノ趣旨ニ依リ本邦当局ニ於テ今後現金若クハ物資ノ何レヲ希望セラルルカヲ問合セ居レル次第ニシテ現ニ今二十二日モ当国赤十字当局ヨリ重ネテ同趣旨ノ懇談アリタルニ付テハ前記ノ事情今一応御考量ノ上義捐金送付方ニ関スル我方ノ意向至急御電報アリタシ尤モ若シ我方ニ於テ此上共物資ヲ贈送ヲ希望ストナラハ喜ヒテ其要求ニ応スヘキハ勿論ナリ

四二五 九月二十三日

在英國林大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

震災地復興事業ノ為メノ公債募集ニ当リテハ

英米間ニ差別ヲ設ケサル様取計方進言ノ件

第六二三号

(一)紐育発閣下宛電報第一六九号ニ依レハ帝国政府側ハ米国内ニ於テ震災地復興事業ノ為十億弗ノ公債募集ノ意思ヲ間接ノ方法ヲ以テ表明セラレタルカ如キ処本件ニ付テハ当国方面ニ於テモ既ニ往電第五九四号ノ如クナルニ之ニ対シテハ貴電第二六四号ノ如ク応答スルニ拘ラス米海軍方面ニ対シ

テハ右様ノ意思表示ヲナセルコト当方面ニ判明セハ或ハ当方面ニ於ケル感情ヲ損スルノ惧アリ就テハ本件外債募集御決定ノ場合ニハ米海軍市場ニ於テノミナラス当国方面ニ於テモ其幾割カヲ募集セラルルコトニ御取計相成方然ルヘキヤニ思料セラルル処右御取計ヲ不利トスル事情アルニ於テハ本使ノ参考迄ニ御垂示ヲ煩ハシ置キ度ク

(二)次ニ日本電報通信ニ依レハ「セールフレージャー」ニ於テハ東京市債十億円引受方申出タル由ナル処右ハ先般東京電燈ノ外資ヲ引受ケタル「サー・ロバート・キンダスレイ」ヲ中心トスル一派ト観測セラレ同人ハ当方面財界ノミナラス又政府方面ニ於テモ相当認識セラレ居ル人物ニテ帝国政府ニ於テハ相当ノ信用ヲ置クモノト本使ニ於テハ思考ス御承知ノコトトハ存スルモ為念

四二六 九月二十三日

在米国植原大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

今次ノ震災ヲ機トシ日米親善ノ基礎確立ノタ

メ永久的ナ事業計画樹立ノ申出ニ関シ日本政

府ノ意向回示方請訓ノ件

第六〇二号

(九月二十四日接受)

本官ノ旧知 Stanley Washburn (America's who's who 参照) 内密懇談シタキ趣ヲ以テ九月十九日来訪談話ノ要旨左ノ通

日本今次ノ大災難ニ対シ油然トシテ起リタル全米国民ノ同情ハ実ニ美ハシキ心情ノ発露ナルハ疑ナキモ五百万ヤ千万弗ノ義捐金ガ果シテ幾許迄深ク永ク日本国民ノ心裏ニ米国民ノ友情ヲ印スベキヤ疑ナキ能ハズ自分ハ今回ノ天災ハ日米親善関係ヲ永遠ニ確保スル絶好ノ機会ヲ与ヘタルモノナルヲ痛感シ米國政治家ヲシテ此機会ヲ逸セザラシメンコトヲ切望ス依テ按ズルニ往年旅順攻略等ノ実験ニ依リ自分ノ知り得タル限り日本国民ハ彼ノ大災難ニ際シ必ズヤ不屈ノ精神ト固有ノ権能トヲ發揮シ根本的ニ一大復興計画ヲ企図スルニ相違ナク從テ巨額ノ外債募集ノ必要モ生ズベシ就テハ右計画ノ一部トシテ起ルベキ特種ノ一事業ニシテ永遠ニ日本ノ福利トナルベキモノ例ヘバ東海道鐵道本線ノ広軌改築又ハ横浜港ノ再建ト云フガ如キ一定ノ目的ノ為ニ相当巨額ノ公債ヲ他ノ如何ナル市場ニ於テ募リ得ルヨリモ日本ニ有利ナル条件例ヘバ米國政府自身ノ公債ト略ホ同様ナル位ノ条件ニテ米國ニ於テ引受クベキコトヲ米國政府ヨリ自発

チ得ルニ於テハ米國ノ当路ヲ動カスノ途ナキニアラズト信ズ之レ世界ノ進歩平和ニ重要ナル日米親交ノ確保ニ貢獻セントスル微衷以外自分ニ何等私心ナキヲ知ル君(本使)ニ對シ腹藏ナキ所感ヲ吐露シ同様腹藏ナキ所見ヲ聴カントスル所以ナリ極内密ノ事ナガラ実ハ右私見ニ付テハ自分ノ平生最尊信スル「ルート」氏及他ノ一二ノ友人ニ計リタル処「ルート」ハ右考ノ極メテ「サウンド」ナルコトヲ認め先ヅ「ヒューズ」國務長官ニ相談スベキコトヲ勸メタルモ自分ハ先ヅ君ノ所見ヲ知り置クノ必要ナルヲ思ヒ來訪シタル次第ナリ云々

右ニ對シ本使ハ先ヅ其ノ好意ヲ深謝スルト共ニ若シ斯カル申出ガ自発的ニ米國ヨリ來ルトセバ深甚ナル感動ヲ日本ニ与フベキハ疑ナキモ日本ガ果シテ如何ナル特種ノ事業ノ為ニ資金ヲ米國ニ仰グコトヲ必要トスルヤ又其ノ額ハ凡ソ幾許ナルベキヤ等ノ点ニ關シテハ本國政府又ハ民間ノ復興計画ニ關シ未ダ何等知ル処ナキ自分トシテ意見ノ定メ様ナシ但今次ノ天災ガ日米親交ノ確保ニ絶好ノ機会ヲ与ヘタルモノナリトノ貴感ハ余ノ深ク共鳴スル処ニシテ我ニ對シ目下全国ニ漲レル好意同情ヲ永久的ニ固定セシムルノ方策ヲ講

的ニ申出デ日本ニ於テ之ヲ受諾シ該資金ヲ以テ日本国民ガ容易ニ永ク記憶シ得ベキ特殊ノ事業ヲ完成シタリトセバ日本国民ニ於テモ米國友情ノ根底深キコトヲ能ク諒解シ得可ク又米國民トシテハ日本國民ノ將來ニ如何ニ強キ信任ト好意トヲ有スルカラ表明シ得ルコトナリ兩國親交ノ基礎ヲ確立シ得ルノミナラズ延テ世界ノ平和ニ貢獻スル処多大ナル可シ世界何レノ國ト雖今次ノ天災ニ付差当リ日本ニ同情ヲ惜ムモノハナカルベシト雖此同情ノ永續性ハ近年日本ニ對スル各國ノ態度ニ鑑ミ意外ニ薄弱ナルベク寧ロ日本ノ困難ヲ機會ニ自ラ利セントスル勢力ノ大ナルガ各國ノ現実ナルベシ斯カル際米國ガ進ンデ真実ノ好意ト信任ヲ日本ニ表スルハ將ニ大局ヲ達觀スル政治家ノ業ナルベシト信ズ去リナガラ斯カルコトハ偶然ニ成ルモノニアラズ必ズヤ之ヲ「インスパイア」スル原動力ヲ要ス而シテ之ヲ「インスパイア」スルニハ(一)日本ガ果シテ斯カル申出ヲ歡迎スベキヤ(二)若シ歡迎ストセバ如何ナル特種ノ事業ガ最モ適當ナルベキヤ(三)右事業ニ要スベキ公債募集額ハ凡ソ幾許ナルベキヤ等ノ諸点ニ付人ヲ納得セシムルニ足ル予備知識ト具體的考察アルヲ要ス若シ右諸点ニ關シ自分ニ相當確實ナル見込立

ズルハ真ニ世界平和ヲ顧念スルモノノ等シク希フ処ナルベシ余モ折角焦心苦慮シ居ル次第ナルガ若シ可能ナリトセバ貴案ノ如キハ確カニ一大名案タルヲ失ハザルベシト雖余トシテハ本國政府ノ計画方針ノ大体ヲ窺知シタル上ナラデハ仮令一個人トシテナリトモ何等言明ハ困難ナリト答ヘタルニ「ウォ」氏ハ然ラバ君ガ自分ニ内密所見ヲ洩ラシ得ル迄俟ツノ外ナキモ自分ノ急グ所以ハ米國民ノ熾烈ナル同情ノ全ク冷却セザル間ニ着手スルニアラザレバ当路ヲ動スコト困難ナルヲ明知スルガ故ナリ斯カル機會ハ再來ヲ期スベクモアラズ力メテ成ラザレバ已ムナク漫然之ヲ逸シテ噬臍ノ悔ヲ貽スハ一代ノ恨事ナリ日本ニ快カラザル分子ハ世界到處ニ横溢ス今ニシテ機先ヲ制セザレバ当面一時ノ大勢ヲ支配スル同情ハ以後忌ム可キ反動ノ因トナルヤモ計ラレズ政治家ノ注意スベキハ此辺ノ民衆心理ニ在リ米國ノ今日政治家ニ乏シトスルモ説クニ道ヲ以テセバ茲ニ一大機會ノ存在スルヲ看取シ得ルモノハ必ズシモ少カラザル可キヲ信ズ要ハ特ニ如上ノ諸点ニ付相當ノ確タル見込ヲ付ケ得ルヤ否ヤニ在リ就テハ若シ必要ナリトセバ至急本國政府ニ電照ノ上内密其ノ腹藏ナキ所見ヲ洩サレ間敷キヤ若シ君ノ意見ニシ

テ斯卡ルコトハ不可ナリトスレバ其ノ理由ヲ承知シタク然ラザル限り無為ニ観過スルハ如何ニモ残念ナリ將又斯卡ルコトハ其ノ具体化スル迄ハ絶対秘密ニ付スルコト必要ナルハ申迄モナシトノコトニ付兎モ角余ハ本国政府ノ意向方針ヲモ伺ヒ篤ト熟考ノ上成ル可ク至急重ネテ会谈ス可シト約シ別レタリ

右ノ如キ考ガ果シテ帝国政府ノ歡迎スベキモノナリヤ又仮リニ然リトスルモ当国ニ於テ実現ノ可能性アリヤ否ヤニ付テハ本使ニ於テ未ダ何等根拠アル見込ナク又貴電第四八一号ノ如ク消極的御注意ノ外震災善後ノ御方針又ハ処置ニ付未ダ何等ノ御指示ニモ接シ得ザル此際当国各方面ノ尽力者ト右ノ如キ見込ヲ立テル資料トナリ得ル様ノ踏込ノ手段ハ(之)ヲ為スコトモ困難ナルガ為大事変ニ際シテハ帝国ノ名譽ヲ毀損シ又ハ其将来ノ自由ヲ羈束セザル限り成否ハ姑ラク措キ有ラユル正当ノ手段ニ依リ幾分ニテモ禍ヲ転ジテ福トナスノ方策ヲ試ムルハ極メテ肝要ナルベク此見地ヨリスレバ如上「ウォ」氏ノ案ノ如キ必ズシモ放擲スベキモノニアラズヤトモ思考セラル何レニシテモ同氏ハ極メテ真面目ノ人物ニシテ知友モ相当広ク華府会議ノ際モ「ルート」

氏ト本使トノ連絡ニ熱心尽力シタル関係モアリ此際本使トシテハ好イ加減ニ取扱フコトハ帝国ノ為甚ダ不利ナリト思考スルニ付今後ノ応待振リニ付本使含ミ迄ニ何分ノ儀成ルベク至急電示アリタク尚此際米帝国政府当局其他各方面ノ人士ト接触上及従来ノ諸問題取扱上一日モ早ク今次ノ大天災ニ依リ生ジタル新局面ニ伴フ各般ノ諸問題及之ニ処スル帝国政府ノ御方針極ク大要ナリトモ承知シ置クコト極メテ必要ナリ就テハ目下焦眉ノ諸難件輻輳ノ折柄閣下初メ台閣諸公御心勞ノ段ハ拝察ニ余リアルモ外交方面ニ於テモ又敏活機宜ノ措置ヲ要スル大切ノ時機ト思考スルニ付往電第五五号同第五七八号同第五八三号等ト共ニ御熟閱ノ上相成ルヘクハ一省一部ノ御意見ニ止マラズ政府トシテノ御所見又ハ御意嚮ニ付テモ御差支ナキ限り御電示ヲ切望ス

四二七 九月二十七日 安河内神奈川県知事ヨリ
伊集院外務大臣宛

米国救恤船入港情報ニ関スル件

臨外秘収第九四号

(十月四日接受)

大正十二年九月二十七日

神奈川県知事 安河内 麻吉

右及申(通)報候也

四二八 九月二十七日 在英国外務大臣宛(電報)
伊集院外務大臣宛

震災地復興ノ為ノ起債ニ当リ予想サルル問題

点ニ関シ申進ノ件

第六三二号 (九月二十九日接受)

往電第五九四号ニ関シ

米国御用船ソム Somme 号ハ救恤ノ為メ米百九十七噸衛生材料四千二百九十二噸積載二十六日午後四時桑港ヨリ入港セルガ乗船救護員ハ陸軍軍医少佐「イー・ダブリュー・ベナー E. W. Bayley」以下十八名ニシテ同船ハ多分芝浦ニ廻航シ麻布高松宮邸内ニ野戦病院ヲ建設スルニ至ル可シト追テ同船ニハ京浜ノ震災状況視察ノ為メ渡来セル「サンフランシスコ・コール」紙通信員「イー・ビー・ピーク」E. B. Peeke 氏二十四年及「ニューヨーク・バター」紙通信員「ジョー・テール・ルッカー」J. T. Rucker 氏三十六年便乗セルガ十月八日頃同船ニテ神戸經由上海ニ赴キ同地ヨリ桑港ニ帰還ノ予定ナリト

(一)帝国政府ニ於テ本件便宜利用ヲ有益ナリト思考セラルルニ至ル場合ニ於テ特ニ御考慮ヲ煩ハシタキハ同電末段ノ点ニ有之蓋シ「トレード・ファシリティー・アクト」ノ規定ニ依リ英国政府ガ保証ヲ与フルコトハ其適用ヲ受クル公共団体又ハ会社ノ信用確実トノ見込著カザル以上之ヲ為スコトナカルベク然ルニ本邦ニ於ケル此等ノモノノ信用ガ確実ナリヤ否ヤノ批判ハ英国政府トシテ不可能ナルベキニ付若シ本件便宜ヲ本邦側ニ延長スルコトニ決定ノ場合ニハ英国側トシテハ右信用確実ノ判別ニ就キ何等カノ方法ヲ講ズベキハ必然ナリ本件適用ニ就キ先方ヨリ非公式ノ形式乍ラモ帝国政府ニ交渉シ来リタル従来ノ経過ヨリ考フレバ結局英国政府側ヨリ本件便宜ノ供与ニ与ラ

ムトスルモノ少クトモ帝国政府ノ証言ヲ要求スルニ至ルモノト覚悟セザルベカラズ

往電第五九四号ノ末段ニ帝国政府ガ支払能力ノ確実ヲ保証スルノ必要アリト申上ゲタルハ此意味ニシテ右ノ保証ハ英国政府ニ対スルモノニシテ英国政府ハ右帝国政府ノ保証ヲ基礎トシテ「トレード・ファシリチー・アクト」ニ依ル保証ヲ為ス順序トナルベク double guarantee ニアラズシテ英国政府ノミノ単一ナル保証ナリ（尤モ単ニ帝国政府ガ信用ノ確実ヲ証言スルニ止マルトスルモ支払不能ノ場合ニ無関係ノ態度ヲ保持シ得ザルベキハ勿論ナリ）

(二)興業銀行其他ヲシテ保証ヲ為サシムルハ確ニ一案ナルガ此等ノモノガ右ニ関連シ手数料ヲ要求スベキ点ハ之ヲ措クトスルモ政府ノ保証ヲ得ズシテ此等ノモノガ右ノ保証ヲ担当スルコトハ之ヲ予想シ得ズ從テ兩者ノ相違ハ帝国政府ガ本件ニ関スル保証ヲ為スニ付其間ニ仲介者ヲ設クルヤ直接ニ之ヲ行フヤニ存スルニ過ギズ帝国政府ニ於テ本件便宜ノ供与ヲ受クルコト帝国ノ威信ニ関ストセラルレバ即チ已ム然ラズシテ本件ノ便宜ノ供与ニ与カル場合

第二二〇号

(九月三十日接受)

今回ノ震災ニ関シ独逸政府ヨリ帝国政府ヘ鄭重ナル見舞アリタル次第ハ往電第一九七号所報ノ通ナル処其後当国官民ヨリ当館ヘ多大ノ同情ヲ寄せ来レル向頗ル多ク各新聞ノ同情的論調ト照合シテ独逸上下ノ本邦ニ対シ概シテ頗ル好感ヲ有セルコトヲ認メラル就中当初ノ新聞電報稍々事變ヲ過大ニ報シタル嫌アル為当国人士中衷心ヨリ帝国ノ世界の地位ノ失墜ノ懸念ヲ抱キタル向多ク当方ヨリ其杞憂ナルヲ力説シ恢復ノ計画既ニ着々進行中ナルヲ申聞ケタルニ対シ大ニ安心セル者少カラス其誠意ハ本官ノ深ク感動スル所ニシテ独人一般カ自国ノ悲運ニ際シテ如何ニ帝国ノ地位ヲ尊重重要視シ将来ノ力ト為サムト期セルヲ看取スルニ足ルモノアル様存セラル就テハ此ノ独国上下ノ深甚ナル同情ニ対シ適當ノ機会ニ於テ「ゾルフ」大使ヘ謝意御表彰方願ヒ得ルニ於テハ国交上頗ル有利ナルヘシト考ヘラル

四三〇 九月二十八日

在ベルー国清水公使ヨリ
伊集院外務大臣宛

本邦大震災ニ際シ表セラレタル同情ニ対シ謝

意伝達方ノ件

ニ英国政府ニ対シテ便宜ヲ受クルモノノ信用ヲ直接保証スレバトテ帝国ノ威信ニ関スルト言フ程ノコトモアラザルベシ

(三)次ニ実質的ニ之ヲ観ルニ帝国側保証ノ必要ヲ利用シテ本件便宜ヲ受ケムトスルモノニ就キ吟味ヲ行ヒ確実ニ信用アルモノニ限り且金額ノ如キ其實際ノ信用ノ程度以内ニ制限スル等適宜ノ裁量ヲ加フルコトトセバ事実問題トシテ帝国政府ノ背負込ナルガ如キコト生ゼザルベク旁々仮令帝国政府ガ直接信用ニ就キ証言ヲ与フルコトトスルモ差支ナカルベキ儀ト存ゼラル

(四)以上ハ英国政府側ヨリ信用確実ノ点ニ関シ帝国政府ノ保証ヲ要求シ来ル場合ヲ予想シ且本月二十五日開場ヨリ森財務官宛電報倫敦第三六号ノ次第アルニ依リ申進ズルモノニシテ英国側ニ於テ此等ノ要求ヲ為シ来ラザレバ頗ル好都合ニシテ本使ト雖之ヲ希望スル次第ナリ

四二九 九月二十八日

在独国大野代理大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

震災ニ対スル独逸国民ノ同情振ニ鑑ミ在京独国大使ニ対シ謝意表明方稟請ノ件

公第四五号

(十一月十六日接受)

大正十二年九月二十八日

在秘露

特命全權公使 清水 精三郎(印)

外務大臣男爵

伊集院 彦吉殿

本邦大震災ニ際シ表セラレタル同情ニ対スル謝意伝達方ニ関スル件

貴電第二十八号第二十九号及第三十四号ヲ以テ御申越ノ趣敬承仍テ御来意ニ從ヒ夫々当国上院議長、当国駐劄「エクス・アドール」特命全權公使及当国外務大臣等ニ対シ別紙写甲、乙、丙号ノ通り書翰作成ノ上謝意伝達方取計候条右御了知相成度此段及申報候 敬具

註 別紙写甲、乙、丙号省略

四三一 九月二十八日

在ニューヨーク姉齒總領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

本邦ノ募債ヲ予想セルニューヨーク銀行団ノ

動向並ニ我方対応策ニ付進言ノ件

第一八四号

(九月三十日接受)

京浜(地)震ノ報アルヤ否ヤ本邦ノ募債ヲ予測シ紐育ノ金

融業者カ逸早く是カ引受運動ヲ開始セシ儀御承知ノ如クナル処当地ノ所謂各銀行団ノ活動振リ左ノ如シ

(一) 過日本官「リーヒギンソン」ノ「グリーン」訪問ノ際談公債ノコトニ及ブヤ同氏ハ非常ノ熱心ヲ示シ種々質問シ本官ハ是ニ何等情報無ク唯々新聞電報ニ於テ承知シ居ルノミナルカ併シ東京横浜再興ノ計画モ目下審議中ト察セラルルニ付本官「バーソナル」ノ参考迄募集ニ関スル同氏ノ意見ヲ聴キタシト望ミタル処同氏ハ今日ハ米國ノ対日同情盛ニシテ又内地ノ投資殆ンド閑散ノ際ナレバ良好ノ条件ニテ借入可能ナルヘク日本ノ信用ニ鑑ミ期限ハ二十ヶ年金額ハ一億乃至一億五千万弗利息ハ先ヅ五分(脱)厘位ナルヘシト申シ居レリ(「グリーン」ニ関シテハ在米大使ヨリモ報告アリタルコト存ズ)而シテ同氏ハ兩三日前日本銀行深井理事ヘモ電報ヲ以テ申込メル筈ナリ

(二) 「ナシヨナルシター」モ先般既ニ本邦政府ニ申込メリト称シ居ル処(渋沢子爵宛挨拶拙電第一七一号)「ミツチエル」ハ素辣腕家ニシテ「パブリシター」巧ミナルト称セラレ種々ノ画策モアル如シ

(三) 「クンロープ」ヨリハ拙電第一八五号ノ通大蔵大臣ヘ転

日本ノ募債等ニ付テノ好意的配慮申出ニ対スル回答振リ並ニ米國當業者ト直接会談アル場

合ニハソノ内容大綱ヲ回示方裏請ノ件

第六一七号

(九月三十日接受)

「ボストン」市 Stone and Webster ノ副社長 Sawyer 氏(本使ノ旧知ニシテ日本ニ知人多シ) 九月二十八日来訪左ノ通り申出タリ

(一) 弊社ノ技師「アベ」ナルモノ浅野水力電気事業ニ関シ目下帝國「ホテル」ニ滞在中ナルガ今回震災ノ為メ浅野事業ハ此処少クモ五、六ヶ月中止ノ由ナル処同技師ハ土木ニ多大ノ経験アリ日本ノ言語風俗ニモ一通リ通ジ居ルニ付テハ必ズヤ此際相当日本政府ノ御役ニ立チ得ベシト信ズルニ依リ浅野事業再開ノ時期迄其ノ「サービス」ヲ全然無償ニテ弊社ヨリ日本政府ニ提供シタク就テハ右後藤内相ニ伝達アリタシ

(二) 自分先年日本滞在中時ノ井上日銀總裁ヨリ米資輸入ノ問題ニ付意見ヲ問ハレタルコトアリ當時ハ時期良好ナラザル旨答ヘタルガ今日ハ事情異ナリ若シ日本政府ニ於テ相当巨額ノ公債ヲ米國市場ニ募ルノ要アリトセバ之ヲナス

電方依頼アリ

四「モルガン」ハ日本ニシテ公債募集スル以上自ラ相談アルコトト見込ミヲ付ケ居ルカ如ク観測セラル

事情右ノ如クニシテ本官トシテハ勿論彼等ノ好意ニ感謝ヲ表スルダケニ止メ居ル次第ナルカ抑々斯ノ如キ競争ノ原因ハ種々アルモ「ナシヨナルシター」ガ曩ニ東拓社債引受ニ成功セシ為今回ハ主ナル銀行団何レモ其利益ニ浴シタキ所存ニ出テタルヘク從テ申進ムル迄モナク仮リニ本邦力当市場ニ於テ募債セラルルトセハ前頭諸銀行団ノ何レニ偏スルモ面白カラサル様思考セラル尤モ一銀行団毎ニ交渉セハ条件ニ於テ幾分ノ利益アルヘキモ寧ロ成ルヘク広キ範圍ニ亘リ我國ニ「インテレスト」ヲ有セシムルコト今日ヨリ見テ極メテ望マシク是ガ為ニハ前記四団体ヲシテ「シンデケート」ヲ組織セシムルトキハ一方ニ於テ本邦希望ノ全額ヲ得易ク他方主ナル銀行ニハ遍ク公債ヲ引受クル機会ヲ与ヘ得ヘシトモ愚考セラル

在米大使ヘ暗送セリ

四三二 九月二十八日

在米國植原大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

ニ困難ナラザルベク而シテ自分ハ從來ノ長キ経験ヨリ貴官承知ノ Lee Higginson (往電第五八三三号参照) ヲ特ニ推薦セントス同社ノ堅実有力ナルハ申ス迄モナク同社ハ「モルガン」会社等ノ如ク公債ノ卸売ヲ主トスルヨリモ寧ロ広ク多数ノ小投資家ヲ吸収スルノ便ト経験ヲ有スルガ故ニ日本政府ガ募債ヲ取扱ハシムルニハ特ニ適好ノ会社ナリト信ズルニ付右ノ趣井上蔵相ニ転達アリタシ

依テ本使ハ不取敢「ソ」氏ノ好意ヲ謝スルト共ニ右二項転達方快諾シ置キタルニ付(一)ニ付テハ先方ヘノ挨拶振至急御回電アリタク又(二)ニ付テハ往電第五八三三号ニ関シ未ダ何等御電示ニ接セザル処「グリーン」ヨリハ其ノ後再応懇書ヲ寄セ若シ日本政府ニ於テ募債ノ計画アル場合ハ是非自分ノ会社ヲ切実考慮ニ加ヘラレンコトヲ希望シ居リ深井日銀理事ニモ本件ニ関シ電照セル旨申越セリ本使ヨリハ之ニ対シ貴電第四八一号ノ趣旨ヲ参酌シ然ルベク一応ノ挨拶ハナシ居ルモ「グ」「ソ」両氏ノ如キハ極メテ真面目ノ紳士ニシテ其ノ我國ニ対スル好意モ相当真実ナルモノ(脱)之ヲ維持スルハ此際特ニ必要ナル可シト存ゼラル旁此上ノ回答振ニ付何分ノ御電示アリタシ尚将来若シ我政府ニ於テ米國市

場ニ募債ノ必要アル場合之ガ引受方ニ付当国各金融業者間ニ競争アルハ必然之ニ対スル施措宜シキヲ得ザルトキハ意外ノ支障ヲ来スベク或ハ成ルベク一金融業者ニ偏スルナク重ナル数当業者ヲ一団トシテ之ニ対スルヲ必要トスベク之等ノ事情ニ付テハ井上蔵相ニ於テ御熟知ノコトナレバ本使ヨリ差出ケマシク申出ベキ筋合ニアラズト存ズルモ若シ御希望ナルニ於テハ当国ノ相応權威アル方面ニ付意見又ハ忠告ヲ求ムルノ途ナキニアラズ唯往電第五八三号末段ノ如キ考慮ニ基キ本使ハ差当リ之ヲ扣ヘ居ル次第ナリ右為念申添ユ将又我募債計画ニ付昨今種々ノ新聞報道東京又ハ上海方面ヨリ伝ハル処万一政府当局ニ於テ米國当業者ト募債ノ件ニ付直接御会談等アル場合ハ其ノ内容大綱ニテモ本使ニ於テ迅速承知シ置クコト職務遂行上此際極メテ必要ナルニ付其ノ点御含ミ置キヲ請フ

四三三 九月二十八日 在シアトル大橋領事ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

米艦隊ノ救援活動ヲ阻害セル日本官憲ノ態度
ヲ報ゼル新聞報道報告ノ件

第一〇六号 (九月三十日接受)

四三四 九月二十九日 在ケープタウン今井領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

南阿ニ於ケル本邦震災ノ反響状況ニ関シ報告
ノ件

南阿公第一八六号 (十一月二十四日接受)

大正十二年九月二十九日

在ケープタウン

領事 今井 忠直(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

南阿ニ於ケル本邦震災反響状況ニ関スル件

本月三日(月曜日)当国ニ於ケル朝刊新聞紙上ニ於テ初メテ今次本邦大震災ノ報道掲載セラルルヤ南阿全国ヲ通シテ震駭セシ模様ニシテ爾来各新聞紙ハ約三週間大活字ヲ以テ其ノ記事ヲ連載シ或ハ論説ヲ掲ゲタルガ此等論説中概シテ英字新聞紙ハ世界ニ於ケル地震ノ歴史乃至ハ地震ノ何物タルヤヲ説明シタルニ止マリタルモ蘭字新聞紙ノ多クハ多大ノ同情ヲ表スル処アリタリ而シテ最初ハ「ルーター」通信ニ依リ頗ル棒大の報道伝播セラレ京阪一带ニ亘リテ全滅シ死者二百万ニ達ス云々ト称セラレ誤報続々トシテ来リタ

二十七日当地夕刊「シアトル・スター」カ「日本人米国海軍ヲ辱メ日本官憲弁解ス」トノ見出ヲ付シテ掲載セル市俄古「デリー・ニュース」ノ Julius Wood ノ特電中ニ左ノ文句アリタリ

米国海軍ノ日本退去ト共ニ大体ノ米国供給品ハ完了セリ「アンダーウッド」少佐ノ方針ハ早く来テ早く去リ以テ邪魔物扱ニサルルヲ免レムトスルニアリ米海軍ノ要塞地帯入ニ対シ日本政府ノ同意アルコトヲ知ラサル多数日本人及小役人ハ米艦ヲ見テ之レ米國カ日本ノ混乱ヲ利用シテ日本ニ侵入シタルモノナリト想像シ一日本官吏ハ最初東京湾内ニ在ル米駆逐艦ニ乗込ミ来リ米艦ノ来航ハ非理ナリトテ速ニ其ノ退去ヲ要求シ又二隻ノ米駆逐艦カ外国避難者捜査ノ為沿岸ヲ巡航シタルニ二隻ノ日本駆逐艦之ニ追隨シ探照燈ヲ浴セタルコトアリ一米駆逐艦カ毎日横浜ノ米艦隊ト東京ノ米大使館トノ間ヲ往来シ居リタルニ日本官憲ハ横浜港ノ混雑ヲ名トシテ右往来ノ中止ヲ求メタルカ日本海軍官憲及内閣員ハ終始右ハ小役人ノ杓子定規ニ起因ストテ遺憾ノ意ヲ表シ居タリ云々

在米大使へ転電セリ

ルヲ以テ当館ニ於テハ公報接到以来発表シテ差支ナキモノハ可成是ヲ公表シ以テ其事実ヲ周知セシムルニ努メタリ然レ共震災ノ程度ガ未曾有ノ一大惨事ナル丈ケ諸官民ノ同情ヲ寄セ当館ニ来訪スルモノ引キモ切ラズ教会若シクハ寺院ニ於テハ祈禱ヲ行ヒ市会其他ノ諸団体ハ同情的決議ヲナシ電報又ハ書簡ヲ送致シ来タルモノ多数ニ上リ他方ニ於テハ當時本邦ニ在留スル親戚知友ノ安否ヲ問ヒ合セ来ル向モ亦尠カラズ一時ハ是ガ応接及回答ノ為メ忙殺セラレタリシガ此等同情者ニ対シテハ一々謝意ヲ述ブルト共ニ御訓示ニ基キ我政府ノ謝意ヲ全新聞ニ掲載セシメ更ニ前記親戚知友ノ安否ニ関スル照会者ニ対シテハ其属スル本國政府又ハ在本邦大公使若シクハ領事官ヘ問合ス方得策ナル旨以テセリ而シテ南阿連邦首相「スマット」將軍ハ倫敦ニ於テ開催セラルベキ英帝國首相會議ニ出席ノ途次恰カモ当地ニ滞在中ナリシガ六日小官ニ対シ訪問方請求シ来タリタルヲ以テ小官ハ之ニ応ジ同首相ノ事務所ニ至リタルニ首相ハ震災ニ就キ種々ノ質問ヲナシタル後在本邦英國大使宛宛送シタル電報ヲ手交シ南阿政府ハ貴國政府ニ対シ多大ノ同情ヲ表シ居ルモ此以上ノ援助ヲ為シ得ルコト能ハサルヲ遺憾トス乍

併南阿政府ノ敬意ヲ諒トセラレ度キ旨ヲ付言セリ依ッテ小官ハ之ニ對シ謝意ヲ表シ引キ取りタルガ前顯南阿政府ヨリ在本邦英國大使宛電報ヲ内容ハ南阿政府ノ同情伝達並ニ当國產玉蜀黍五千俵（一俵ノ市価英貨約十一志）ヲ寄贈云云ニアリキ之ニ對シ我政府ノ深甚ナル謝意伝達方御訓電ニ依リ直ニ書翰ヲ以テ其旨を送リ置キタリ然ルニ其後當國政府ハ元我名譽領事「ジェッピー」氏ヲ經テ小官ニ對シ日本政府ハ玉蜀黍ノ代リニ現金若シクハ他ノ物品ヲ希望スル由ナルガ何品ヲ撰択セラルベキヤ問合セ來タリタルガ先方ノ云フ処現金ノ寄贈ヲ好マザル様子ナリシヲ以テ小官ハ南阿產純毛布（一枚ノ市価英貨約十三志六片）ガ此際最モ適當ト思料スル旨ヲ述ベ置キタルニ同政府ハ之ヲ採用シ毛布五千枚ヲ送荷スルコトナリ其一部分ハ既ニ發送済ミトナレリ而シテ小官ノ内聞スル処ニ依レバ右南阿政府今回ノ好意ハ前記「ジェッピー」氏ガ「スマット」將軍ト会見シ说得シタル結果ナリト云フ

更ニ物質の同情ヲ寄セタル向ハ元本邦在留一米國婦人ハ逸チ早ク義捐金ヲ募集シ直接之ヲ在本邦某教会へ送金シ又一蘭系教会付屬婦人青年會ニ於テハ之ガ為メ合奏會ヲ催フシ

コトモアリタリ

南阿ニ於ケル同情ハ前述ノ如クナルモ中ニハ又頗ル冷淡ナル態度ニ出デタルモノナキニ非ラザル模様ニシテ今一二ノ例ヲ挙ゲンニ當國第一ノ都會タル「ジョハネスバーク」市ニ於ケル一猶太系人會ハ相互ニ多少ノ金円ヲ募集シ之ヲ同市市長（英國人）ノ下ニ送り日本へ送金方ヲ出願シタル処同市長ハ南阿ニ多數ノ貧民アルニ拘ラズ之ヲ救ハズシテ他國へ送金スルハ敢テスルヲ欲セズ云々トノ書面ヲ以テ該出願者へ返金シタル旨新聞紙ニ掲載セラレ又前記一米國婦人が義捐金募集上自己ノ名ニ於テハ充分ナル効果ヲ得難キ趣ヲ以テ「ケープタウン」市長ヲ促シ公的義捐金募集方ヲ勸誘シタルニ同市長ハ是等義捐金ハ最早ヤ市民ノ懺焉タル処ナル理由ヲ以テ之ヲ拒絶シタル由ヲ耳ニセリ

次ニ當國在留本邦人ハ実ニ小數ナルニ拘ラズ何レモ進ンデ多額ノ義捐金ヲ當館ニ送致シ來タリ今後相互節約ヲ旨トシ協力シテ災害復興ノ為メ努力センコトヲ誓言シツツアルノ状ナリ

翻ツテ今次ノ震災ガ我對南阿貿易上ノ影響ニ就キ之ヲ査スルニ現下格別ノ反響ナキガ如キモ絹製反物類ハ供給不足ト

「サイモンスタウン」海軍軍港市長ハ軍港司令官ト協力シ舞踏會ヲ舉行シ其他學校教会付屬日曜學校及個人等ニ於テモ集金ヲ當館ニ送致シ來タルモノアリ此等當館ニ於テ接受シタルモノハ追テ一括送金ノ筈ナルガ就中「ナタール」州ノ一部ニ介在スル「ズル」土人部ノ可憐ナル兒童ハ少量宛ノ釀金ヲナシ収メタル結果英貨式磅ノ額ヲ當館ニ送金シ越シタル美拳モアリタリ尚歐洲大戰後歐洲及東亞方面ニ於ケル貧民兒童救済ノ目的ヲ以テ創設セラレタル Save the Children Fund ニ於テハ今次本邦兒童救済資金募集ノ為メ奔走中ニシテ總督「コンノート」妃殿下ハ直チニ貳拾五磅ヲ寄贈アラセラレタル由ナリ

由來當南阿ハ辺隔ノ地ニシテ殊ニ本邦トノ距離遠キ關係モアランカ今回ノ本邦大慘事ニ對シ物質上ノ援助ハ他國ニ比シ稍々冷淡ナリシ誹ハ免レザル処ナルモ而カモ精神上ニ於テハ一般多大ノ同情ヲ惹起シタルモノノ如ク見受ケラレ某市裁判所一判事ノ如キハ法廷ニ於テ居合セタル公衆ニ對シ此際吾人ハ日本人ニ對シ有ユル援助ヲナスベキ義務ヲ有ス故ニ吾人ガ日本人ニ會シタル時其義務ヲ尽スニ躊躇セザラシコトヲ希望ス云々ト演説シタルヲ新聞紙ニテ散見シタル

ナルベキヲ予想シ日毎ニ其市価昇騰シ殊ニ夏季ニ向ヒ需要増加シツツアル折柄甚ダシキハ卸売一碼ニ付一志方ノ高値ヲ以テ売買セラルルモノアリト云フ右及報告候 敬具
本信寫送付先 在英大使

四三五 十月五日

伊集院外務大臣ヨリ
在英國林大使宛（電報）

震災地復興ノ為メノ公債募集ニ關スル我方意

向回報ノ件

第二九三號

貴電第六二三三號ニ關シ政府ハ震災地復興ノ為メ米國ニ於テ十億弗ノ公債募集ノ意思ヲ間接ニモ表明セルカ如キコト更ニナク大藏省ニ於テハ後日復興物資購入等ノ為メ外債募集ノコトアルヘキ場合ニハ英米兩國市場ヲ全ク同様ニ重要視スヘキ意向ナルニ付貴官ハ今後トモ右御含ミヲ以テ財界方面ト可然接觸ヲ保タレタシ尚「セールフレザー」カ東京市債十億円引受方申出タリトノ件ハ誤報ニシテ事實ハ同会社ノ在東京代表者カ貴地代表者ニ向テ同市債一億円ノ引受方ヲ申出テハ如何ト電報セルニ過キス尚「サー・ロバート・キンダスレー」ノ關係ハ大藏省ニ於テ充分承知シ居ル趣ナリ

右貴電ト共ニ参考ノ為在米大使ニ転電セラレタシ

四三六 十月七日

塚本臨時震災救護事務局参与ヨリ
松平外務次官宛

外国船仕向地ノ指定及ビ外国ヨリ寄贈ニ係ル

救恤品配給ノ取扱ニ関スル件

大正十二年十月七日

(十月九日接受)

塚本臨時震災救護事務局参与(印)

外務次官殿

外国船ノ仕向地及外国ヨリ寄贈ニ係ル救恤品ノ配

給ニ関スル件

外国船ノ仕向地及外国ヨリ寄贈ニ係ル救恤品ノ配給ニ関シテハ荷役其ノ他ノ都合上左記ノ通相定メ候条御了知相成度尚米國赤十字社救護委員「マッコイ」氏其他関係ノ向ニ可然御通知相成度

追テ事務局ニ於テ受領シタル救恤品ノ品名数量ハ之ヲ外務省ニ通知シ外務省ヨリ正式領収証ヲ発行スルコトト致度

記

一、救恤品ヲ輸送スル外国船ノ仕向地ハ成ルヘク横浜港ト

スルコト

横浜港ニ向フ船舶ニ付仕向地ノ変更ヲ為ス場合ニハ事務局ノ同意ヲ得ルコト

二、外国船ニ依ル救恤品ハ一応全部救護事務局ニテ受領スルコト

三、外国船搭載救恤品ノ配給先ニ関スル寄贈者ノ特別ノ要求ハ事務局ニ申出ヲ得ルハ勿論ナルモ事務局芝浦出張所又ハ横浜支部ニ申出ツルヲ以テ足ルコト

四、事務局ニ於テハ寄贈者ノ趣意ヲ尊重シ成ルヘク要求通り配給スヘキモ事情ニ依リ配付先及配付スヘキ数量ヲ變更スルコトアルヘキコト

四三七 十月八日

在英園林大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

復興事業ノ為ノ募債又ハ物品購入等ニ関スル

政府ノ意向及ビ決定等ノ迅速通報方稟請ノ件

第六六三号

(十月九日接受)

復興事業ノ為ノ募債又ハ物品購入等ニ関スル帝國政府ノ意向及決定ニ対シ当國及米國方面官民共諒ナカラザル「インテレスト」ヲ感ジ居ルモノノ如ク当館及商務官等ニ対シ種

七日、八日、九日新聞報

(註)紐育「ヘラルド」ハ其ノ投書欄ニ在紐育C. W. Priceガ

在市俄古G. A. Tupper ヲリ接受セル書簡ニ関スル投書ヲ掲載シ居ル処該書簡ハ日本ノ当局ガ外国ノ救護ニ干涉シタル趣旨ノ報道米國ノ一二新聞ニ伝ヘラレ居ルモ右ハ誤解ニ基クモノニシテ日本ノ軍事当局ガ米國艦船ノ救護ヲ阻ミ又ハ帝國「ホテル」ニテ外人ノ立退ヲ命ジ之ヲ其ノ使途ニ充テタリト云フガ如キハ全部事實ニ悖リ日本ノ当局ハ右救護ニ凡ユル便宜ヲ供シ救護ノ進捗ヲ計レリ、尤モ震災早々ノ際ニ於テハ事實ヲ確ムルコト困難ニシテ從テ風説ヲ伝フルコト有リ勝ノコトナルベシト雖之等ノ誤報ニ基キ誤解乃至不快ノ感情ヲ惹起セザラン為メ適當ノ機會ニ於テ事實ノ公表ヲ希望ス云々ト述ベ居レリ

註 新聞報(一)ハ他ノ主題ナルニツキ省略セリ

四四〇 十月十一日

伊集院外務大臣ヨリ
在英園林大使宛(電報)

復興ニ関スル外債及ビ物品購入ノ件

第三〇四号

貴電第六六三号ニ関シ復興事業ノ為ノ募債等ニ関スル政府

種ノ報道ヲ齎ラシテ問ヒ合セ来ルモノ頻々タル現状ニシテ時ニハ未ダ当館ノ承知セザル報道ヲ当國政府方面ニ於テ入手シ其實否ヲ確ムル向等モ有之就テハ之等募債購入等ノ決定機關ニハ本省ヨリ少ナク共通商局長ハ列席セラレ居ルヘキ筋合ト存ズルニ付右ニ関スル政府ノ意向決定等ハ此上共成ルベク早く当館ヘ御通報相成様御配慮ヲ請フ

在米大使ヘ転電セリ

四三八 十月八日

在ペルー國清水公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

ペルー國大統領ヨリ本邦震災ニ対スル同情表

明ノ件

第四五号(未着電報再電)

(十月十日接受)

秘露國大統領ハ九月二日副官ヲ当館ニ派シ本邦大震災ニ対シ当國政府及國民ノ深厚ナル同情ヲ表明セラレタリ

四三九 十月十日

在米國植原大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

震災時ニ於ケル日本軍当局ノ措置振中傷ハ誤

報ナル旨指摘セル投書掲載記事報告ノ件

第六四六号

(十月十二日接受)

八 関東大震災関係 四三八 四三九 四四〇

ノ意向ニ付テハ同計画ノ大綱未タ定マラス且予算ノ關係上議會ノ協賛ヲ經ル必要アル事情ヨリ何等具体的ニ決定シ居ラサル次第ハ往電合第二六三号及在米大使ヨリ轉電スヘキ同大使宛電報第五三五号ノ通ニ有之其他当方ニテ得タル確報ハ其ノ都度貴官及在米大使ニ電報シツツアリ在京英國大使館側ニ對シテハ相當説明ヲ与フル様措置シ居ルトコロ何等カ誤報ヲ發電セルコトハナキヤ為念確メ置度貴電中所載責任國政府方面ニ於テ入手シ未タ貴官ノ御承知ナキ報道ナルモノノ実例当方参考迄ニ電報アリタシ

四四一 十月十五日

在伯國田付大使ヨリ
伊集院外務大臣宛

伯國ボーイスカウトノ震災弔問ニ關シ報告ノ件

公第九八号

(十二月八日接受)

大正十二年十月十五日

在伯刺西爾國

特命全權大使 田付 七太(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

伯國「ボーイスカウト」ノ震災弔問ニ關スル件

今回ノ本邦大震災ハ大ニ伯國官民ノ同情ヲ喚起シ變災ノ報一タヒ傳播スルヤ本使ニ對シ自身訪問、電信書翰其ノ他有ユル方法ヲ以テ弔意ヲ表スル向引キモ切ラサル有様ナリシコトハ別信ヲ以テ報告セル通ニ有之候処就中其ノ無邪氣ナル弔意表彰振ヲ以テ最深ク本使ヲ感動セシメタルハ當國海軍、船員及漁民等日常生活ヲ營メル人々ノ子弟ヲ以テ組織セル「海事ボーイスカウト」ノ弔問ニシテ其代表トシテ十四、五歳ヲ頭ニ五、六歳マテノ可憐ナル隊員合セテ約十五名隊長タル一名ノ教師海軍兵曹ニ引率セラレテ我大使館ニ來訪シ本使ニ面接ヲ求メ吾々ハ日本ノ罹災者ヲ物質的ニ救援スルカ如キ資力ヲ有セサルモ斯ル一大悲慘事ヲ前ニシテ袖手傍觀スルニ忍ヒス幸ニ吾々ハ一片ノ赤誠ヲ有スルヲ以テ責メテハ之ヲ吐露シテ遙ニ日本ノ「ボーイスカウト」ニ對シ真摯ナル弔慰ノ辭ヲ呈シ併セテ声援ヲ与ヘ度シト別紙原訳文ノ弔問文ヲ葡文ニテ朗読シタル後本使ヲ經テ右弔問文ヲ我國ノ少年僚友ニ傳達セラレ度キ旨申出候ニ付本使ハ早速之ニ對シ快話ヲ与フルト同時ニ不取敢口頭ヲ以テ感謝ノ挨拶ヲナシ続テ更ニ書面ヲ以テ叮重ニ謝意ヲ表シ置キ候就テハ右伯國少年等ノ冀望ニ從ヒ隊員一同ノ連署セル弔

問文原本ニ和訳ヲ付シ茲ニ及御送付候間我陸軍省ヲ經由シテ之ヲ本邦「ボーイスカウト」一同ニ傳達方可然御配慮ヲ仰キ度ク別紙相添右申進候 敬具

註 別紙弔問文訳文省略ス

四四二 十月十五日

藤田海軍省副官ヨリ
情報部次長、欧米局長及亞細亞局長宛

外國通信員ニヨル誤報訂正ノ為メ震災ノ際執

リタル日本海軍ノ外國人ニ對スル援助措置概

要通報ノ件

官房第三三二四号

大正十二年十月十五日

海軍省副官 藤田 尚德(印)

記

外務省情報部次長殿
外務省欧米局長殿
外務省亞細亞局長殿
外國通信員ノ妄評ニ關スル件
這般我關東地方ノ大震災ニ對シ列國ノ同情実ニ熱誠ヲ極メ朝野ヲ挙ケテ救恤ノ義舉ニ努力中ナルコトハ果次御開示ノ情報ニヨリテ之ヲ諒知シ御同様感激禁シ難キ所ニ候然ルニ

京浜地方ノ大震災ニ際シ海軍ハ直チニ其全能力ヲ拳ケテ活動ヲ始メシカ其救済事業ニ貢獻セシ最大ナルモノハ要スルニ船橋ノ通信機關ト海上ノ運輸交通機關トノ二ナリ而モ東京市内外ノ通信交通機關全滅ノ際直接罹災者ノ生命救護ニ必要ナル此等二機關ニハ要求常ニ殺到シテ寸分ノ余裕ナカリシニ關ラス在留外國人ノ要求ニ對シテハ常ニ出来得ル限

リノ手段ヲ講シテ特別ノ便宜ヲ提供シ来レリ左ニ其概要ヲ列記ス

一、九月二日ヨリ六日ニ至ル五日間ハ船橋送信所活動ノ最重要ナリシ時機ニシテ此間ニ発信セシ救済事務ニ関スル極メテ重要ナル電信ハ海軍陸軍内務外務通信宮内農商務各省其他ノモノヲ併セテ四百五十六通ナルカ此内外国大公使及同館員並外国通信員等ノ依頼ニ依ル電報ハ四十一通即総発信数ノ約一割ナリ

一、九月四日ヨリ一ヶ月間品川横浜横須賀間ニ罹災者用並救済事務用トシテ毎日二回駆逐艦ノ定期便ヲ設ケ次テ九月六日ヨリ同十九日迄毎日(其後時々)練習艦隊ノ各艦連合艦隊及横須賀鎮守府所屬ノ軍艦特務艦駆逐艦等ヲ使用シテ東京横浜方面ノ避難民ヲ清水(時ニ大阪神戸)ニ輸送セシメシカ何レノ艦艇モ数日前常ニ満員トナリシニ関ラス外交団及外国人ノ要求ニ対シテハ当日ノ要求ヲモ受付ケ特ニ外交団ニ対シテハ之ヲ便乗券ニ記入シテ常ニ優先権ヲ与ヘタリ此期間京浜及横須賀ヲ往復セシ外人ハ大公使ヲ始メトシ其数頗ル多数ニ上レリ

第一駆逐隊ノ二隻品川発右家族ヲ乗艦セシメテ帰京ス

一、九月十四日十五日十六日品川ヨリ大運丸南生丸等ニテ帰国セントスル在京支那人約二千名ノ乗船ニ関シ芝浦ニテ特別ノ便宜ヲ提供ス

一、九月十五日軍艦横津ハ新任支那代理公使施履本氏ヲ乗艦セシメテ神戸発十七日品川着

一、九月十七日逗子葉山鎌倉方面残留ノ外人救済及婦女子傷病者收容輸送ノ為軍艦満州品川発十八日帰着ス

尚右ノ外海上ノ荷揚作業ヲ海軍ニテ担任セシ期間ニ於テハ外国船舶ノ荷揚ニハ特ニ意ヲ用ヒテ急速進捗セシムル事ニ努力シ横浜在泊ノ外国軍艦ニハ連絡將校ヲ派遣シテ常ニ意志ノ疏通ヲ計リ又英米仏大使館及在留外人用食料品材料品等運搬ノ為ニハ極メテ豊富ナラサル海軍省ノ貨物自動車ヲ請求ノ都度出来得ル限り都合シテ貸与シ来レリ

状況以上ノ如クナルヲ以テ横浜在泊中ノ外国艦船ハ救済事務ニ関スル我海軍ノ取扱ニハ常ニ満足ノ意ヲ表シ在泊帝國艦船トノ日常ノ応酬モ極メテ円滑ニ行ハレテ毫モ隔意不平等ナキノミナラス各国各々時局ヲ了解シテ協力一致シ唯タ其足ラサランヲ虞レタルノ情態ナリ而モ此混雜中英米司令

一、九月三日駆逐艦時雨ハ鎌倉ニ到リテ震災ニ罹ラレシ山階宮妃殿下ノ御用中同地ノ外人六名ヲ便乗セシメテ横浜ニ輸送セリ

一、九月四日米大使館員ヨリ内閣ヘノ通知ニ依リ箱根富士屋「ホテル」ニ英米人ノ罹災者約百五十名アルヲ知り同方面ニ糧食ヲ運搬シ且罹災者ヲ清水ニ輸送センカ為同夜特務艦膠州ハ品川発清水ニ到リ糧食搭載ノ上六日小田原ニ回航更ニ清水ヲ経テ帰品ス

一、九月六日横浜入港ノ米駆逐艦一隻在京罹災米人輸送ノ為品川入港ノ際海陸共ニ特別ノ便宜ヲ提供シ又同十五日米船「スミストムソン」「ブラックホーク」等ノ荷物陸揚ヲ始メトシ同二十三日迄横浜在泊米艦「ヒューロン」ト東京トノ通信連絡ノ為メ米駆逐艦一隻ノ芝浦入港及築地海軍使用地内ノ上陸場使用ニ関シ特ニ便宜ヲ供与セリ

一、九月七日逗子在任白耳義大使家族ノ保護願出アリ横須賀鎮守府司令長官ハ之ニ特別ノ保護ヲ与ヘ且其糧食ヲ保証シ次テ十二日駆逐艦便ニテ之ヲ帰京セシム

一、九月十一日大磯ニ在ル暹羅国公使ノ家族救済ノ為特ニ

長官仏伊艦長ハ何レモ海軍省ヲ訪問シ海軍省亦人ヲ特派シテ之ニ答フ米國亞細亞艦隊司令長官ニ関スル小林第三戰隊司令官報告中ノ左記一節ハ対外関係ノ如何ニ円満ナリシカヲ知ルノ一材料タルヲ失ハサルヘシ

(前略)司令長官ハ今回震災救済ノ為来朝以来終始隔意ナキ交渉ヲ海軍当局ト遂ケ其任務ノ達成ヲ容易ナラシメラレタル事ヲ謝シ本日国民力此振古未曾有ノ災厄ニ会シテ克ク自重其途ヲ衍ラス復興ノ氣運勃々タルモノアルヲ激賞シ更ニ語ヲ更メテ世上往々日米間ノ国交ニ忌ムヘキ言論ヲナスモノアレト右ハ一部政客等ノ為ニスル所アル誣言ニシテ米國国民全般ハ飽ク迄日米ノ親善ヲ欲シ日本ノ繁栄ヲ希望ス殊ニ米國海軍ハ日本海軍ニ対シ飽ク迄好感ヲ有ス昨二十日入京ノ際内閣總理大臣並海軍大臣ヨリ受ケタル殊遇ハ感謝ニ堪ヘスト云ヒ最後ニ同大將ハ此非常時ニ際シ予モ亦非常ノ事ヲ行ハント欲ス予ノ行ハントスル事カ全ク前例無カルヘキヲ知ルモノハ以テ予カ日本国民ニ対シテ有スル尊敬ノ意ヲ表示スル為一ハ以テ日米親善カ斯克迄密接ナル事ヲ他ノ外国人ニ示ス為出港ノ際再ヒ日本帝國国旗ニ対シ礼砲ヲ行ハントス(下略)

因ニ米国艦ハ既ニ入港ノ際国旗ニ対スル礼砲ヲ行ヒシカ
九月二十一日出港ノ際更ニ同様ノ礼砲ヲ行ヘリ
「日本海軍力事変後四十八時間ヲ経過シテ漸ク活動セリ」
トハ事実ヲ誣ユルモ甚シキ暴言ニシテ「外国軍艦ヨリ無線
電信ヲ發送スル毎ニ日本側ノ妨害セリ」トハ船舶以外ノ
通信機関ノ杜絶ト艦船ノ行動及救済事務ニ関スル通信輻輳
セル当時ノ情況ヲ知ラサル者カ若クハ悪意ヲ有スル者ノ言
ニシテ共ニ識者ニ対シテハ一顧ノ価値ヲモ有セサルモノナ
リ尚ホ米国軍艦ニ対シテハ特ニ時刻ヲ協定シテ無電通信ノ
便宜ヲ計リタル事ヲ茲ニ付記ス

四四三 十月二十五日 在伯国田付大使ヨリ
伊集院外務大臣宛

伯国政府ノ震災ニ対スル態度報告ノ件

機密公第十三号 (十二月八日接受)

大正十二年十月二十五日

在伯

特命全權大使 田付 七太(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

伯国政府ノ震災ニ対スル態度報告ノ件

本邦ノ震災ニ対スル伯国官民ノ精神の同情ハ国内ヲ通シテ
其高潮ニ達セルモ伯国若ハ伯国政府側ノ物質的援助ニ関シ
テハ之ヲ欧米諸国ノ採レル態度ニ比シ頗ル物足ラヌ心地セ
ラルルハ遺憾ノ感ナキ能ハス仍テ本使ハ外務長官訪問ノ際
ソレトナク探リヲ入レ見タルコトアリタル処其当時同長官
ハ『今少シク具体的ニ弔意表彰方ニ関シ考慮シツアル所
ナルガ少クモ昨年智利国震災ノ際伯国ヨリ支出セル救恤金
ト同額(壹千「コントス」現在ノ為替相場ニテ約貳拾万円)
位ハ支出シ度キ考ヘナルモ財政不如意ノ折柄ニテ迅速ニ運
ヒ兼ヌル次第ナルガ折角同僚トモ相談中ナリ』云々ト語レ
ルモ今日迄何等之ニ関スル決定ヲ見ルニ至ラサルハ一ニ伯
国ノ財政逼迫カ其ノ主要原因ヲナセルモノナルベシト存セ
ラル

尚本使ハ右談話ノ序ヲ以テ今回地震ノ結果トシテ本使接手
ノ電報ニ依レハ失業者東京丈ニテモ七万人以上ニモ達シ居
ル趣ナレバ是等失業者ノ為メ此際伯国政府ニ於テ適當ノ地
ヲ提供セラルルコトヲ得バ我國民モ甚ダ感謝スル処ナルベ
シト述ヘタルニ伯国中央政府直轄地ハ暮里比亞国境ノ「ア
クレ」(Acre)地方ノミニテ其他ノ連邦独立諸州ニ於テ未

タ民有ニ帰セサル土地ハ憲法ノ規定ニ基キ夫々其所在州ノ
所有ニ帰シ居ルヲ以テ各州政庁ト直接交渉セラルル外ナカ
ルベシト答ヘタリ仍テ此際本使ハ内地旅行ヲ試ミ度ニ付時
期ヲ見計ヒ追テ電報ヲ以テ稟請スベシ

右及具報候 敬具

四四四 十一月一日 伊集院外務大臣ヨリ
在米国壇原大使宛(電報)

メロン大蔵長官トノ接近ヲ有利トスル米国大

使ノ内話通報ノ件

第六一〇号

米国大使館焼失後一時自宅ニ仮寓セシムル等親切ニ待遇セ
ル為団琢磨ハ爾來特ニ米国大使ト昵懇ノ間柄トナレル次第
ナルトコロ同大使ハ団ニ対シ極メテ内密ノコトナルカ「フ
ーバー」ハ敏腕ニシテ閣員中重キヲナシ今回震災ニ関シテ
ハ日本ニ同情ヲ寄セ尽力斡旋ノ勞ヲ各マス行動シ居リ物資
購入其他ニツキ同人ハ壇原大使トノ懇切ナル交誼ハ今後引
続キ維持スルヲ有利トスル次第ナルカ閣員ノ特長ニツキ考
フレハ米国財界ノ有力者ト接觸密邇ニシテ其方面ニ信用篤
キハ実ハ大蔵長官「メロン」ナルニ付今後財の援助必要ナ

ルニ当リテハ同人トノ連絡ニ由リ其助力ヲ俟ルヲ可トス同
人ハ寡言一見無愛想ナルモ大統領及國務長官ニモ特ニ重用
セラレ居ル事実ハ注意ニ値スヘキニ付自分帰米ノ上壇原大
使同大蔵長官ノ接近ニ何等尽力シタキ考ナリト内話シタル
趣ニテ三十一日出発セル「ウッツ」帰着ノ上ハ右ノコトア
ルヘク何等参考迄ニ貴官ニ内報方団ヨリ申出アリタリ右御
含置アリタシ

四四五 十一月九日 伊集院外務大臣ヨリ
在本邦英國大使宛

濠州總督ノ震災弔電ニ対スル謝意伝達方依頼

ノ件

政ニ普通第一三三二号
以書翰致啓上候陳者過般ノ震災ニ関シ濠州總督ヨリ本年九
月三日帝國政府ヘ通達ノ為貴大使館宛發電セラレタル懇篤
ナル弔電原文今般郵送ニ依リ接受セラレタル趣ヲ以テ本月
一日付貴翰第一四一号ヲ以テ御申越ノ次第致了承候
這般震災ニ際シ濠州政府カ逸早く救済手段ヲ執ラレタルコ
トハ帝國政府ノ感謝措ク能ハザル所ニシテ不取敢本年九月
十二日付政ニ普通臨第一〇六号ヲ以テ貴下宛同政府ニ対ス

ル謝意申進シ又同九月十日在「シドニー」帝国総領事ニ電訓シ同政府へ表謝方取計ラハシメ置キ候次第モ有之候ヘドモ今重ネテ鄭重ナル御通報ニ接シタルニ際シ本大臣ハ前記濠州総督ノ電報不着ヲ深く遺憾トスルト共ニ帝国政府ノ名ニ於テ茲ニ更メテ深厚ナル謝意ヲ表示致シ候条同總督へ可然御伝達相煩度此段申進旁々本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

四四六 十一月九日 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛

中国官民ニ対スル表謝使節白井代議士一行北
京滞在中ノ動靜ニ関シ報告ノ件

公第六〇六号

(十一月二十一日接受)

大正十二年十一月九日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

白井代議士一行北京滞在中ノ動靜ニ関シ報告ノ件

白井代議士一行ハ十月三十日当地着爾来十日間ノ当地滞在中大總統、宣統帝、國務總理其他有力ナル関係官民ト会見

二、大總統謁見

十一月三日日本使白井代議士一行ヲ帶同シテ曹大總統ニ謁見シ先ツ本使ヨリ今次ノ震災ニ対スル大總統ノ同情ヲ感謝シ白井代議士一行ヲ紹介シタル上白井氏ハ一行ヲ代表シテ日本国民ニ代リテ謝意ヲ表スル旨ヲ述ヘタル後此ノ謝忱ヲ普ク全国官民一般ニ下達セラレンコトヲ懇望シタルニ対シ大總統ハ極メテ鄭重ナル挨拶ヲ為シタルカ対談中今次支那官民ノ表示シタル好意ハ全然自然的ノ発露ニシテ若シ此ノ好意ヲ永遠ニ持續シ日支ノ邦交ヲシテ益々親善ナラシムルコトヲ得ハ不幸中ノ幸ナリト述ヘタリ

三、宣統皇帝謁見

十一月五日日本使白井代議士一行ヲ帶同シ参内絳雪軒ニテ拝謁シタルカ陳太傅其他内務府大臣陪席シタリ本使ハ先ツ本日親シク拝謁ヲ賜ハリ竜顔ノ麗ハシキヲ拝シテ恐悦ニ勝サル旨ヲ述ヘ日支兩國間ノ親善並ニ日本皇室ト前清皇室トノ親善殊ニ深厚ナリシ次第ヲ叙シテ今次ノ震災ニ対シ巨額ノ金員其他貴重ノ物品ヲ賜ハリタルハ本国官民一同ノ感情措カサル所ニシテ本日親シク謁ヲ賜ハリ謝忱ヲ言上スルヲ得ルハ本使ノ光榮トスル所ナリト述ヘ次テ

克ク来支ノ目的ヲ達成シ且ツ支那一般ニ頗ル好感ヲ与ヘ本月九日洛陽ニ向ケ出發シタルカ同地ニ吳佩孚ヲ訪問ノ上南下ノ筈ニ有之候一行当地滞在中ニ於ケル動靜ハ既ニ新聞報道等ニ依リ大体御承知ノコトト存候得共左ニ其概要ヲ記述致候条委細右ニテ御承知相成度此段及報告候也

追テ特ニ奉天宛貴電第一二九号御来示ノ次第モアリ本使ハ一行滞在中通訳其他諸般ノ便宜ヲ計ル為テニ池部書記官ヲ一行ニ付随セシメタルカ外交部ニ於テモ特ニ機要股員沈觀鼎氏ヲ接待役トシテ種々便宜供与方ニ尽力致候此段申添候

記

一本使ノ招宴

十一月一日一行紹介ノ目的ヲ以テ一行ノ外高國務總理以下ノ各部総長、馮玉祥、王懷慶、顏惠慶、汪大燮、熊希齡、陳宝琛其他震災ニ同情シ種々尽力シ呉レタル在野ノ紳士三十余名ヲ招待シ席上本使ノ挨拶ニ次テ白井代議士ハ今次ノ震災ニ対スル支那官民一致ノ同情ヲ表謝スル為メ国民ヲ代表シテ来燕シタル趣旨ヲ述ヘ重ネテ支那朝野ノ同情ヲ鳴謝シタルニ対シ顧外交総長ハ支那側來賓ヲ代表シテ答辭ヲ述ヘタリ

白井代議士ノ一行ヲ一々紹介シタル処宣統皇帝ハ皇室ノ經濟極メテ困難ニシテ隣邦親善国ノ巨災ニ対シ十分ノ救恤ヲナスコト能ハサルハ甚タ遺憾ニ堪ヘス表謝ノ辭ハ敢テ当ラスト遜讓セラレ次ニ白井代議士ノ熱誠ナル感謝ノ辭ニ対シテモ鄭重ナル御言葉ヲ賜ハリ遠来ノ勞ヲ慰セラレ尚ホ今次ノ震災ニ就キ日本皇室ノ御仁致並ニ国民一致復興ニ努力中ナル由ナレハ復興ノ期モ遠カラサルヘント述ヘラレタルニ付本使ヨリ一々奉答シ次ニ別館ニ於テ茶菓ヲ賜ハリタリ

四、支那側ノ招宴

十一月三日午後一時ヨリ白井氏一行ハ顧外交総長ノ招宴ニ臨ミタルカ列席者ハ高國務總理以下ノ閣員及軍界ノ領袖在野ノ有力者並ニ参衆兩院議長副議長等ニシテ兩國元首ノ健康ヲ祝シ乾杯シ頗ル盛会ナリキ
次ニ十一月五日午後一時高國務總理ハ伝心殿ニ於テ本使及表謝団一行ヲ招待シテ盛宴ヲ催フシ農商總長袁乃寬ハ中日実業公司總裁ノ資格ヲ以テ一行及在留官民ノ重ナル者ヲ招待シテ歓迎会ヲ開キタルカ同一行ハ同日午後七時ヨリ更ニ衆議院副議長張伯烈ノ歓迎宴ニ臨ミタリ

五、一行ノ招宴

十一月三日夜^(五)一行ハ支那側ノ重ナル官民ヲ北京「ホテル」ニ招キ宴会ヲ催フシ翌六日更ニ支那新聞記者及通信員ノ多数ヲ招待シテ茶会ヲ催フシ夜ハ中央飯店ニ多数ノ教育関係者ヲ招待シテ夫々震災ニ対スル支那側ノ同情ヲ感謝シ将来日支ノ親善東亜ノ和平ヲ保全スル為ニハ社会ノ木鐸タル新聞記者ノ提唱教育家ノ賛同ヲ希望スル趣旨ニテ夫々適宜ノ挨拶ヲ為シタルニ対シ支那代表者モ又共鳴の答辞ヲ述ヘ何レモ歎ヲ尽シテ散会セリ

六、代議士一行ノ歴訪セル重ナル方面

大總統及宣統皇帝ニ謁見シタル次第ハ前述ノ通ナルカ其他特ニ一行ノ歴訪セル重ナル者左ノ如シ

國務總理 高凌霨 吳交通總長

顧外交總長 其他ノ各部總長

馮玉祥 王懷慶

孫宝琦 顏惠慶

汪大燮 熊希齡

蔡廷幹 王家襄 (參議院代表者)

吳景濂 (衆議院議長) 張伯烈 (衆議院副議長)

七、外交団首席公使訪問

代議士一行渡支ノ目的ハ支那官民ニ対シ日本国民ノ深厚ナル謝意ヲ表スルニアリタル処今次我國ノ震災ニ当リテハ独リ支那ノミナラス当地ニ於ケル各種外国ノ個人若ハ団体カ拳ツテ深甚ナル同情ヲ表シタルニ対シテハ代議士一行来燕ヲ機トシ一応表謝ノ意ヲ明カニシ置クコト然ルヘシト認メ九日朝一行当地出發ニ先チ本使白井代議士一行ヲ帶同シテ首席公使ヲ訪問シ尚便宜上前記一行来支ノ目的及此機会ニ於テ当地ニ於ケル各種外国団体ニ対シ日本国民ノ深厚ナル謝意表明方ニ関シ然ルヘク配意ヲ得度キ旨ノ首席公使宛本使署名ノ書狀ヲ残シ置キタリ

四四七 十一月九日

在ニュー・ヨーク姉齒總領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

本邦震災ニ対スル世界ノ同情ニ対スル我方表

謝方法ニ関シ意見具申ノ件

第二三四号

(十一月十日接受)

今回ノ震災ニ対スル世界ノ同情ニ感謝スル方法トシテ「Jussell」申出ノ件ハ在米大使ヨリ貴大臣宛往電第六八六号後段ニ依リ御承知ノ通ト存ズル処今回大統領カ十一月二十

九日ノ Thanksgiving Day ニ関スル Proclamation ニ本

年中米国民ノ経験セル二大事件トシテ「ハーデング」氏ノ死去ニ対スル米国人ノ哀悼表示及京浜震災ニ対スル米国人ノ同情表示トヲ記載シ居ルガ故ニ当地日本人ノ一部ニハ此日ヲ択ヒテ前頭電報後段ノ如キコトヲ実行スルコト極メテ望マシキ旨申スモノアリ

申迄モナク当日ハ米國ノ Home-Celebration Day ニシテ米国民ハ何レモ家庭ニ団欒スル日ナルト共ニ前記ノ如ク大統領ノ Proclamation ノ次第モアレバ米國ニ感銘スル為ニハ好箇ノ機会ナルベクト思考セラル唯「Thanksgiving Day」ハ米國特有ノ祭日ナレバ此日ヲ選ブ時ハ他國ニ対シテハ米國ニ与フル程強キ感動ヲ与ヘ得ザル虞アリ從テ寧ロ「クリスマス」ノ日ヲ選ブ時ハ全世界ニ対シ公平ニ謝意ヲ表シ得ル便アル様思惟セラル何レニシテモ謝意表示ノ方法トシテハ甚ダ妙案ナリト存ゼラルルニ付右兩日ノ内ヲ択ビ罹災地方ノ住民丈ケニテモ黙禱 (米國ニ於テハ通例一分間静思黙禱ス) シテ謝意ヲ表セシムル様御取計ヒ相成リテハ如何カト存ズ

在米大使ヘ転電セリ

四四八 十一月十日

在雲南糧谷領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

雲南省政府ノ舉行セル本邦震災犠牲者ノ大法

會及ビ追悼會ノ狀況報告ノ件

公第一二五号

(十一月三十日接受)

大正十二年十一月十日

在雲南

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

領事 糟谷 廉二 (印)

雲南省政府ニ於テ舉行シタル本邦震災遭難死者ノ

大法會及追悼會ノ狀況報告ノ件

本邦震災ノ報当地ニ達スルヤ唐繼堯初メ雲南省官民ハ本邦ニ対シ甚大ナル同情ヲ以テ種々好意ヲ表シタル次第ハ本官屢次ノ報告ニ依リ御承知ノ通りナル処今回雲南省政府ハ更ニ遭難死亡者追善供養ノ為メ本月二日ヨリ八日迄一週間ニ渉リ当地唯一ノ古刹ナル円通寺ニ於テ水陸大会ト称スル一大法會ヲ開催シタリ祭壇ニハ其中央ニ日本震災遭難各人土ノ靈位ト記シタル位牌ヲ其左右ニ遭難薨去アラセラレタル我宮殿下ヲ始メ知名本邦人ノ位牌ヲ安置シ背後二日支英

米仏ノ国旗ヲ掲ゲタリ法会ニ参集シタル省内各派ノ僧侶ハ
実ニ百六十七名ノ多数ニ達シ連日読経三昧ニ入り参詣人引
モ切ラズ其最終日タル八日ハ午後七時ヨリ放銃口ト名クル
最モ重要ナル挙式アリ唐繼堯始メ重ナル支那官憲ノ参拝ア
リ本官及在留民モ亦家族ヲ伴ヒ同夜参拝焼香セリ又昨九日
ハ法会ニ引続キ送神ノ式アリ円通寺ヨリ市外得勝橋迄（約
我一里余）前記位牌ヲ送リタルガ其行列ハ軍樂隊ヲ先登ト
シ亭子其他之ニ続キ長サ拾余丁ニ及ビ且ツ円通寺発引及南
門通過ノ際各九発ノ弔砲ヲ放チ極メテ盛大ニ行ハレ唐繼堯
氏ノ代表財政司長王九齡外多数ノ支那官憲之ニ加ハリ本官
及軍事顧問山県大佐等モ亦同行列ニ参加セリ雲南政府ハ右
ノ如キ宗教上ノ諸式ヲ举行シタルノミナラズ法会ノ期間タ
ル一週間省内一般ニ対シ刑ノ執行及屠殺ヲ禁シ生物ヲ放チ
貧民ヲ救済シ且ツ死刑囚以外ノ各囚徒ニ対シ大赦ヲ行ヒ刑
一等ヲ減シ以テ功德ノ無量ヲ示セリ

右法会開催中本月六日唐繼堯祭主トナリ同寺院内前記祭壇
ノ前ニ於テ追悼会ヲ举行シタルガ先ツ唐繼堯祭文ヲ朗読シ
焼香奠酒ヲ行ヒ続テ本官英米仏領事ノ順序ヲ以テ焼香奠酒
ヲ為シ極メテ厳肅ニ行ハレタリ（最初支那側ニ於テ定メラ

レタル式次ハ唐繼堯祭文朗読ノ後本官弔詞ヲ朗読スル筈ナ
リシ処各国領事参列セルノミナラズ本官ハ十月一日当館ニ
於テ追悼会ヲ催シ祭文ヲ朗読シ唐繼堯及各領事参列シタ
ルコトニモアリ各国ニ対スル思惑上支那側ト協議ノ後之ヲ
見合セタリ）而シテ同会ニ参会シタル支那官憲ハ頗ル多数
ニ上リ本邦在留民ハ勿論当地在留外人モ亦参列シ非常ナル
盛会ナリキ

尚ホ雲南省政府ハ追悼会及送神式ヲ举行シタル六、九ノ両
日市中各戸ヲシテ国旗ヲ掲揚セシメ又送神式当日ハ各官衙
休庁弔意ヲ表スル等其遣口ハ恰モ自国内ノ災厄ニ対スルガ
如キ状態ニシテ之ガ為メ從來本邦ニ対スル雲南省民ノ好感
ハ益々増進シタルモノト思考セラル元来右大法会及追悼会
ノ開催ハ仏教ノ信仰厚キ前記王財政司長（唐繼堯ノ股肱）
ノ熱心ナル主唱ニ係リ唐繼堯之ニ賛シ同人及同シク仏教ノ
信仰厚キ水利局長省長公署総務処長（副官長）外交司長市
政公所会弁等ニ命シ万端処理セシメタル次第ニシテ省政府
ガ法会其他ニ費シタル額ハ雲南銀五千元ニ達シタリトノコ
トナリ

本件ニ関シテハ既ニ拙電第三六号及第三八号ヲ以テ大要報

告致置候処猶ホ御参考迄重ネテ詳細及報告候 敬具

四四九 十一月十一日

在チエックコスロヴァキア国田村代理
公使ヨリ
伊集院外務大臣宛

本邦震災ニ対スルチエックコスロヴァキア国官

民ノ態度報告ノ件

付属書 「ペンコフ」紙記載記事と訳文

機密公第一二二号

（十三年一月八日接受）

大正十二年十一月十一日

在致須国

臨時代理公使 田村 幸策（印）

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

震災ニ対スル当国官民ノ態度報告ノ件

這次ノ震災ハ當ニ当国ノミナラス欧州一円ニ亘リ偶々日本
其ノモノニ対スル彼等理解ノ程度ト我カ真ノ不幸ニ対シ果
シテ如何ナル程度ノ同情ヲ寄セ得ルカノ試金石タリシモノ
ニシテ特ニ当国ニ取リテハ其ノ日本ニ対スル謝恩ノ念アリ
トセハ奮テ之ヲ發揮スヘキ絶好ノ機会タリシノミナラス新
タニ国ヲ建テタルモノカ友邦稀有ノ大不幸ニ対シ如何ニ振
舞フヘキカラ中外ニ示スノ時来レルモノニシテ当国民心ノ

推移ハ此ノ意味ニ於テ張胆明目本官ノ注視ヲ怠ラサリシ所
ナルカ乍遺憾今日迄ノ成果ニ就キ之ヲ概論スレハ遠ク本官
ノ期待スル所ニ副ハサルモノアリト断セサルヲ得ス而シテ
其ノ然ル所以ノモノハ果シテ期待スルモノノ罪力或ハ又彼
等国民性ノ然ラシムル所カ抑々亦本官等啓発宣伝ノ努力足
ラサルカタメナルカ

惟フニ「チエック」人ハ往年日本カ与ヘタル援助ヲ忘レサ
ルヘク從テ「チエック」人ハ必ス日本ニ対シ好感ヲ有スル
ナルヘシトハ我旅行者ニシテ当地方ヲ歴遊スル者ノ期セス
シテ發スル一致ノ質問ナリ（現ニ我旅客ノ多クハ旅館、路
傍若ハ車中ニ於ケル経験ヨリシテ「チエック」人ハ日本人
ニ対シ甚タ深切ナリトノ評言ヲナスモノ不尠）ト雖是レ恩
ヲ施シテハ之ヲ思フ勿レトノ箴言ヲ忘却セルモノニシテ
「チエック」人真ノ対日感（仮ニ例ヘハ日露再ヒ相抗争ス
ルニ至ル場合アリトシテ「チエック」人カ果シテ何レニ与
スルカノ問題ノ如シ）ヲ此クノ如キ印象ノ下ニ断定スルモ
ノアラハ本官其ノ可ナル所以ヲ知ラサルナリ蓋シ「チエッ
ク」人ノ立場ヨリスレハ或ハ西比利亞ニ於ケル我カ救援ノ
師ヲ目シテ必スシモ彼等ヲ危地ニ救出セリトハ心得ス却テ

日本軍ト協賛シテ共同ノ敵ニ当リタル連合側ノ一員タリト謂ハムモ未タ計リ難ク現ニ旧西比利亞軍ノ団体カ当国赤十字社ノ義捐金募集ニ声援スルタメ発セル公表書ヲ一瞥スルモ一言救援ニ及ハス僅ニ「チエック」ノ傷病兵カ日本軍ノ看護ヲ受ケタルコトヲ述フルニ止マルヲ見テモ其ノ一班ヲ窺フニ足ルモノアレハナリ

鉄火ト饑餓トノ境ヲ出テテヨリ未タ幾許ノ年所ヲモ經ス戰爭ニ依ル悲惨事ニ慣熟シテ心裡聊カ麻痺ノ状態ニ在ル当国人等ノ境遇ハ本官ノ充分之レヲ諒トスル所ナリト雖我千古ノ震害モ「リエージュ」ノ砲撃程ノ印象タニ与ヘサルニ至リテハ地震ノ何物タルカヲスラ体得セサル者大部分ナル当地方殊ニ距離ノ遠隔ニ基キ一層之ヲ稀薄ナラシムル事情アリトハ謂ヘ詮ナキ次第ナリ

震災ノ報一度伝ハルヤ外務省ハ直ニ吏員ヲ当館ニ派シテ先ツ其ノ実否ヲ確メ然ル後外務次官自ラ來訪又内閣方面ヨリハ当国首相ヨリ直接我首相ニ対シ弔電ヲ発シ大統領亦官房長ヲ当館ニ派シテ我皇室ノ安否ヲ御見舞申上ケシムル等先ツ政府トシテ國際ノ儀礼上為スヘキコトハ一応怠ラサリシ次第ナリト雖当国ノ如キ民間ノ「オーガナイゼーション」

吾人ハ「ルール」ノ占領ニ依リ痛苦一方ナラス何ノ余裕アリテカ極東ノ震災ヲ顧ミルノ暇アラムヤト没分曉ノ記事ヲ掲クルノミナラス或ハ日本ハ二流國ニ落下セリトノ倫敦辺ノ巷声ヲ麗々數大活字ニテ所載スル不謹慎ナル新聞モアリ又百姓党ノ機關新聞ハ此機會ヲ利用シテ法王庁帝國政府トノ關係ニ関シ別紙訳文ノ如キ嘲弄の記事ヲ掲クル等「ボヘミヤ」氣質トシテハ了解シ難キニ非サルモ國際ノ儀礼ヲ弁ヘサルコト甚シク新聞紙ノ品位著シク劣等ナリト断セサルヲ得ス要之震災ニ対スル當國言論界ノ態度ハ零ナリト評スルノ外ナシ

独リ此間ニ在リテ聊カ慰ムヘキハ當國赤十字社ノ活動ナリ彼等ハ震災後直ニ義捐金ノ募集ニ着手シ或ハ街頭ニ兒童ヲ或ハ活動写真ヲ或ハ講演ヲ利用シテ汎ク我慘害ト報恩ノ大義トヲ公衆ニ訴ヘ或ハ演劇ニ或ハ音楽會ヲ催シテ其ノ收得ヲ基金ニ加ヘ釀金既ニ三万余円ニ達セリト云フ國際的性質ヲ有スル機關トシテ善ク其ノ地位ヲ弁ヘタルモノト賞セサルヲ得ス若シ夫レ帝國ノ風物ヲ慕フテカ或ハ人情ノ美点流露セル為カ結婚ノ指輪（寡婦若ハ鰥夫ナリ）ヲ當館若ハ赤十字ニ寄贈スルモノアルニ至リテハ是レ寧ロ例外ノ美談ト

未タ全カラス國民ニ國際道德上ノ訓練未ダ充分ナラサル國情ニ於テ政府ノ措施カ右一片ノ儀礼ニ止マリ夫レ以上ニ出テサリシコトハ本官ノ返ス返スモ遺憾トスル所ニシテ特ニ當國ハ經濟的の方面ニ於テハ現在歐洲諸國中最モ有利ナル地位ニ在リ乍ラ物質的のニ何等ノ同情ヲ寄与スルコトナク義捐金ノ募集ハ全然之ヲ赤十字社ニ一任シ去リ何等関知セサルノ態度アルハ之ヲ咎メサラムト欲スルモ能ハス政府ニシテ一片報恩ノ誠意アリトセハ此機會ヲ利用シ何ソ自ラ進テ國民ニ勧誘シ之ヲ指導セサルノ举措ニ出テサリシヤ當國政府ノ為深ク之ヲ惜ム次第ナリ

若夫レ新聞紙ニ至リテハ東京横浜ノ概念スラ之ヲ知得セス頻次ノ驚報ニ刺戟サレ漸ク當館ニ就キ参考書若ハ写真類ノ貸付ヲ申出テ僅ニ一片ノ記事トシテ兩地ノ地誌ヲ掲載セルニ止マリ而モ之レ一、二ノ新聞ニ限り平常好シテ独逸、洪牙利ノ惡評ヲナス筆ヲ有シ乍ラ一言我ニ同情ノ論說ヲ掲クル一紙無キコトハ政爭ニ没頭スル田舎新聞トハ謂ヘ其ノ世界の智識ト世界の訓練トヲ欠如スルコト寧ロ驚クノ外無ク殊ニ政府ノ機關紙カ手ヲ拱テ何等為スコトナカリシハ本官ノ理解シ能ハサル所ナリ而之獨逸語猶太系ノ新聞ノ如キハ

認メサルヘカラス要之期待余リニ大ナリシカ為當國一般ノ態度大ニ慚焉タラサルモノアリ為ニ或ハ本報告ハ酷ニ失スル点無キヲ保シ難キモ結局「チエック」人ハ深く頼ムニ足ラサル國民ナリトノ感禁シ難ク候
右及報告候 敬具

（付屬書）

「ペンコフ」紙記載記事と訳文

日本ノ丁寧振（大正十二年十月四日「ペンコフ」所載）
日本政府ハ過般法王庁ニ使節ヲ派遣セムトシ其ノ經費ヲ議會ニ要求セルカ歳費節約ノ趣旨ヲ以テ否決セラレタリ為ニ外務大臣ハ次ノ如キ外交文書ヲ法王庁ニ送致セサルノ止ムヲ得サルニ至リタリト云フ

基督教ノ最高支配者ニ恭シク申上ク、我等ノ太陽ノ光モ猊下ノ赫々タル光輝ニ對比スレハ物ノ用ヲ為サス、我々ハ猊下ヲ父母ト仰キ一切ノ尊敬ト要スレハ生命モ血モ之ヲ猊下ニ捧ケムト欲スルモノナリ然レトモ我等ハ經費ヲ節約セサルヘカラス使節ヲ派遣スルコトハ我等ノ力ニ余ル仕事ニシテ庶幾クハ崇高ナル教主ヲ之ニ必要ナル黄金ヲ有セサル貧乏ナル我々ヲ救サセ給ヘ

右ニ対シ法王庁カ如何ナル回答ヲナシタルカハ詳ナラス
ト雖、兎モ角右ノ外交文書ト其ノ返事トハ恐ラク最新外
交専門家ノ手本トナリ学フ所多カルヘシ元来日本ノ外務
大臣カ何故ニ議會ノ協賛ヲ経サル以前ニ法王庁ニ使節派
遣ノ希望ヲ通知セルカモ不明ニ属シ旁々本件ハ法王庁直
近ノ外交家カ物知り顔ニ案出セルモノナルヤモ計ラレス

四五〇 十一月十四日 在伊国落合大使ヨリ
伊集院外務大臣宛

震災ニ対スル伊国官民ノ同情ニ関シ報告ノ件

機密公第五四号

(十三年一月八日接受)

大正十二年十一月十四日

在伊

特命全權大使 落合 謙太郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

震災ニ対スル伊国ノ同情ニ関スル件

過般関東地方大震災火災ニ対スル伊国官民ノ表示セル同情ニ
関シテハ当時屢々報告申進候通りナル処其同情ハ自国ノ地
震国ナル丈ケ他諸国ニ比シ一層痛切ナルモノアリ大災害ノ

理公使、波蘭公使、「チエツコスロヴァキア」公使、秘

露公使、丁抹公使(代理)、ハイチ公使、勃国公使、智

利公使、「ウルグアイ」公使、玖瑪公使、瑞西公使、諾

威公使、洪国公使(代理)、希臘公使(代理)、「ニカラ

ガ」公使、「ルーマニア」代理公使、独乙代理大使、「ア

ルバニア」公使(代理)、パナマ公使、「ユーゴスラヴ」

公使、墨西哥代理公使、土耳其外交代表、「アフガニス

タン」公使、「ヘッヂヤス」公使等来訪又ハ電報及書翰

ヲ寄セ来ル(尚此外白国大使其他社交界ニテ面会ノ機会

ヲ以テ見舞ヲ述ヘタルモノ多数ナリ又書記官武官等ハ極

メテ多キモノ々枚挙セス)

二、「サン・マリノ」共和国政府(後述ノ如ク「サン・

マリノ」共和国ニ於テ本邦ニ対スル表弔日ヲ定メタル

ロトラ同国 Capitaine Regento ヨリ電報ニテ本使ニ通

告シ来レリ)

三、羅馬知事、羅馬市長、ナポリ知事及市長、「ミラン」

知事、「アレツォ」知事、「コルトーナ」町長、「ルツカ」

町長、「カラブリア」知事、「ボローニヤ」知事、「ベネ

ヴェント」知事、「メッシーナ」知事、「トリエスト」知

八 関東大震災関係 四五〇

報伝ハルヤ當時 Raconigi 離宮ニ御滞在中ノ当国皇帝陛
下ハ特ニ Grand Ecuier ヲ勅使トシテ本使ノ許ニ派セラ
レ深甚ナル弔意ヲ表セラルルト共ニ日本国民ノ大不幸ニ対
シ痛ク宸襟ヲ悩マシ居ラルル旨伝達セシメラレ首相兼外相
「ムッソリーニ」氏ハ直ニ外務省儀式局長ヲ当館ニ派シ伊
国政府并ニ同首相ノ名ニ於テ深厚ナル弔意ヲ表セシメタリ
右ニ対シテハ本使直ニ王宮及外務省ニ出頭深厚ノ謝意ヲ述
ヘ尚貴電訓ニヨリ更ニ夫々措置致置候右ノ外当地駐劄外国
大公使等ハ或ハ本国政府ノ名ニ於テ或ハ個人トシテ表弔シ
来リ且当国官辺筋及知己ノ人々ハ勿論遠ク各地方ニ於ケル
公私諸団体及個人等ヨリモ表弔同情ノ電報又ハ書簡ヲ接受
スル事日々数十ニ達シ而カモ九月中殆ト連続接到シ之レカ
挨拶ニ忙殺セラレタル有様ナリ上述皇室及政府ノ外外国官
辺ノ夥シキ人々ヨリ見舞ヲ受タルカ其他ニ付主ナルモノノ
ミヲ挙ルニ

一、英国大使、仏国大使、西国大使、米国代理大使、英国
代理大使、仏国代理大使(此兩者ハ各其大使不在中来訪
セシモノニシテ大使ト重複来訪トナレリ)「ブラジル」
大使、葡国大使、和蘭公使、「アルゼンチン」公使及代

事、「ゼノア」知事等

四、「ファシスチー」党本部、農事協会、羅馬「ボローニ
ヤ」「トリノ」「ゼノア」「ヴェネチヤ」各商業會議所、
伊太利銀行、羅馬銀行、伊国商業銀行、「クレディト」
銀行

五、知人、本邦名譽領事等、其他多数ノ個人

尚 Otto Hamilton ナル婦人ハ震災火災救援ニ經驗ヲ有ス
ル人ナルカ今次日本震災ニ対シテモ法王庁側ト協力シ至
急寝台五十台ヲ携帯日本ニ急行シ救助事業ニ当ラント熱
望シ当方ヘ申出ノ次第アリタルヲ以テ往電第一八一号及
貴電第六一号ノ往復ノ結果其好意ヲ謝スルト共ニ体ヨク
日本行ヲ断リ置キタルカ同人ハ頗ル遺憾ト為シ居レリ
又当時内外ノ事情頗ル複雑セル折柄ニモ不拘当国諸新聞
ハ約二週間ニ亘リ大災害ノ報道ニ努メ毎日半頁乃至一頁
ヲ之レニ費シ帝國ノ大不幸ニ深甚ナル同情ヲ表スルト共
ニ其充実セル現勢国力ヲ以テ被害恢復ノ速カナラン事ヲ
懇禱シ(公第一四九号参照)伊国政府又全国表弔日ヲ定
メ九月十日ヲ以テ国喪トナシ半旗ヲ掲揚シ一切ノ歌舞音
曲ヲ停止シタルハ殆ト先例ナキ事実ナリ、尚「サン・マ

リーノ」共和国ニ於テモ同日ヲ以テ本邦ニ対スル表弔日
ト定メ弔旗ヲ掲ケ歌舞音曲ヲ停止シタリ

如斯伊国ノ我災厄ニ対スル精神的同情ノ発露ハ頗ル深厚ナ
ルモノアリ他外国ニ比シ劣ラサルモノアリシ事ハ認メ得ラ
ルル処ナリ、乍然物質的同情ニ関シテハ英米仏等ニ及ハサ
ルモノナリシハ当国現在ノ経済財政上ノ位置ニ鑑ミ余儀ナ
キ次第ナルヘク之ヲ以テ当国官民同情ノ程度ヲ云為スヘキ
ニアラスト考フ、而シテ当国官民ノ物質的同情発露中主ナ
ルモノハ往電第一九八号所報ノ通り当国赤十字社ヲ本事業
ノ中心トシテ活動ヲ開始セシメタルコトニシテ政府ハ之カ
為緊急勅令ヲ以テ百万利ヲ支出シ之レヲ同社ニ下付シテ救
恤物品購入費ニ充テシメ同社ハ広ク全国ニ広告シテ寄付ヲ
募リ内閣次官ハ各地方長官ニ対シ各地赤十字支部ト協力シ
金品ノ募集ニ努力セラレタシトノ回章ヲ発シタリ右ノ結果
各地方庁ニ於テハ金品募集ニ尽力中ノ由ナル処未蘭市ニ於
テハ十一月三日付ニテ既ニ十二万五千利ノ応募者アリ尚盛
ニ募集中ナリト發表シ居レリスノ如クニシテ同社ハ当局ト
協力シテ募集ニカマルト共ニ取急キ物品ノ本邦廻送ニ着手
シ既ニ十月二十日第一回寄贈品トシテ左記ノ物品ヲ發送シ

タル趣同社ヨリ通報アリタリ

記

綿入り毛布 二千枚
羊毛毛布 六百六十枚
袖無毛糸ジャケツ 三千枚
毛糸腹巻キ 三千五百枚
毛糸肩掛ケ 千二百枚

以上

而シテ第二回積出シニ先立チ先方ノ希望ニ応シ本使妻藤井
書記官妻鈴木書記官等同本社ニ到リ日本向品目、品柄等ノ
選定ニ付協議ニ参リ之レ又近ク發送ノ運ヒトナリ居レリ
尚右伊国政府カ百万利ノ救恤費ヲ支出シテ赤十字社ニ下付
シタル件ニ関シ当時ノ事情ヲ知得セル者ノ内話ニ依レハ当
初政府当局者ハ各新聞経営者ヲシテ義捐金募集ヲナサシメ
ントテ之ヲ慫慂シタル所新聞社ハ何レモ当国人ノ精神的同
情ハ源基ナルモ国民一般經濟上ノ現況ニ鑑ミ政府率先シテ
出捐スルニ非レハ到底所期ノ目的ヲ達シ難カルヘキ旨ヲ答
ヘタルニ依リ政府モ之ヲ諒トシテ評議ノ上右ノ如ク赤十字
社ノ事業トナスノ挙ニ出テタルモノナリトノコトナリ

且又帝國ノ財政經濟上ノ國際的信用カ震災ニ依リテ少シモ
影響ヲ受ケサルコトハ当国人一般ニ之ヲ知悉驚歎シ居リ現
ニ先年在東京伊国大使館ニ在勤シ現ニ外務大臣官房長タル
Barone Russo ノ如キ新聞記者トノ会見談中ニ口ヲ極メテ
此ノ事ヲ激賞シオリ(別信公第一四九号報告)当国人一般
ニ寧ロ羨望ニ堪ヘストノ感アルカ如クナルト共ニ物質的義
捐ノコトハ他ノ富強諸国ノ如ク氣乗リセサルモノノ如ク認
メラレタリ

叙上ノ状勢ニ鑑ミ本使ニ於テハ精神的及物質的共ニ先方ヨ
リ自發的ニ当方ヘ發露シ来ル同情ニ対シテハ鄭重ニ礼ヲ尽
シテ之ニ謝意ヲ表シ且必要ニ応シ充分協力又ハ便宜ヲ計ル
コトニ努ムルモ我ヨリ進ンテ寄付ヲ促ス底ノ措置ハ慎重ニ
注意考究ノ上斯ル措置ニ出ルモ實際ノ効果少ク却テ不結果
ニ終ル虞アリシニ付之ヲ差控ユルコトニ決シタリ、其他耐
震耐火家屋ノ建築、技師ノ派遣、労働者ノ仕向ケヲ始メ防
寒用品寝具ノ廉売等ニ関シ種々申込タル間合セ来タルモノ
夥多ナリシカ是等ハ五六件除ク外ソレソレ此機會ニ於テ自
己ノ技術勞力及物資等ヲ売込マントスル趣旨ヲ含ミ同情モ
アルハ勿論ナルモ之ト共ニ利益ヲ目的トセルモノ多ク而モ

多クハ到底行ハルヘキ見込ナキモノナリシヲ以テ特ニ稟申
シタルモノノ外ハ一々報告ヲ差控ヘ申出ニ対シ相当辭令ヲ
以テ断リ置ケリ
尚貴電合第三〇五号寄贈物品価格評価ニ関シ館員ニ対スル
赤十字本社ノ談話ニ依レハ右評價明細書ハ同社ヨリ在東京
伊国大使ヲ通シ日本赤十字社ヘ報告スル管ナリトノ事ニ付
キ右御含ミ置キ相成リタシ
右及報告候也

四五 十一月二十日 在白人安達大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

ベルギー国上下両院ノ本邦震災ニ対スル哀悼

表意ニ関スル件

第二四六号 (十一月二十一日接受)

情報

当国議會ハ上下両院共十三日開会シタカ両院議長共本邦震
災ニ付同情ノ演説ヲナシ右両議院ノ名ニ於テ哀悼ノ意ヲ表
スル旨ヲ提議シ全員ノ賛同ヲ得タ又外相ハ下院ニ於テ災害
カ非常ナ慘禍ヲ呈シタコト政府ハ逸早く救援ニ努メタコト
ヲ述ブルト共ニ日本政府カ災害中日本ニ居タ白人國人ニ対シ

八 関東大震災関係 四五二 四五三 四五四

保護ヲ加ヘタコトヲ感謝シタ右ニ対シ本使ハ不取敢謝意ヲ述ヘテ置イタ

四五二 十一月二十六日

伊集院外務大臣ヨリ
在本邦白国大使宛

白国政府及ビ議會ノ震災同情表明ニ対シ感謝

ノ意伝達方依頼ノ件

欧二普通第六七号

以書翰致啓上候陳者貴国上下両院議長カ這次震災ニ関シ日本国民ニ対シ白国国民ノ懇篤ナル同情ヲ表示セラレ且ツ外務大臣 Jagger 氏カ白国政府ノ名ニ於テ右議會ノ表意ニ参加セラレシ趣今般貴国外務大臣ヨリ電報ニ接セラレシ旨本月十七日付貴翰第八四号ヲ以テ御通報相成致敬承候
本大臣ハ右貴国政府及議會ノ表示セラレタル同情ニ対シ帝國政府並国民ノ名ニ於テ茲ニ深厚ナル感謝ノ意ヲ表シ候条可然御伝達相成度此段申進旁々本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

四五三 十二月十五日

伊集院外務大臣ヨリ
在漢口林總領事宛

義捐金寄贈者ニ対シ謝意表明ノ件

八二号ノ通処理アリタシ)

前記ノ次第ハ口頭ニテ貴官ヨリ外交総長ニ内話シ支那人ノ被害ハ全然卷添のニ發生シタル次第ナルコトヲ十分ニ諒解セシムルト共ニ帝國政府ハ此種事件ノ發生ヲ深く遺憾トシ居ル次第ヲ申添ヘラレタシ
在支各領事ヘ転電アリタシ

四五五 九月十一日

在中国芳沢公使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

在留中国人被害事件ニ付中国当局ニ内告ヲ見

合セ方意見具申ノ件

第八〇七号

(九月十二日接受)

貴電第五三一号在京支那人傷害事件支那側ニ内告方御訓令アリタル処右ノ如キ事件ハ非常困乱ノ際ニハ十分有リ勝ちノコトニシテ被害ノ程度モ輕微ナル様察セラレ未ダ当方面ニハ何等右ニ関スル報道ナク他日外間ニ洩ルルコトアリトスルモ如何様ニモ弁明ノ方法アルベク殊ニ御承知ノ通り顧外交総長ハ性質淡泊ナラヌ故此際本件ヲ内告スルモ当方ノ衷情ヲ諒トセザル而已ナラズ却テ之ヲ逆用スルヤモ計ラレズ旁々右御同感ナルニ於テハ本件内告ハ姑ク見合スコトト

八 関東大震災関係 四五五 四五六

六二六

亜一普通第一二〇号

漢口外国居留民会ヨリ義捐金寄贈ノ件ニ関シ十一月二十三日付公信第四五九号貴信(金券添付)ヲ以テ御報告ノ趣了承第一回分ノ釐金ニ対シテハ往電第八一号ヲ以テ謝意伝達方申進置候処今回ノ分ニ対シテモ同様本大臣ノ深厚ナル謝意伝達方可然御取計相成度此段為念申進候也

2 中国人等被害関係

四五四 九月八日

山本外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

在留中国人学生ノ誤認ニヨル被害ニ関シ中国

側ニ内告ノ上遺憾ノ意表明方訓令ノ件

第五三一号

上海宛往電合第一八二号ニ関シ

震災ノ際在留支那人中言語不通等ノ為鮮人ト誤認セラレ興奮セル市民ノ為危害ヲ加ヘラレ負傷セル者アルニ付(只今ノ処少数ノ見込)非常混乱ノ際ナルニ拘ラス関係官憲ニ於テ民間団体ト共力シ在留支那人ノ救恤及保護方ニ付特ニ最善ノ努力ヲ為シ居リ最早危険ナシ(以上上海宛往電合第一

致シタク貴方ニ於テモ支那側代表者ニ対シ何等本件ニ言及セラレザル様御配意アリタシ尤支那側ニ対シ何時弁明ノ必要生ズルヤモ計リ難キニ付兎ニ角被害ノ程度情況等詳細速ニ御電示アリタシ將又右ニ関連シ今回ノ変災ニ際シ他外国人ノ安否並ニ救助ノ状況等ハ相当報道多キ所支那人ノ状況並ニ救助ニ関シテハ伝ヘラルル処甚ダ少ナキハ当国人心ニ面白カラザル影響ヲ及スノ虞アリ後日前記傷害事件等ノ問題トナリタル時不利勘ナカラザルベシト存ズルニ付テハ此際支那人救助ニ関スル報道ノ十分当方面ニ伝ヘラルル様特ニ御取計ヒアリタシ

四五六 九月十五日

山本外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

中国人被害状況ニ関スル情報通報並中国側ニ

対スル内話方再訓令ノ件

第五五五号 極秘

(上海宛往電合第一八二号鮮人被害事件ニ関スル情報ハ諸般ノ關係上極ク大体ニ止メタル次第ナルカ實際ノ状況ハ意外ニ重大ニシテ震災當時流言ニ誤ラレ極度ニ興奮セル民衆ノ鮮人ニ対スル迫害ハ極端ニ走り頗ル殘忍ナル方法ニ依リ

六二七